

平成 22 年度 体育センター長期研修研究報告

学習形態・教材を工夫して習得する体育理論

—運動領域での活用を求めて—



神奈川県立体育センター

長期研究員

小田原市立白山中学校 稲毛真弓

目次

第1章 研究を進めるにあたって

1	研究主題	1
2	主題設定の理由	1
3	研究の目的	1
4	研究の仮説	2
5	研究の内容と方法	2
6	研究の構想図	3

第2章 理論の研究

1	なぜ体育に「知」の学習が必要なのか	4
2	体育理論の意義	4
3	生涯スポーツを志向する「運動目的論」	4
4	これからの体育学習と「体育に関する知識」の重要性	5
5	新しい体育の基本的性向	5
6	体育理論の改訂の趣旨と要点	6
7	体育理論の学習内容	6
8	体育理論の題材設定と発問づくり	8
9	発問の留意点	8
10	学習指導の工夫	10

第3章 検証授業

1	研究の仮説	12
2	検証の方法	12
3	体育理論の学習指導計画	13
4	体育理論の授業の実際	24
5	検証授業の結果と考察	35
6	指導の工夫とその効果及び課題	71
7	授業全体を振り返って	73

第4章 研究のまとめ

1	研究の成果と課題	75
2	今後の展望	75
3	最後に	76

〈引用・参考文献〉

第1章 研究を進めるにあたって

1 研究主題

学習形態・教材を工夫して習得する体育理論
－運動領域での活用を求めて－

2 主題設定の理由

平成20年3月に中学校学習指導要領が改訂され、「生きる力」を育むという現行の学習指導要領の基本理念はそのままに、この理念の実現にむけてこれまでの学校現場等での課題を踏まえ、指導面での具体的な手立てを確立することを目指していこうとしている。保健体育科に関しては、武道・ダンスの必修化や体育に関する知識が体育理論と改められることとなり、運動やスポーツの合理的な実践を通して、生涯にわたって運動に親しみ豊かなスポーツライフを送るために必要とされる基礎的な知識を定着させることがいっそう求められることとなった。¹⁾

また、中学生期の体育学習は、生涯スポーツの即実践であると同時に卒業後の実践諸能力の獲得時期（準備）²⁾として大変重要な役割を担っている。

さて、私のこれまでの授業を振り返ってみると、生徒に「記録の向上」や「試合への勝利」を味わわせることが最も良い手段だと考え、技能の習得を中心に学習指導を行ってきた。そのため生徒には、「勝った、負けた」、「記録が伸びた、伸びなかった」という感想が残るだけで授業が終了し、運動やスポーツの本質的な魅力を感じ取らせることをしてこなかったように感じる。また、体育に関する知識の授業では、教科書に沿って講義中心の授業を行ってきた。その結果、生徒は考える場面が少なく、体育に関する知識の授業に対してあまり良い印象を持っていないことも事実であった。これらのことは、自分自身の体育の授業に対する捉え方が不十分であったことや、生徒に対して興味ある授業づくりを提供してこなかったことに原因があると考えられる。

そのような中、中学校では、運動領域に関する知識の内容と、体育に関する知識の内容が整理、明確化され、体育に関する知識は「体育理論」の名称に改められ、各学年3単位時間以上実施することとなっている。今後は、豊かなスポーツライフ実現にむけての科学的知識の基礎を培い、運動やスポーツに対する理論を他の分野に関連付けていく力が益々求められてくるものと考えられる。

そこで今回の研究では、学習形態の工夫や教材の工夫をすることによって、興味ある授業づくりを提供し、体育理論の学習内容を評価の観点から生徒に習得させるようにしていきたい。また、体育理論で得た知識を運動領域で活用できる力を培いたい。それが今後、積極的に運動やスポーツを実践する力となり、豊かなスポーツライフを実現できるものと考え、本主題を設定した。

3 研究の目的

本研究は、学習形態や教材を工夫した体育理論の学習内容の習得と、体育理論で得た知識の運動領域への活用の実践例を提示し、中学校体育授業の改善に向けた基礎資料を得る。

4 研究の仮説

学習形態や教材の工夫をすることにより、体育理論の学習内容を習得することができるであろう。また、体育理論で得た知識を運動領域（ハンドボール）の学習活動で活用することができるであろう。

5 研究の内容と方法

(1) 本研究を進めるにあたって、理論的裏付けを文献・資料を基に行う。

- ア なぜ体育に「知」の学習が必要なのか
- イ 体育理論の意義
- ウ 生涯スポーツを志向する「運動目的論」
- エ これからの体育学習と「体育に関する知識」の重要性
- オ 新しい体育理論の基本的性向
- カ 体育理論の改訂の趣旨と要点
- キ 体育理論の学習内容
- ク 体育理論の題材設定と発問づくり
- ケ 発問の留意点
- コ 学習指導の工夫

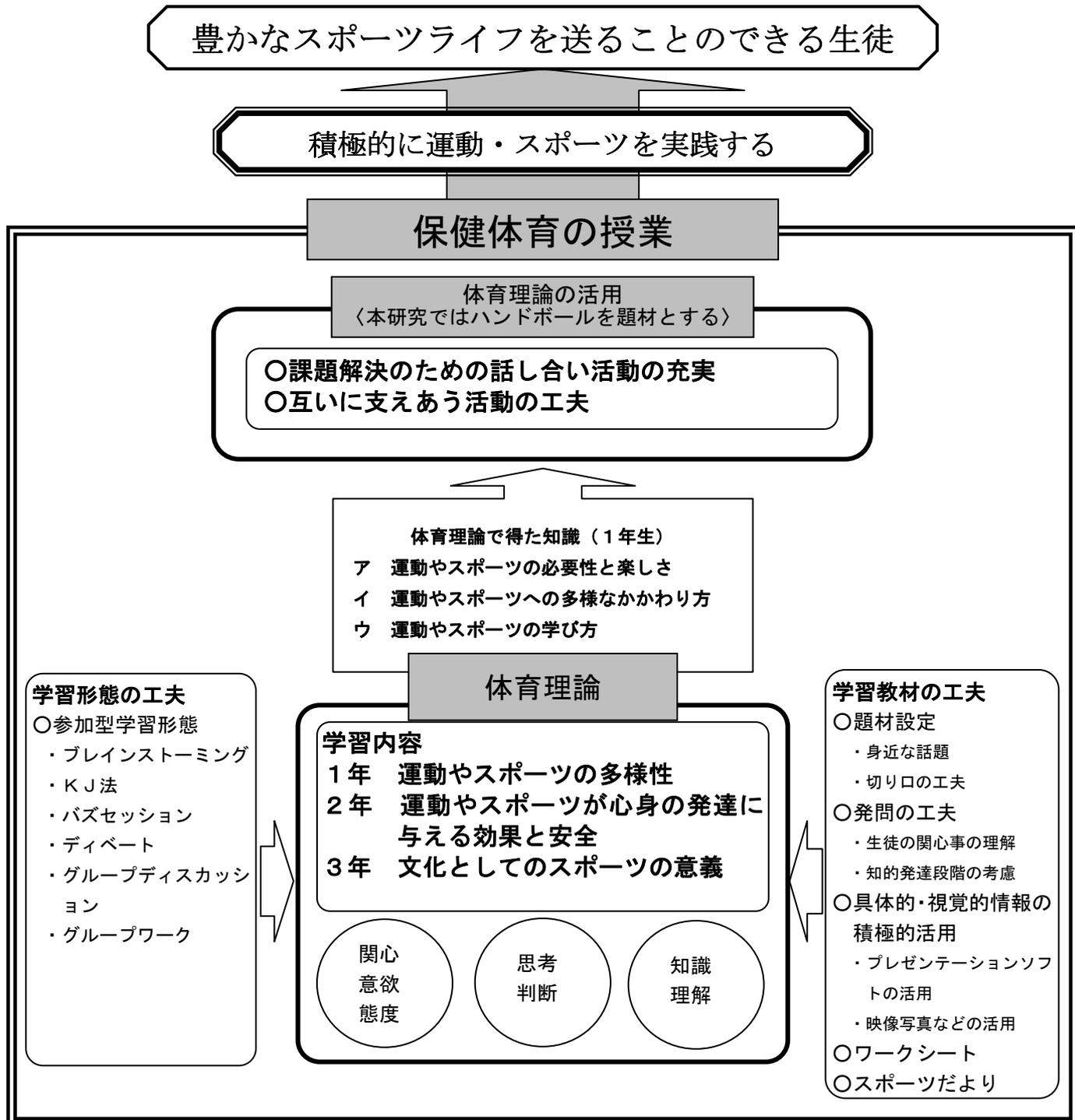
(2) 理論研究を基に学習計画を立て、実践研究を行い、仮説の有効性を検証し授業全体を振り返る。

- ア 研究の仮説
- イ 検証の方法
- ウ 体育理論の学習指導計画
- エ 体育理論の授業の実際
- オ 検証授業の結果と考察
- カ 指導の工夫とその効果及び課題
- キ 授業全体を振り返って

(3) 以上の理論研究と実践研究を基に研究のまとめを行う。

- ア 研究の成果と課題
- イ 今後の展望
- ウ 最後に

6 研究の構想図



〈白山中学校の生徒の実態〉

- 保健体育の授業が好きな生徒が3学年とも8割以上
- 3学年とも運動・スポーツは好きだが、自発的な活動があまりみられない。
- 運動やスポーツにあまり関心のない生徒1年 14% 2年 16% 3年 20%と学年が進むにつれ増加傾向にある。
- 2・3年生は保健体育の授業の中で「体育に関する知識」を好ましく思っていない。

〈体育に関する知識における授業の課題〉

- 講義中心の授業
- 時間確保が難しい。
- 興味ある授業づくりができていない。

〈授業の課題〉

- 技能の習得を中心に授業を展開
- 運動やスポーツの本質的な魅力を感じ取らせることをしてこなかった。

第2章 理論の研究

1 なぜ体育に「知」の学習が必要なのか

友添は、「体育は運動やスポーツに関わる文化を媒介にして、それを伝え変革し、創造していく過程で学習者が自らを形成（身体形成・人格形成）していく教科である。広義のスポーツの文化に働きかけながら自らを形成していくこと、そのプロセスには、自らの学びを相対化していくための知的な学習は不可欠である。運動やスポーツを『学ぶ』には、運動やスポーツを知的に学ぶことが必要です。私たち体育に関わる教師の仕事は、単にプレイとしてのスポーツを消費するスポーツの消費者を育てることにあるのではなく、子どもたちの未来という大きな視点に立って、スポーツという人類が生み育ててきた文化の創造者を育てることにあると思われる。

私たちのスポーツについて強く深く考え、スポーツという文化を新たに創造していくために、いま、体育には『知』の学習が求められている。」⁴⁾と述べている。

学習指導要領の保健体育の目標を目指していくためには、運動領域の実践だけでなく、「知」の学習も合わせて行うことで力が付き、運動やスポーツに親しむ資質や能力が養えると考える。これからの体育学習には大切な学びとなる。

2 体育理論の意義

中塚は、「体育理論の本当の意義は、実技の補足といった程度ではなく、実技では無理だが、体育で扱わねばならない重要な部分があるということなのである。例えば、スポーツそのものについての考え方や、現代のスポーツについての情報のとらえ方などであり、これらの内容は文化としての体育・スポーツの理解に含まれる。そして、『運動文化』『文化としてのスポーツ』とは、これらすべてを含むもので、生涯にわたって自ら主体的に運動に取り組む人間を育てるためには、このような学習が必要なのである。

生徒たちの周りには、健康や体力、体育やスポーツに関する様々な情報が誤った情報も含めて氾濫している。それらの情報を正確に判断し、行動する力を身につけさせることこそが『体育』に、そして体育『理論』に要求されているのである。」⁵⁾と述べている。

このような考えを意識して授業を行うのか、意識せずに授業を行うのでは大きな差が出てくるであろう。体育理論の意義を再確認し、授業に臨まねばならない。

3 生涯スポーツを志向する「運動目的論」

長見は、「生涯スポーツという概念は、運動を行う全ての人を対象にしている。幼児期から熟年期に至る各ライフステージをつなぎ、現代スポーツにおいて二極化している高度化スポーツと大衆スポーツを結び付けようとする概念なのである。

したがって、生涯スポーツを志向する『運動目的論』の体育は、すべての子どもたちに対して、多様な運動のおこない方、志向性を視野に入れ、多様な運動のおこない方が拓かれていく可能性を追求する基礎的な学習を保証することが大切になるのである。

また、生涯スポーツへのかかわり方は、プレイヤーとして運動を『する』人だけを対象としていることにとどまらない。『みる』『ささえる』などといったかかわり方も重要な運動参与の形態なのである。コマーシャルリズムやメディアが先行する中で行われているプロスポーツに対して、私たちはどのように『みて』『ささえて』いくことが大切なのであろうか。

私たちは受身の立場でスポーツをみたり、参加するだけでなく、自らが主体となってスポーツを創りあげていかなければならないのであり、こういった主体的な運動参与が生の実感を生み出し、かつ運動・スポーツ文化の質的な発展につながるのである。したがって、生涯スポーツを志向する『運動目的論』の体育では、主体的な運動参与を可能とする、『する』『みる』『ささえる』運動へのかかわり方を内容とする学習を組織することが重要となってくるであろう。」⁶⁾と述べている。

以上のように、運動目的論の概念や生涯スポーツの概念を念頭に持ち、授業を構築していくことが重要になってくると考える。

4 これからの体育学習と「体育に関する知識」の重要性

岡崎は、「生涯スポーツの一環としての体育は、運動やスポーツの発達刺激としてだけではなく、人間の存在に欠くことのできない文化として捉え、運動やスポーツに対するより積極的な取組みやその本質や価値への正しい認識、運動やスポーツをよりよく享受していくための意欲や能力を育成しようとする体育である。また、これまでのような運動の技能の習得と習熟を中心とする体育ではなく、運動の本質的な楽しさや喜び（機能的特性）の体験を保証する体育であり、自分たちの能力や志向に合うように運動環境を整えたり、運動の行い方や楽しみ方を工夫することを大切にする体育である。

ひとりひとりの生徒が、運動やスポーツをするという自らの行為の意味やその合理的な行い方を身に付けていくためには、一方では、運動やスポーツ運動の実践のなかにルール of 修正の仕方や練習の仕方、集団的な活動の仕方など運動の行い方や楽しみに関わる学習が位置づけられることが必要になるとともに、他方で、より一層、運動やスポーツをめぐる理論や科学的な認識を深め、自覚的な運動の実践を動機づけていくための学習が大切になってくる。しかし、運動やスポーツの理論や科学の学習は、これまでのような実践と遊離したただ単に覚えることだけの知識にとどまっているだけでは意味がない。生きて働く知識として機能するようにすることがきわめて重要であり、そのためには具体的な運動の実践と融合あるいは統合していく（された）学習でなければならない。」³⁾と述べている。

このように、体育理論が単に覚えるだけの知識にとどまらないように、運動領域での活用を視野に入れた学習計画を立てていきたい。

5 新しい体育の基本的性向

島崎は、「生徒たちにとっての体育学習は『生涯スポーツの即実践であると同時に卒業後の実践諸能力獲得の時期（準備）』重層統合期として意味深い経験を創造・改造するときなのである。そのように転換する新たな体育理念を具体化し、組織化するために、体育のカリキュラムが創成されなければならないのである。」²⁾と述べている。

このような考えを基に、学校体育の持つ役割を十分理解し、授業を構築していきたい。

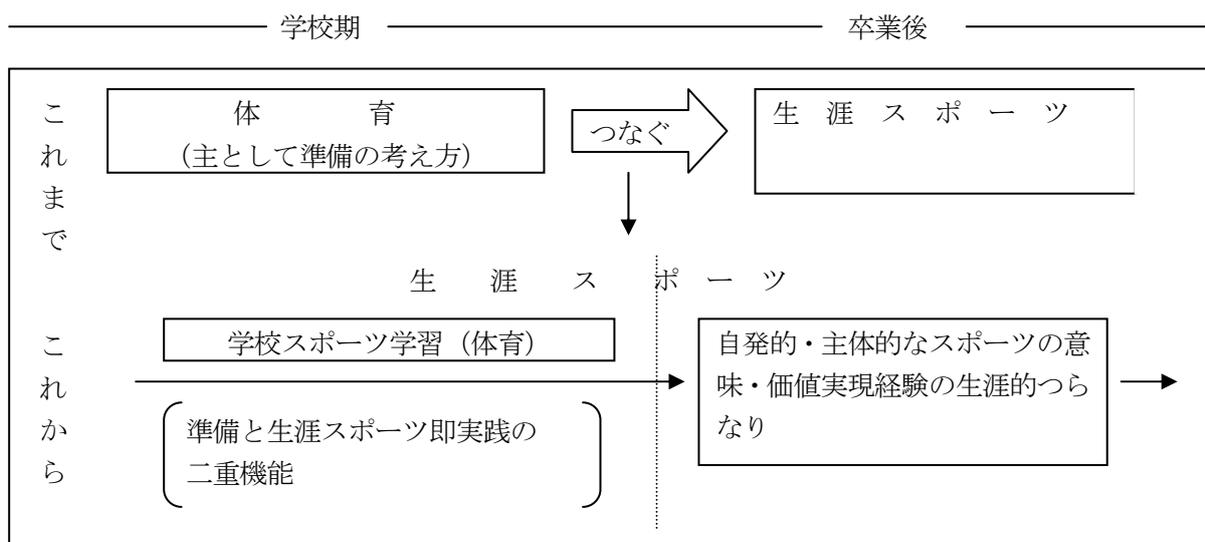


図2-1 体育と生涯スポーツのかかわりの構造〈つなぐ〉から〈一環へ〉²⁾

注：体育をスポーツ（含、体操・ダンス）を目的・内容とする教育にとらえると、生涯の各時期における自発的・主体的スポーツ実践（意味・価値の実現経験）の全過程に体育は統合一環化さ

れる。ただし、社会制度としての体育は、意図的・計画的な基礎的学習を保証する機能を有するので、学校期は二重機能（準備と即実践）を果たす。これまでは、準備の考え方のみ強調されたので「つなぐ」とされたとみる。

6 体育理論の改訂の趣旨と要点

友添は、「平成 17 年の中央教育審議会の答申の『我が国の高等教育の将来像』では 21 世紀は、新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域で飛躍的に重要性を増す『知識基盤社会』（Knowledge-based society）の時代であると指摘した。この考えは平成 20 年 1 月に出された『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善について』の答申でも引き続き指摘され、学習指導要領改訂に大きく反映した。このことを受けて、中学校保健体育科の改訂でも、知識に関する領域については、運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって運動に親しみ豊かなスポーツライフを送るために必要とされる基礎的な知識を定着させることが一層求められることとなった。また、高等学校保健体育科の改訂では、知識に関する領域については、運動やスポーツについての総合的な理解を深め、実践に生かすことが求められていることから、中学校の内容を踏まえた系統性のある指導ができるよう指導内容が明確に示された。

このような改訂の趣旨を踏まえ、中学校の体育理論は、指導すべき知識の内容の精選と基礎的な知識の確実な定着、高等学校への接続を考慮して、領域名が『体育に関する知識』から『体育理論』に改められた。また、中学校の体育理論では、各運動領域の『知識、思考・判断』との内容の整理を図って、各運動領域に共通する内容やまとまりで学習することが効果的なものを精選し、高等学校との内容の系統性や発展性を考え新たに内容が構成された。同様に高等学校の体育理論でも、中学校の内容を踏まえた系統性のある指導ができるように、また、基礎的な知識は、意欲、思考力、運動の技能などの源となるものであり、確実な定着を図ることが重要であるとの考えから、各領域に共通する内容やまとまりで学習することが効果的な内容に精選されるとともに、各領域との関連で指導することが効果的な内容については、各領域で取り上げるよう整理され、新たに内容が構成された。

新たな内容で構成された体育理論では、各運動領域との関連を図りながら、体育理論で学習した内容が生徒の実際の生活や将来の生活に生かされるように指導することが求められている。

これまでも中学校の『体育に関する知識』及び高等学校の『体育理論』は、すべての生徒に履修させることとなっていたが、今次の改訂では、これまでと同様、すべての生徒に履修させるとともに、中学校では授業時数を各学年で 3 単位時間以上、高等学校では各年次で 6 単位時間以上を配当することとなっている。また、運動の各領域との関連で指導することが効果的な各領域の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、課題解決の方法などの知識については、各領域の『3) 知識、思考・判断』で示されている。このことから、体育理論では、主に概念的、理念的な知識を中心に取り上げ、指導方法の工夫等によって確実に習得させるようにすることが肝要である。」⁷⁾と述べている。

これらの改訂の趣旨と要点を十分理解し、今、生徒たちにはどのような力が必要とされているのか、どのような力をつけていかなければならないのかを再確認し、授業を構築していきたい。

7 体育理論の学習内容

岡崎は、「新しい学習指導要領では、中学校において従来『体育に関する知識』として示されていた領域名称を高校と同様の『体育理論』へと統一し、学習内容の明確化・体系化を意図した改訂が行われた。これにより、中学校から高校へとより一貫した知的側面の学習内容が提案されたといえる。解説に示された具体的な記述をみると、中学校段階で学習したことを高校段階でさらに深めていこうという流れが読み取れる。」⁸⁾と述べている。

この内容を十分理解することや、中学校から高等学校への接続を踏まえた授業を構成する必要があると考えられる。

表2-1 新学習指導要領に見られる体育理論の内容⁸⁾

学年	内 容	解 説
中 学 校 1 ・ 2 年	(1) 運動やスポーツの多様性 ア 運動やスポーツの必要性和楽しさ イ 運動やスポーツへの多様なかわり方 ウ 運動やスポーツの学び方	運動やスポーツの合理的な実践を通して、楽しさや喜びを味わい、それらを生涯にわたって豊かに実践できるようにするためには、単に運動やスポーツに対して受動的に楽しむだけでなく、人はなぜ運動やスポーツを行うのかといった運動やスポーツの必要性を理解したり、ライフステージに応じた運動やスポーツの多様な楽しみ方や学び方について理解できるようにする必要がある。
	(2) 運動やスポーツが心身の発達に与える効果と安全 ア 運動やスポーツが心身に及ぼす効果 イ 運動やスポーツが社会性の発達に及ぼす効果 ウ 安全な運動やスポーツの行い方	運動やスポーツの合理的な実践を通して、生涯にわたり豊かに運動やスポーツに親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進を図るためには、その意義や効果、安全に運動やスポーツを行う必要性やその方法について理解できるようにする必要がある。
中 学 校 3 年	(3) 文化としてのスポーツの意義 ア 現代生活におけるスポーツの文化的意義 イ 国際的なスポーツ大会などが果たす文化的な意義や役割 ウ 人々を結び付けるスポーツの文化的な働き	体づくり運動、ダンスや野外教育などを含む広義のスポーツが、人々の生活や人生を豊かにするかけがえない文化となっていること、また、そのような文化としてのスポーツが世界中に広まっていることによって、現代社会のなかで重要な役割を果たしていることなどについて理解できるようにする必要がある。
高 等 学 校	(1) スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴 ア スポーツの歴史的発展と変容 イ スポーツの技術、戦術、ルールの変化 ウ オリンピックムーブメントとドーピング エ スポーツの経済効果とスポーツ産業	運動やスポーツの合理性、計画的な実践を通して、知識や技能を深め、楽しさや喜びを味わい、それらを生涯にわたって豊かに実践できるようにするため、単に運動やスポーツを受動的に楽しむだけでなく、スポーツはどのような発展や変化をしてきたのか、どのような役割を果たしているのかといったスポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴などについて理解できるようにする必要がある。
	(2) 運動やスポーツの効果的な学習の仕方 ア 運動やスポーツの技術と技能 イ 運動やスポーツの技能の上達過程 ウ 運動やスポーツの技能と体力の関係 エ 運動やスポーツの活動時の健康・安全の確保の仕方	生涯にわたって運動やスポーツを継続するためには、技術の特徴に応じた学習の仕方があることや技能を高めるために、何をどのように取り組めばよいのか、健康・安全をどのように確保するのかなどの運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解できるようにする必要がある。
	(3) 豊かなスポーツライフの設計の仕方 ア 各ライフステージにおけるスポーツの楽しみ方 イ ライフスタイルに応じたスポーツとのかかわり方 ウ スポーツ振興のための施策と諸条件 エ スポーツと環境	卒業後においても自分に適した生涯にわたる豊かなスポーツライフを設計していくためには、各ライフステージやライフスタイルに応じたスポーツへのかかわり方の特徴や条件があることやそれらの特徴や条件に応じて無理なくスポーツを継続するための計画を立てること、生涯スポーツの実践を支える環境を確保するためのスポーツ振興に向けた施策や条件、スポーツが及ぼす環境への影響に配慮することがあることについて理解できるようにする必要がある。

8 体育理論の題材設定と発問づくり

高橋らは、「体育理論の授業では、テストのための知識を教えるだけの授業であったり、高度な専門用語や詳細な知識の記憶量を要求するだけの授業であったりして良いはずがない。つまり、学習内容の習得に向けてどんなテーマ（題材）を選ぶか、それをどんな切り口で学習者に提供するかが大いに問題になる。また、どんなによい題材を選んだとしても、その題材の世界に学習者を引き込むための発問が用意されていなければ授業は成功しない。題材設定と発問づくりの良否が、その後の学習に決定的な影響を及ぼすことになる。」⁹⁾と述べている。

(1) 題材設定の視点

ア 題材の収集⁹⁾

このような2つのルートは、教師の思考の過程の違いを意味しており、基本的には教材づくりのねらいにおいて異なるものではないが、ここではとくに、「下からのルート」による教材づくりを強調したい。なぜなら、学習者である生徒の思考をゆさぶり、「物の見方を鍛える」ところを大切にしたいからである。問題意識をもって接すると、その素材を活かす方法が見えてくるのである。題材はあくまでも学習者のためであることを忘れてはならない。それゆえ、大人の視点に立って特定の教養を教え込むようなことは避け、学習者の思考を深め、新しい発見へと導き、啓発していくことができる可能性を持った題材を用意したい。

また、同じ視点の題材であっても、生徒たちの知的発達段階に合わせて、学習活動の対象となる課題を発展させていく必要がある。

イ 発問づくりの重要性⁹⁾

運動学習でも「発問」は大切であるが、体育理論の授業では、題材に対する生徒の問題意識を喚起して思考を深め、探究心を育てていくための重要な鍵となる。そのため、生徒の知的発達段階や関心事を十分に把握しておく必要がある。

体育理論では学習内容は明確にされていることから、その学習内容をどのような題材を選んで習得させるのか、また発問から引き出せるのかが重要なポイントになると考えられる。生徒の実態に合った題材の収集や、発問づくりに心がけたい。

9 発問の留意点

県立体育センター作成の資料では、「授業を活性化し、魅力あるものにするためには、場面に応じた適切な問いかけを行うことや、自らが考えるきっかけを与えることができるような問いかけが大切である。さらに、児童生徒が答えやすい受容的な雰囲気をつくることも、自発的な発言を促す大切な要素となる。」¹⁰⁾とある。

その内容は表2-2のように示されている。このようなことに留意しながら、クラスの状況や雰囲気をしながら、授業を進めていきたい。

表2-2 クラスの状況、場面に応じた発問の留意点¹⁰⁾

	留意点	解説
クラスのコミュニケーションが十分でない初期の段階	①質問は、特定の児童生徒に偏らないようにする。	質問されない生徒は疎外感を感じてしまう。
	②目立たない児童生徒に意識的に声をかけたり、質問をしたりする。	絶えず、全ての生徒に気を配っているという教師側の姿勢を伝える。
	③1人で考えさせた後、二人組みで話し合いをさせ、その後クラスの意見を聞くといった段階を経る。	自分の意見をまとめ、少数で話し合い、全体へといった手順をとることで、積極性を引き出す手立てとして有効。
	④質問後「待つ」時間をとる。	考えている最中に、次の生徒に発問が移った場合、答えられなかった自らへの失望感とだまっていればしのげるという2つのネガティブな要素となる可能性がある。
	⑤生徒の意見に対して、その場で批判や否定をしない。	不完全な回答でも、受け入れてもらえた安心感は次の機会への勇気となるが、否定されたり、嘲笑されたりすると答える意欲がなくなる。
	⑥質問の意図が伝わらない場合、噛み砕いたり、例をあげたり、言い換えたりして質問をし直す。	理解力、経験値の違い、大人の感覚との違いなどで、何を聞かれているか分からない場合や、わからないことが明らかになる恥ずかしさなどの感情に対して手立てをすることで、答えられたという実績を作る必要がある。
考えを深める段階	⑦フォローアップの質問（どうして賛成なの？）をして考えをさらに引き出すことを意識する。	意見が十分に伝えられていない場合、授業者からの更なる問いかけで考えを深めることも重要な技術。
	⑧学習内容や場面に応じた質問の種類を用意する。	発問には意図があり、発問者自身が自覚することが大切。発問の意図が伝わらなければ、答える意欲が低下する。（リラックスさせる、復習をさせる、応用的能力をくすぐる、複数の回答が予想されるといった意図）
	⑨複数の意見をまとめるような要約をさせる。	他人の意見を積極的に聞く姿勢を持たせるためには、「クラスの意見をまとめるとどうなりますか？」といった発問が有効。
参加意識を高める段階	⑩クラスの意見を調査する。	「今の意見に賛成の人は？」というように、所々で全体の意思を問いかけることで参加意識が高まる。
	⑪生徒自身に次の発言者を選ばせてみる。	「〇〇さん、次に答える人を選んでください。」など、積極的な姿勢が見られる段階では生徒による主体的な発言を促す。
	⑫自分たちの意見を擁護するような場を持たせる。	自分たちの意見を反対の意見から擁護する意見を導き出す。
	⑬自分の考えを発言させるようにする。	「どうしてそのようになったか説明してください。」などフォローアップの質問で考えを導き出す支援をする。
	⑭生徒自身が質問を作るような仕組みを取り入れる。	自分たち自らの質問を考えさせる。
	⑮生徒が答えるきっかけを作る。	「この問題の答えはひとつではありません」「もっといろいろ聞かせてください」などの発問を。

10 学習指導の工夫

(1) 学習指導の考え方

山本は、「これまでの『体育に関する知識』の学習は、知的理解の学習であることもあって、どうしても教師中心の授業展開になりやすく、しかも講義中心で、生徒は先生の説明を聞き、板書事項をノートに取るだけという授業スタイルに陥りやすいものであった。

しかし、これからの『体育に関する知識』の学習では、ただ単に生理学や心理学、解剖学などの知見を知るだけにとどまらず、これらの知識を実際の場面で活用できることが重要になってきている。したがって、これまでのような生徒受動型で知識注入型の授業のあり方からの転換を図り、生徒を中心とした問題発見的・課題探求的な学習活動を中心にして授業が進められるようになることが大切だといえよう。」¹¹⁾と述べている。

このように、生徒自らが問題を発見したり、課題に気付くような学習活動を中心に授業展開を工夫していきたい。

(2) 学習形態の工夫

宇土は、「学習者の集団関係の相違によってとらえられる学習形態には、学級を単位としてとらえられる一斉学習や小集団にわかれての小集団(グループ学習)、さらに個々に分かれての個別学習—プログラム学習・個人学習などがある。

小集団学習(グループ学習)は、集団関係が成立する小グループを構成し、その中で、他者とふれ合いながら、望ましい民主的人間関係を形成しようとするところに特徴がある。

体育の学習形態については、教師主導による一斉指導の形から、子ども相互の人間関係をよりどころに運動の学習を効果的に図ろうとするグループ学習の形へと、その変化はほぼ、一般的になってきている。さらに今日では、体育の考え方も運動手段論から運動目的・内容論へと転換しつつあり、合わせて個別化・個性化教育の思潮により、学習形態に新たな工夫が求められている。こうした流れの中で学習形態に関する課題は、個人差を大事にしながら、『運動と子どもとの好ましいかかわり方』という視点から機能的に考える方向にある。一人ひとりの学習者が、現在持っている力に応じたためあてをそれぞれもち、めあての自発的・自主的解決を図りながら運動の楽しさを求めることができる柔軟な学習グループをどのように組織することができるかがその工夫の着眼点となる。」¹²⁾と述べている。

これは、体育学習を中心に述べられたものであるが、体育理論の授業にも活用できると考えられる。学習内容、生徒の実態などを踏まえ、学習形態の工夫を行っていきたい。

(3) 参加型学習の手法

県立体育センター作成の資料では「参加型学習は、人権教育、環境教育などで積極的に取り入れられている手法である。保健学習における参加型学習の目的は、知識の定着、実践的な理解のための生徒の主体的な学習を促すことにある。それぞれの長所と短所を理解した上で、効果的に取り入れることが必要である。」¹⁰⁾と述べている。

今回の授業では、様々な手法を取り入れて授業を行っていくが、ねらいや学習場面に合わせた手法が取り入れられるように工夫を行っていきたい。

ア ブレインストーミング¹⁰⁾

自由な発想で討議し、創造的に問題解決を目指す手法です。5～10人くらいのグループで、自分の意見をできるだけシンプルな形でだします。その中では、良い悪いという判断をせず、自由に、アイデアの量をもとめ、お互いのアイデアを改善したり、結合したりすることができます。そこでだされた意見を集約して発表することも行います。「イメージを整理する」、「課題を解決するアイデアを出す」、「課題を確認する」などの場面で活用できます。また、発言がスムーズにできない場合には、カードに書き込んで出し合うといった方法もとることができま

す。

イ カード操作による分類¹⁰⁾

カードに書き出された要素をそれぞれの共通した項目に着目して分類をし、それぞれに題名(テーマ名)をつけます。その分類の作業によって課題を整理したり、対応策を考えたりします。

ウ ロールプレイング¹⁰⁾

学習の内容に応じて場面設定をし、役割を分担して演技することで、様々な立場の人の意見や考えを理解し、多様な視点で育てるのに役立ちます。演技遂行にのみ集中するのではなく、演技を振り返るフィードバックで学ぶことを大切にします。

エ グループディスカッション¹⁰⁾

あらゆるテーマについて、自由に意見を述べる活動です。それぞれが自分の意見を持ち発言し、またその発言内容についての自分の考えなどを述べ合うことで、思考力の向上を図る。お互いに話しやすい雰囲気作りやディスカッションをうまく進めていくための進行役の配置などを十分に考える必要があります。

オ ディベート¹⁰⁾

あるテーマについて、肯定側と否定側の2つのチームが議論を行い、その結果を審判が判定するという活動です。内容や形式によって効果が現れない場合もあり、教師が内容や形式(全体を2つに分けるだけでなく3人や5人の単位で行うことも可能)を十分に吟味する必要があります。

カ バズセッション¹³⁾

多数の学習者全員の意見や考えを集約しながら進めるときに用いられる、少人数(2名~6名程度)によるグループ討議である。この手法を活用すると全ての学習者の意見を全体の場に出しながら進められるという成就感にもつながる。

(4) 視聴覚教材の利用

県立体育センター作成の資料では、「学習させたい内容を視覚的に訴えることは、生徒に強いインパクトを与えることができ、わかりやすさを高める上で、とても効果的である。指導内容にふさわしい教材を選択し、機会を捉えて活用する。その際にはプリント等を活用し、視覚教材によって気づいた課題や知識の整理を行う」¹⁰⁾とある。

今回の授業では有効な活用ができるように、利用していきたい。

(5) 導入の工夫(アイスブレーキング・ウォーミングアップ)

県立体育センター作成の資料では、「授業における様々な活動を活発に行うためには、クラスが活動しやすい雰囲気作りをすると同時に、学習内容に結び付くような内容で、ゲームをしたりすることで、スムーズな学習活動の役に立つ」¹⁰⁾とある。

このような活動は、生徒に興味や関心をもって取り組ませる為に大切だと考えられる。工夫して導入時に取り入れていきたい。

第3章 検証授業

1 研究の仮説

学習形態や教材の工夫をすることにより、体育理論の学習内容を習得することができるであろう。また、体育理論で得た知識を運動領域（ハンドボール）の学習活動で活用することができるであろう。

2 検証の方法

- (1) 期間 平成22年10月18日（月）～11月19日（金）
- (2) 場所 小田原市立白山中学校
- (3) 対象 第1学年～第3学年
- (4) 単元名 体育理論（第1学年～第3学年） ハンドボール（第1学年）
- (5) 方法
 - ア 単元学習計画立案
 - イ 実態調査分析（予備アンケートや事前・事後アンケートなど）
 - (ア) 予備アンケート 7月
 - (イ) 事前アンケート 9月
 - (ウ) 事後アンケート 11月
 - ウ 授業実践（体育理論第1学年～第3学年 各学年3時間 ハンドボール第1学年 9時間）
 - エ ワークシート・学習ノートの分析（毎時）
 - オ VTRの分析
 - カ 結果の分析
- (6) 分析の視点と方法

表3-1 分析の視点と方法

分析の視点	具体的な分析の観点と方法
(1) 学習形態や教材の工夫をすることにより、体育理論の学習内容を習得することができたか。 第1学年～第3学年	ア 学習形態や教材の工夫が体育理論の授業に有効であったか。 (ア) 事後アンケート結果分析（授業形式について） (イ) 事後アンケートの結果分析（ねらいとした観点との比較について） (ウ) 映像による分析 イ 運動やスポーツに関する関心・意欲・態度は高まったか。 (ア) 事前・事後のアンケートの比較による分析 (イ) ワークシートへの記述内容分析 (ウ) 映像による分析 ウ 運動やスポーツに関する思考・判断は高まったか。 (ア) ワークシートへの記述内容分析 (イ) 生徒が使用した教材の内容分析 エ 運動やスポーツに関する知識・理解は高まったか。 (ア) ワークシートへの記述内容分析 (イ) 事前・事後の単元の確認テストの実施・分析 オ 実際の教師の評価 (ア) 運動への関心・意欲・態度の実際の教師の評価 (イ) 運動についての思考・判断の実際の教師の評価 (ウ) 運動についての知識・理解の実際の教師の評価
(2) 体育理論で得た知識をハンドボールの学習活動で活用することができたか。 第1学年	ア 体育理論で得た知識により、課題解決にむけての話し合い活動ができたか。 (ア) 学習ノート、グループカードの内容分析 (イ) 映像による分析 イ 体育理論で得た知識により、互いに支え合う活動ができたか。 (ア) 学習ノートの内容分析 (イ) 映像による分析

3 体育理論の学習指導計画

(1) 単元の目標

1年

- ア 運動やスポーツが多様であることについて関心を持ち、学習に取り組もうとする。(関心・意欲・態度)
- イ 運動やスポーツが多様であること、学習した知識を活用したり応用したりすることができる。(思考・判断)
- ウ 運動やスポーツが多様であることについて理解し、言ったり書き出したりすることができる。(知識・理解)

2年

- ア 運動やスポーツの意義や効果などについて関心を持ち、学習に取り組もうとする。(関心・意欲・態度)
- イ 運動やスポーツの意義や効果などについて、学習した知識を活用したり応用したりすることができる。(思考・判断)
- ウ 運動やスポーツの意義や効果などについて理解し、言ったり書き出したりすることができる。(知識・理解)

3年

- ア 文化としてのスポーツの意義について、課題を解決するための活動などを通して学習に自主的に取り組もうとする。(関心・意欲・態度)
- イ 文化としてのスポーツの意義について、学習した知識を活用したり応用したりすることができる。(思考・判断)
- ウ 文化としてのスポーツの意義について理解し、言ったり書き出したりすることができる。(知識・理解)

(2) 評価規準

ア 内容のまとめりごとの評価規準

	運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動についての 知識・理解
第 1 ・ 2 学 年	運動やスポーツが多様であること、運動やスポーツの意義や効果などについて、関心を持ち、学習に積極的に取り組もうとしている。	運動やスポーツが多様であること、運動やスポーツの意義や効果などについて、学習した知識を活用したり応用したりしている。	運動やスポーツが多様であること、運動やスポーツの意義や効果などについて理解している。
第 3 学 年	文化としてのスポーツの意義について、課題を解決するための活動などを通して、学習に自主的に取り組もうとしている。	文化としてのスポーツの意義について、学習した知識を活用したり応用したりしている。	文化としてのスポーツの意義について理解している。

イ 単元の評価規準

	運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動についての 知識・理解
第1学年	運動やスポーツが多様であることについて情報を集めたり、意見を交換したりするなどの活動を通して、学習に積極的に取り組もうとしている。	運動やスポーツが多様であることについて、出された意見や集めた情報を分析したり、整理したりしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・運動やスポーツの必要性和楽しさについて、言ったり書き出したりしている。 ・運動やスポーツへの多様なかかわり方について、言ったり書き出したりしている。 ・運動やスポーツの学び方について、言ったり書き出したりしている。
第2学年	運動やスポーツの意義や効果などについて、情報を集めたり、意見を交換したりするなどの活動を通して、学習に積極的に取り組もうとしている。	運動やスポーツの意義や効果などについて、出された意見や集めた情報を分析したり整理したりしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・運動やスポーツが心身に及ぼす効果について、言ったり書き出したりしている。 ・運動やスポーツが社会性の発達に及ぼす影響について、言ったり書き出したりしている。 ・安全な運動やスポーツの行い方について、言ったり書き出したりしている。
第3学年	文化としてのスポーツの意義について、意見を交換したり、自分の考えを発表したりするなどの活動を通して、学習に自主的に取り組もうとしている。	文化としてのスポーツの意義について、必要な情報を比較したり、分析したりしてまとめた考えを説明している。	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会におけるスポーツの文化的意義について言ったり書き出したりしている。 ・国際的なスポーツ大会などが果たす文化的な意義や役割について、言ったり書き出したりしている。 ・人々を結びつけるスポーツの文化的な働きについて、言ったり書き出したりしている。

ウ 学習場面における具体の評価規準と具体の学びの姿、及びC C[△]生徒の手立て（1年）

	関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
A [○]	①～自ら進んで記入しようとしている。 ②～自ら進んで取り組もうとしている。 ③～仲間にはたらきかけながら進んで取り組もうとしている。	①～常に適切に整理している。	①②③④～具体例をあげて説明している。
A	①～進んで記入しようとしている。 ②③～進んで取り組もうとしている。	①～適切に整理している	①②③④～説明している。
B	①運動やスポーツの多様性について、考えた内容をワークシートに記入しようとしている。 ②運動やスポーツの多様性について、意見交換をしたり、情報を取りだしたりすることに取り組もうとしている。 ③参加型学習に取り組もうとしている。	①運動やスポーツの多様性について、意見交換、情報の取り出し、分析を通して、まとめた考えを整理している。	①運動やスポーツは体を動かしたり、健康を維持したりするなどの必要性や、競技に応じた力を試すなどの楽しさから生み出されてきたことについて言ったり、書き出したりしている。 ②運動やスポーツには多様なかわり方があることを、言ったり書き出したりしている。 ③運動やスポーツには特有の技術や戦術があることについて、言ったり書き出したりしている。 ④学び方には一定の方法があることを言ったり書き出したりしている。
C	①②③～取り組もうとしないときがある。	①～整理が不十分になっている。	①②③④～断片的に言ったり書き出したりしている状況にとどまっている。
C [△]	①②③～取り組もうとしない。	①～整理ができずにいる。	①②③④～全く言えなかったり、書き出せないでいる。
手立て	それぞれの発問に対して自信がなくて、学習に意欲的でない生徒に対しては、できるだけそれぞれの内容について肯定的な評価をするよう心がける。また、クラス全体に意見を求める際には、積極的にその生徒の意見を例として取り上げるように心がける。	発問の意味が分からないことで、自分の意見や分析、情報の整理ができない生徒に対しては、具体的な例示を与えることで意味を理解させ、できるだけその生徒の持つ知識や気付きを引き出すようにする。	ワークシートの記載方法が理解できない、自己の意見が少ない生徒に対しては、書き方の説明や仲間の意見を参考にしよう指示する。

学習場面における具体的評価規準と具体的学びの姿、及びC C[△]生徒の手立て（2年）

	関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
A [○]	①～自ら進んで記入しようとしている。 ②～自ら進んで取り組もうとしている。 ③～仲間にはたらきかけながら進んで取り組もうとしている。	①～常に適切に整理している。 ②～を応用しながら運動メニューの作成をしている。	①②③～具体例をあげて説明している。
A	①～進んで記入しようとしている。 ②③～進んで取り組もうとしている。	①～適切に整理している ②～活用しながら運動メニューの作成をしている。	①②③～説明している。
B	①運動やスポーツの意義や効果について、考えた内容をワークシートに記入しようとしている。 ②運動やスポーツが心身の発達に与える効果と安全について、意見交換をしたり、情報を取りだしたりすることに取り組もうとしている。 ③参加型学習に取り組もうとしている。	①運動やスポーツの意義や効果について、意見交換、分析を通して、まとめた考えを整理している。 ②学んだ知識を使って運動メニューの作成をしている。	①運動やスポーツは、身体の発達やその技術の維持、体力の向上などの効果や自信の獲得、ストレスの解消などの心理的効果が期待できることを言ったり、書き出したりしている。 ②運動やスポーツはルールについて合意したり、適切な人間関係を築いたりするなどの社会性を高める効果が期待できることを言ったり書き出したりしている。 ③運動やスポーツを行う際は、その特性や目的、発達の段階や体調などを踏まえて運動を選ぶなど、健康・安全に留意する必要があることを言ったり書き出したりしている。
C	①②③～取り組もうとしないときがある。	①～整理が不十分になっている。 ②～活用が不十分になっている。	①②③～断片的に言ったり書き出したりしている状況にとどまっている。
C [△]	①②③～取り組もうとしない。	①～整理ができずにいる。 ②～活用できずにいる。	①②③～全く言えなかったり、書き出せないでいる。
手立て	それぞれの発問に対して自信がなくて、学習に意欲的でない生徒に対しては、できるだけそれぞれの内容について肯定的な評価をするよう心がける。また、クラス全体に意見を求める際には、積極的にその生徒の意見を例として取り上げるように心がける。	発問の意味が分からないことで、自分の意見や分析、情報の整理ができない生徒に対しては、具体的な例示を与えることで意味を理解させ、できるだけその生徒の持つ知識や気付きを引き出すようにする。	ワークシートの記載方法が理解できない、自己の意見が少ない生徒に対しては、書き方の説明や仲間の意見を参考にしよう指示する。

学習場面における具体的評価規準と具体的学びの姿、及びCC[△]生徒の手立て（3年）

	関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
A [○]	①～自ら進んで記入しようとしている。 ②～自ら進んで取り組もうとしている。 ③④～仲間にはたらきかけながら進んで取り組もうとしている。	①～常に適切に整理している。 ②～を応用しながら新聞作成をしている。	①②③④～具体例をあげて説明している。
A	①～進んで記入しようとしている。 ②③④～進んで取り組もうとしている。	①～適切に整理している ②～活用しながら新聞作成をしている。	①②③④～説明している。
B	①文化としてのスポーツの意義について、考えた内容をワークシートに記入しようとしている。 ②文化としてのスポーツの意義について、意見交換をしたり、自分の考えを発表したりすることに取り組もうとしている。 ③スポーツの素晴らしさを伝える新聞作成に取り組もうとしている。 ④参加型学習に取り組もうとしている。	①文化としてのスポーツの意義について、意見交換、分析を通して、まとめた考えを整理している。 ②学んだ知識を使って新聞作成をしている。	①スポーツの持つ文化的な意義について言ったり、書き出したりしている。 ②スポーツの持つ教育的な意義や倫理的価値について、言ったり書き出したりしている。 ③スポーツの国際大会が果たす役割について、言ったり書き出したりしている。 ④スポーツがどのようにして人々を結びつけているのか、言ったり書き出したりしている。
C	①②③④～取り組めないときがある。	①～整理が不十分になっている。 ②～活用が不十分になっている。	①②③④～断片的に言ったり書き出したりしている状況にとどまっている。
C [△]	①②③～取り組もうとしない。 ④～意見交換しない。	①～整理ができずにいる。 ②～活用できずにいる。	①②③④～全く言えなかったり、書き出せないでいる。
手立て	それぞれの発問に対して自信がなくて、学習に意欲的でない生徒に対しては、できるだけそれぞれの内容について肯定的な評価をするよう心がける。また、クラス全体に意見を求める際には、積極的にその生徒の意見を例として取り上げるように心がける。	発問の意味がわからないことで、自分の意見や分析、情報の整理ができない生徒に対しては、具体的な例示を与えることで意味を理解させ、できるだけその生徒の持つ知識や気付きを引き出すようにする。	ワークシートの記載方法が理解できない、自己の意見が少ない生徒に対しては、書き方の説明や仲間の意見を参考にしよう指示する。

(3) 指導と評価の計画・単元計画

ア 1年「運動やスポーツの多様性」

運動やスポーツが多様であることについて理解できるようにする。

時間	学習のねらいと活動	学習活動における 具体的評価規準			評価方法
		関心 意欲 態度	思考 判断	知識 理解	
1 時間 目	<p>運動やスポーツは体を動かしたり、健康を維持したりするなどの必要性や、競技に応じた力を試すなどの楽しさから生みだされ発展してきたことを理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 運動やスポーツの定義について知る。 2 自分が知っている運動やスポーツにはどんなものがあるか考える。 3 その中で自分が体験したことのあるスポーツに○を付ける。 4 自分が体験したことのある運動やスポーツの楽しさとは何か考える。 5 運動やスポーツは必要か。(バズセッションで話し合う) 6 現代において、運動やスポーツはどのような役割を果たしているのか考える。 7 運動やスポーツはどのようなタイプに分類できるのか分析する。 	②			<p>【関・意・態】 意見交換や分析に取り組みもうとする姿</p> <p>【知・理】 ワークシートの記載内容・行動観察</p>
2 時間 目	<p>運動やスポーツには、行うこと、見ること、支えることなど多様なかわり方があることを理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 運動やスポーツは自分がすること以外にどんな楽しみ方があるのか考える。 2 運動やスポーツを支える役割にはどんな方法があるのか考える。 3 運動やスポーツを支えるボランティアについてインターネットを使って調べる。 4 発表を聞いて感じたことをまとめる。 	①		②	<p>【関・意・態】 ワークシートに記入しようとする姿</p> <p>【思・判】 インターネットによる情報の適切な取り出し</p> <p>【知・理】 ワークシートの記載内容・行動観察</p>
3 時間 目	<p>運動やスポーツには、特有の技術や戦術があり、その学び方には一定の方法があることを理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 技術、戦術、作戦の概念について知る。 2 ハンドボールの技術、戦術、作戦について考える。 3 技術、戦術、作戦、表現が上達するにはどのような方法があるのか練習目標、練習計画から考える。 (例器械運動 球技) (PLAN-DO-CHECK-ACTION) 4 確認テストを行う。 	③		③ ④	<p>【知・理】 ワークシートの記載内容・行動観察 確認テスト</p> <p>【関・意・態】 ブレインストーミングへの参加状況</p>

イ 2年「運動やスポーツが心身の発達に与える効果と安全」
 運動やスポーツの意義や効果などについて理解できるようにする。

時間	学習のねらいと活動	学習活動における 具体の評価規準			評価方法
		関心 意欲 態度	思考 判断	知識 理解	
1 時間 目	<p>運動やスポーツは、身体の発達やその技能の維持、体力の向上などの効果や自信の獲得、ストレスの解消などの心理的效果が期待できることを理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 運動やスポーツをすると体にどのような効果・変化があるのか考える。 2 自分はどのようなときに運動やスポーツをしたくなるのか考える。 3 運動やスポーツをするとどのような気分になるのか考える。 4 運動やスポーツで得られる心の変化について考える。 5 4つの発問についてブレインストーミング意見を出し、KJ法で分析する。 	①	①	①	<p>【関・意・態】 ワークシートに記入しようとする姿</p> <p>【思・判】 ブレインストーミング、KJ法による適切な分類</p> <p>【知・理】 ワークシートの記載内容・行動観察</p>
2 時間 目	<p>運動やスポーツは、ルールやマナーについて合意したり、適切な人間関係を築いたりするなどの社会性を高める効果が期待できることを理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 運動やスポーツを楽しく行うためには、どのようなことを心がけるか考える。 2 運動やスポーツに必要なものは何か考える。 3 運動やスポーツで課題に対し、ディベート形式で話し合う。 4 日常生活におけるファインプレーを知る。 	③		②	<p>【知・理】 ワークシートの記載内容・行動観察</p> <p>【関・意・態】 ディベートへの参加状況</p>
3 時間 目	<p>運動やスポーツを行う際は、その特性や目的、発達の段階や体調などを踏まえて運動を選ぶなど、健康・安全に留意する必要があることを理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 運動やスポーツの安全な行い方とはどのような方法か考える。運動前、運動中、運動後に分けて個人→グループ 2 運動やスポーツの安全な行い方について知る。 3 運動やスポーツの計画・立案について知る。 4 2を生かした運動メニュー作成を行う。 5 確認テストを行う。 	②		②	<p>【関・意・態】 意見交換や分析に取り組もうとする姿</p> <p>【知・理】 ワークシートの記載内容・行動観察 確認テスト</p> <p>【思・判】 学んだことを生かしたメニュー作成</p>

ウ 3年「文化としてのスポーツの意義」

文化としてのスポーツの意義について理解できるようにする。

時間	学習のねらいと活動	学習活動における 具体の評価規準			評価方法
		関心 意欲 態度	思考 判断	知識 理解	
1 時間目	<p>スポーツは文化的な生活を営み、よりよく生きていくために重要であることを理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 スポーツとは何か考える。 2 小田原ツデーマーチの様子・尊徳マラソンの様子について知る。 3 なぜ、多くの人がこのようにスポーツに取り組むのか考える。→グループで意見交換を行う。 4 スポーツの素晴らしさをどのように他者へ伝えることができるか→運動会の写真を使って新聞の作成をする。 5 スポーツ振興基本計画、アクティブ神奈川スポーツビジョン、小田原市スポーツ振興基本指針を紹介する。 	② ③	②	①	<p>【知・理】 ワークシートの記載内容・行動観察</p> <p>【関・意・態】 意見交換や分析に取り組もうとする姿 新聞作成にかかわる姿</p> <p>【思・判】 学んだことをいかした新聞作成</p>
2 時間目	<p>オリンピックや国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていることを理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリンピックの映像を視聴する。 2 スポーツのイメージを表すキーワードをたくさんあげ、グループでKJ法による分析を行う。 3 オリンピックの歴史、オリンピックの理念について知る。 4 国際大会の役割とは何か知る。 5 メディアの発達について知る。 	④	①	② ③	<p>【関・意・態】 ブレインストーミング、KJ法への参加状況</p> <p>【思・判】 KJ法による分析</p> <p>【知・理】 ワークシートの記載内容・行動観察</p>
3 時間目	<p>スポーツは民族や国、人種や性、障害の違いなどを超えて人々を結び付けていることを理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 考えや言葉が違っていてもスポーツが成立するのはなぜか考える。 2 スポーツの持つ文化的な働きについて知る。 3 障害者スポーツについて知る。 4 障害を持っている人でも一緒にスポーツを楽しむためにできることを考える。(ルール、器具、用具の工夫、支える人) 5 確認テストを行う。 	①		④	<p>【知・理】 ワークシートの記載内容・行動観察 確認テスト</p> <p>【関・意・態】 ワークシートに記入しようとする姿</p>

(4) 指導の工夫

予備アンケートの結果から見ると、体育理論（体育に関する知識）の授業は、保健の授業と並んで、生徒からは人気のない領域であった。しかし、心身ともに大きく成長していく時期に、運動やスポーツにかかわる基礎を知識として習得していくことは、絶対的に必要なものと考えられる。知識がテスト前に覚えるものだけではなく、自分の身近な活動につながるように指導の工夫を行う。

ア 体育理論の学習内容の習得につながる学習形態の工夫

参加型学習の手法を取り入れることにより、自分の考えを持ったり、話し合ったり、発表したりという時間を設けることによりその事柄が、自分のものになっていくと考えられる。

イ 学習教材の工夫

(ア) 題材設定の工夫

身近な話題やタイムリーな話題を設定することにより、生徒の興味・関心を高め授業に積極的に取り組むことができるように工夫する。

(イ) 発問の工夫

発問は、題材に対する生徒の問題意識を喚起して、思考を深め、探求心を育ててゆくための重要な鍵となる。そのため、生徒の知的発達段階や関心事を把握しておく必要がある。

題材設定の工夫や学習形態の工夫ともからめ、生徒が自ら授業に参加できるような発問を工夫する。

(ウ) 具体的・視覚的情報の活用の工夫

学習させたい内容を視覚的に訴えることは、生徒に強いインパクトを与えることができ、知識・理解を高める上で、効果的であると考えられる。指導内容にふさわしい教材を選択し活用する。

(エ) ワークシート

学習していく内容をおさえながら、単元の中で何を学習していくのか、何を学習したのか確認できるものとする。あまり複雑にならないよう注意する。

(オ) スポーツだより

運動やスポーツにかかわる内容のプリントを作成し、興味付けや話題づくりとして、活用していきたい。

(5) 各学年、各時間における学習形態・学習教材の工夫の主なねらいとする観点

ア 第1学年

1年生では、小学校での学習経験のない体育理論を学習することになるので、体育理論への導入は、とても大切だと考えられる。運動経験もあまりないことが予想されるので、プレゼンテーションソフトの活用や身近な話題を中心に授業を構成し、生徒の興味・関心を高める。また、学習形態の工夫では、バズセッションは主に関心・意欲・態度を高めることをねらいとして、インターネット検索は主に思考・判断を高めることをねらいとして、ブレインストーミングは主に知識・理解を高めることをねらいとして行う。

	学習内容	学習形態・学習教材	主なねらいとする観点
1 時 間 目	運動やスポーツの必要性和楽しさ	<ul style="list-style-type: none"> ・バズセッション ・発問の工夫 ・プレゼンテーションソフトの活用、映像の活用 ・スポーツだより ・ワークシート 	関心・意欲・態度
2 時 間 目	運動やスポーツへの多様なかかわり方	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット検索 ・発問の工夫 ・バズセッション ・プレゼンテーションソフトの活用、映像の活用 ・スポーツだより ・ワークシート 	思考・判断
3 時 間 目	運動やスポーツの学び方	<ul style="list-style-type: none"> ・ブレインストーミング ・発問の工夫 ・プレゼンテーションソフトの活用、映像の活用 ・スポーツだより ・ワークシート 	知識・理解

イ 第2学年

2年生では、運動やスポーツに対し自分の実践の場面が増えてきているので、運動経験だけでなく、運動やスポーツで感じる様々な体験を持って授業に参加することになる。自分の体験や現状に照らし合わせた内容を構成し、日々の中に生かせるようにしていきたい。学習形態の工夫では、ブレインストーミング、KJ法は主に思考・判断を高めることをねらいとして、ディベートやバズセッションは、主に関心・意欲・態度を高めることをねらいとして、グループディスカッションは主に知識・理解を高めることをねらいとして行う。

	学習内容	学習形態・学習教材	主なねらいとする観点
1 時 間 目	運動やスポーツが心身に及ぼす効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ブレインストーミング、KJ法 ・発問の工夫 ・プレゼンテーションソフトの活用、映像の活用 ・ワークシート 	思考・判断
2 時 間 目	運動やスポーツが社会性の発達に及ぼす効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ディベート ・バズセッション ・発問の工夫 ・プレゼンテーションソフトの活用、映像の活用 ・スポーツだより ・ワークシート 	関心・意欲・態度
3 時 間 目	安全な運動やスポーツの行い方	<ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッション ・発問の工夫 ・プレゼンテーションソフトの活用 ・スポーツだより ・ワークシート 	知識・理解

ウ 第3学年

3年生では文化としてのスポーツを扱うことになるが、自分の身近な事に加え、グローバルな視点でスポーツを捉えさせたい。学習形態の工夫や学習教材の工夫では、グループディスカッションや新聞作成は主に思考・判断を高めることをねらいとして、映像の活用やブレインストーミング、KJ法は主に関心・意欲・態度を高めることをねらいとして、また、ワークシートを活用し知識・理解を高めていきたい。

	学習内容	学習形態・学習教材	主なねらいとする観点
1 時 間 目	現代生活におけるスポーツの文化的意義	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞作成 ・グループディスカッション ・発問の工夫 ・プレゼンテーションソフトの活用、映像の活用 ・ワークシート 	思考・判断
2 時 間 目	国際的なスポーツ大会などが果たす文化的な意義や役割	<ul style="list-style-type: none"> ・映像の活用 ・ブレインストーミング、KJ法 ・発問の工夫 ・プレゼンテーションソフトの活用 ・スポーツだより ・ワークシート 	関心・意欲・態度
3 時 間 目	人々を結び付けるスポーツの文化的な働き	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・発問の工夫 ・プレゼンテーションソフトの活用、映像の活用 	知識・理解

4 体育理論の授業の実際（1年）（学習形態や学習教材に関するものはゴシックで記載）

3時間扱いの1時間目 平成22年10月20日（水）3校時
本時のねらい 運動やスポーツは体を動かしたり、健康を維持したりするなどの必要性や、競技に応じた力を試すなどの楽しさから生みだされ発展してきたことを理解する。

	学習内容と活動	教師の指導・支援	具体的評価規準
はじめ 10分	○挨拶・出席確認 ○オリエンテーション ・学習の進め方を確認する。 ・体育理論の授業について学習のねらいを知る。	・生徒の出席状況、健康状態を確認する ・体育理論の学習の進め方、学習のねらいを具体的に説明する。	
なか 30分	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 運動やスポーツは体を動かしたり、健康を維持したりするなどの必要性や、競技に応じた力を試すなどの楽しさから生みだされ発展してきたことを理解する。 </div> 1 運動・スポーツの定義について知る。 2 自分が知っている運動やスポーツにはどのようなものがあるか考える。 3 その中で自分が体験したことのあつる運動やスポーツに○を付ける。 4 自分が体験したことのあつる運動やスポーツの楽しさとは何か考える。 【発問】あなたが知っている運動やスポーツはどれくらいありますか？ 5 運動やスポーツは必要かについてバズセッションで話し合う。 【発問】運動やスポーツは生きていく上で、必要か必要ないのか？ 【発問】現代において運動やスポーツはどのような役割を果たしていますか？ 6 現代において、運動やスポーツはどのような役割を果たしているのか知る。 7 運動やスポーツはどのようなタイプに分類できるのか分析する。	・スポーツに関する写真を使ってイメージを持ちやすくなるよう支援する。 ・運動・スポーツの定義について説明する。 ・体験したことがなくても良いので知っているもの全てを書き出すように説明する。 ・自分の体験したスポーツの中からひとつを選択させ、そのスポーツの持つ楽しさを考えるよう支援する。 ・自分の意見を簡単にまとめて、話し合いに参加するよう助言する。 ・現代においての運動やスポーツの役割について説明する。 ・競争的要素、記録向上の要素、対戦的要素、自己表現的要素、自然体験的要素、健康や体力向上的要素で分類 【運動領域との関連】3年生では領域選択となるので、自分自身がより探求したい単元や技能を知るきっかけにさせる。	【関・意・態】 ②運動やスポーツの多様性について、意見交換をしたり、情報を取りだしたりすることに取り組もうとしている。（行動観察） 【知・理】 ①運動やスポーツは体を動かしたり、健康を維持したりするなどの必要性や、競技に応じた力を試すなどの楽しさから生み出されてきたことについて言ったり、書き出ししたりしている。（行動観察・ワークシート）
まとめ 10分	（本時のまとめ） ○本時の整理をする。 ○本時の学習の自己評価・感想・疑問点を書く。	・今日の活動を振り返りながら、自分の活動をワークシートにまとめられるよう支援する。	

〈授業者による振り返り〉今日は1年生の初めての体育理論の授業であった。実技の時間とは違い、生徒も私も多少緊張したような形で授業がスタートした。座学であるからこそアイスブレイキングなどを取り入れてから授業に入ると、生徒の様子も変わるのではないかと思った。生徒は自分の知っているスポーツを積極的に書き出した。また、運動やスポーツの必要性についてバズセッションで話し合えた。

	学習内容と活動	教師の指導・支援	具体的評価規準
はじめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> ○挨拶・出席確認 ○前時の振り返りを行う。 ○本時の学習のねらいを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の出席状況・健康状態を確認する ・前時の振り返りを行う。 ・本時のねらいを具体的に確認する。 	
なか 30分	<p>運動やスポーツには、行うこと、見ること、支えることなど多様なかわり方があることを理解する。</p> <p>1 運動やスポーツは自分がすること以外にどんな楽しみ方があるのか個人で考え、バズセッションで話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の部活動や身近なスポーツから考えていくよう助言を行う。 ・小田原ツーデーマーチや尊徳マラソンについて触れる。 ・スポーツの行われている写真を見せ、イメージをふくらませるよう支援する。 	<p>【関・意・態】</p> <p>①運動やスポーツの多様性について、考えた内容をワークシートに記入しようとしている。(行動観察・ワークシート)</p>
	<p>【発問】運動やスポーツは、すること以外にどのような楽しみ方がありますか？</p>		
	<p>2 運動やスポーツを支える役割にはどのようなものがあるのか個人で考え、バズセッションで話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・する・見る・支えるについて説明する。 	<p>【思・断】</p> <p>①運動やスポーツの多様性について、意見交換、情報の取り出し、分析を通して、まとめた考えを整理している。(行動観察、ワークシート)</p>
	<p>【発問】運動やスポーツを支える役割にはどのようなものがありますか？</p>		
	<p>3 運動やスポーツを支えるボランティアについてインターネットを使って調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支えるに限定して調べる ・発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動やスポーツに関する事柄をインターネットや書物を通して調べることができることを説明する。 	<p>【知・理】</p> <p>②運動やスポーツには多様なかわり方があることを、言ったり書き出したりしている。(行動観察・ワークシート)</p>
	<p>【発問】調べた内容をワークシートに記入しよう。</p>		
	<p>4 発表を聞いて感じたことをまとめる。</p>		
	<p>【発問】自分ができることはありますか？ワークシートにまとめよう。</p>		
		<p>【運動領域との関連】</p> <p>授業での役割について「する」「見る」「支える」という視点で取り組んでいくよう指導する。スポーツを支える役割が重要であることを、審判や用具準備などの役割分担と重ねて指導する。</p>	
まとめ 10分	<p>(本時のまとめ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の整理をする。 ○本時の学習の自己評価・感想・疑問点を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の活動を振り返りながら、自分の活動をワークシートにまとめられるよう支援する。 	

〈授業者による振り返り〉今日はパソコン室での授業であった。初めて入るパソコン室に、多少落ち着いた様子であった。運動やスポーツを「支える」視点で「支える」役割や、自分ができることについて考えた。生徒からは様々な意見が出され、「支える」視点をあまり意識していなかったという意見も聞かれた。インターネットでスポーツを支えるボランティアについて検索し、内容を発表できた。

	学習内容と活動	教師の指導・支援	具体的評価規準
はじめ5分	<ul style="list-style-type: none"> ○挨拶・出席確認 ○前時の振り返り ○本時の学習のねらいを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の出席状況・健康状態を確認する ・前時の振り返りを行う。 ・本時のねらいを具体的に確認する。 	
なか30分	<p style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">運動やスポーツには、特有の技術や戦術があり、その学び方には一定の方法があることを理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・技術、戦術、作戦の概念について説明する。 	<p>【知・理】 ③運動やスポーツには特有の技術や戦術があることについて、言ったり書き出したりしている。</p> <p>【関・意・態】 ③参加型学習に取り組もうとしている(行動観察)</p> <p>【知・理】 ④学び方には一定の方法があることを言ったり書き出したりしている。(行動観察・ワークシート) 確認テスト</p>
	<p>1 技術、戦術、作戦の概念について知る。</p> <p>2 ハンドボールの技術、戦術、作戦について考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンドボールの技術、戦術、作戦をグループで考える。 ・考えが出てこないチームには副読本を参考にするよう声かけを行う。 	
	<p>【発問】 ハンドボールの技術、戦術、作戦とは？</p>		
	<p>3 技術、戦術、作戦が上達するにはどのような方法があるのかブレインストーミングで練習目標、練習計画を考え話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ブレインストーミングの説明を行う。 	
	<p>【発問】 ハンドボールのステップシュートを上達させたいAさん。あなたがコーチならどのような目標、計画、アドバイスを送りますか？</p>		
	<p>4 うまくできるプレイの特徴・合理的な練習について知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・合理的な練習について知る。 ・PDCAサイクルについての説明を行う。 	
	<p>【発問】 PDCAサイクルについてワークシートにまとめよう。</p>		
		<p>【運動領域との関連】 各領域での知識と技能を相互に関連させて学習させることにより、知識の重要性を一層実感できるようにする。個人やチームでの学び方の課題解決を目指した授業で活用させる。</p>	
まとめ15分	<ul style="list-style-type: none"> ○確認テスト ○本時の整理をする。 ○本時の学習の自己評価・感想・疑問点を書く。 ○単元のまとめを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の活動を振り返りながら、自分の活動をワークシートにまとめられるよう支援する。 	

〈授業者による振り返り〉今日は最後の授業であった。「技術」「戦術」「作戦」やPDCAサイクルについての難しい学習内容であった。特に戦術については具体的な例をあげても運動経験の少ない生徒にとっては理解しにくい学習内容であった。映像などを利用し、工夫していく必要性を感じた。確認テストも行ったが、時間的に足りない面もあり、今後考えていく必要性を感じた。

4 体育理論の授業の実際（2年）（学習形態や学習教材に関するものはゴシックで記載）

3時間扱いの1時間目 平成22年10月21日（木）1校時

本時のねらい

運動やスポーツは、身体の発達やその技能の維持、体力の向上などの効果や自信の獲得、ストレスの解消などの心理的効果が期待できることを理解する。

	学習内容と活動	教師の指導・支援	具体的評価規準
はじめ 10分	○挨拶・出席確認 ○オリエンテーション ・学習の進め方を確認する。 ・体育理論の授業について学習のねらいを知る。	・生徒の出席状況、健康状態を確認する ・体育理論の学習の進め方、学習のねらいを具体的に説明する。	
なか 30分	運動やスポーツは、身体の発達やその技能の維持、体力の向上などの効果や自信の獲得、ストレスの解消などの心理的効果が期待できることを理解する。		
	1 運動・スポーツの定義について知る。 2 体力について知る。 3 運動やスポーツをすると体になどどのような効果・変化があるのか考える。	・運動・スポーツの定義について説明する。 ・行動体力と防衛体力について説明する。 ・4人グループでの活動	【関・意・態】 ①運動やスポーツの意義や効果について、考えた内容をワークシートに記入しようとしている。（行動観察・ワークシート） 【思・判】 ①運動やスポーツの意義や効果について、意見交換、分析を通して、まとめた考えを整理している。（行動観察） 【知・理】 ①運動やスポーツは、身体の発達やその技術の維持、体力の向上などの効果や自信の獲得、ストレスの解消などの心理的効果が期待できることを言ったり、書き出したりしている。（行動観察・ワークシート）
	【発問】 運動やスポーツをすると体になどどのような効果や変化がありますか？		
	4 自分はどのような時に運動やスポーツをしたくなるのか考える。	・ブレインストーミング、KJ法の説明をする。	
	【発問】 どのような時に運動やスポーツをしたくなりますか？		
	5 運動やスポーツをするとどのような気分になるのか考える。		
	【発問】 運動やスポーツをするとどのような気分になりますか？		
	6 運動やスポーツで得られる心の変化について考える。	・一人ひとりの考えを引き出せるように声かけを行う。	
【発問】 運動やスポーツで得られる心の変化はどのようなことがありますか？			
7 4つの発問についてブレインストーミングで意見を出し合い、KJ法で分類、分析を行う。 8 運動やスポーツが心身にもたらす効果について知る。	・生徒から出てきた意見を参考にしながら、心と体の変化について説明する。		
【発問】 運動やスポーツが心身にもたらす効果についてまとめよう。			
		【運動領域との関連】 運動領域全般、特に体づくり運動や持久走などで得られる心や体の変化を感じ取らせる。	
まとめ 10分	(本時のまとめ) ○本時の整理をする。 ○本時の学習の自己評価・感想・疑問点を書く。	・今日の活動を振り返りながら、自分の支援する活動をワークシートにまとめられるよう支援する。	

〈授業者による振り返り〉今日は1時間目の授業であった。2年生は昨年度も授業を行っていたので、顔も名前も一致して少し余裕が持てた。ブレインストーミングを行い、それぞれの質問に対し意見を出し合ったが、初めて行くとはいえないほど意見がだされ、KJ法による分類もできた。時間的にもう少し余裕を持たせることができれば良かったと反省している。

本時のねらい

運動やスポーツは、ルールやマナーについて合意したり、適切な人間関係を築いたりするなどの社会性を高める効果があることを理解する。

	学習内容と活動	教師の指導・支援	具体の評価規準	
はじめ5分	○挨拶・出席確認 ○前時の振り返り ○本時の学習のねらいを確認	・生徒の出席状況・健康状態を確認する ・前時の振り返りを行う。 ・本時のねらいを具体的に確認する。		
なか35分	<p>運動やスポーツは、ルールやマナーについて合意したり、適切な人間関係を築いたりするなどの社会性を高める効果があることを理解する。</p> <p>1 ジャンケンをする。(ルールを決めて行なう) 2 楽しく運動やスポーツを行うためには、どのようなことを心がけなければならないか個人で考えバズセッションで話し合う。</p> <p>【発問】楽しく運動やスポーツを行うために気をつけなければならないことは？</p> <p>3 運動やスポーツでルールがなかったらどうなるか個人で考えバズセッションで話し合う。</p> <p>【発問】運動やスポーツでルールがなかったらどうなりますか？</p> <p>4 運動やスポーツでは、 A：結果が全て、勝利至上主義 B：ルール、マナーが大切と考えるか ディベート形式で話し合う。</p> <p>【発問】運動やスポーツでは結果が全てかルールマナーが大切か？</p> <p>5 社会性について知る。 6 社会性の発達において、日常生活におけるファインプレーを知る。</p>	<p>・スポーツの変遷について触れる。 ・2人組ができない生徒には3人組の指示を出す。 ・一人ひとりの考えを引き出せるように声かけを行う。</p> <p>・一人ひとりの考えを引き出せるように声かけを行う。</p> <p>・ディベートについて説明する。 ・話し合いが活発に行われるよう支援する。</p> <p>・社会性について説明する。 ・野口健さんの登山清掃について触れる。</p> <p>【運動領域との関連】運動を行う際の仲間への配慮や、ゲームを行う上での工夫について実際に考えられるように指導する。</p>	<p>【知・理】 ②運動やスポーツはルールについて合意したり、適切な人間関係を築いたりするなどの社会性を高める効果が期待できることを言ったり書き出したりしている。(行動観察・ワークシート)</p> <p>【関・意・態】 ③参加型学習に取り組もうとしている(行動観察)</p>	
	まとめ10分	(本時のまとめ) ○本時の整理をする。 ○本時の学習の自己評価・感想・疑問点を書く。	・今日の活動を振り返りながら、自分の活動をワークシートにまとめられるよう支援する。	

〈授業者による振り返り〉今日はディベートでA・Bの意見に分かれ、討議を行った。話し合いはお互いの意見を尊重し合いながら進められたが、授業後にはA・Bの意見はどちらも大切ではないかという意見も出され、発問の仕方にも一考を要するものとなった。

3時間扱いの3時間目 平成22年11月4日(木) 1校時

本時のねらい

運動やスポーツを行う際は、その特性や目的、発達の段階や体調などを踏まえて運動を選ぶなど、健康・安全に留意する必要があることを理解する。

	学習内容と活動	教師の指導・支援	具体的評価規準
はじめ5分	<ul style="list-style-type: none"> ○挨拶・出席確認 ○前時の振り返り ○本時の学習のねらいを確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の出席状況・健康状態を確認する ・前時の振り返りを行う。 ・本時のねらいを具体的に確認する。 	
なか30分	<p>運動やスポーツを行う際は、その特性や目的、発達の段階や体調などを踏まえて運動を選ぶなど、健康・安全に留意する必要があることを理解する。</p> <p>1 運動やスポーツの安全な行い方とはどのような方法か考える。運動前、運動中、運動後に分けてグループディスカッションで話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・施設面、健康面に分けて考えるよう助言する。 ・グループディスカッションで自分の考えを発表し、お互いに気付かなかったところを補わせる。 	<p>【関・意・態】</p> <p>②運動やスポーツが心身の発達に与える効果と安全について、意見交換をしたり、情報を取りだしたりすることに取り組もうとしている。(行動観察)</p> <p>【知・理】</p> <p>③運動やスポーツを行う際は、その特性や目的、発達の段階や体調などを踏まえて運動を選ぶなど、健康・安全に留意する必要があることを言ったり書き出したりしている。(行動観察・ワークシート) 確認テスト</p> <p>【思・判】</p> <p>②学んだ知識を使って運動メニューの作成をしている。(行動観察・ワークシート)</p>
	<p>【発問】運動やスポーツを安全に行うために健康面で注意することを運動前、運動中、運動後にわけて考えてみよう。</p>		
	<p>2 運動やスポーツの安全な行い方について知る。</p> <p>3 運動やスポーツの計画・立案について知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーミングアップやクーリングダウン、水分補給などについて説明する。 ・運動の強度・時間・頻度について説明する。 ・学習したことが生かされているか、支援する。 	
	<p>【発問】運動やスポーツの安全な行い方について、ワークシートにまとめよう。</p> <p>4 安全な行い方を生かした運動メニュー作成</p>		
	<p>【発問】自分に合った運動メニューの作成をしてみよう。</p>	<p>○野外活動についての知識や運動スポーツの実施中の応急手当に触れる。</p> <p>【運動領域との関連】</p> <p>安全に運動やスポーツを行う上で必要な準備や配慮事項について知り、実際の授業で適切に行動できるように気付かせる。</p>	
まとめ15分	<ul style="list-style-type: none"> ○確認テスト ○本時の整理をする。 ○本時の学習の自己評価・感想・疑問点を書く。 ○単元のまとめを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の活動を振り返りながら、自分の活動をワークシートにまとめられるよう支援する。 	

(授業者による振り返り) 今日水分補給やストレッチ、クーリングダウンなどについて触れたが、主に運動部に入部している生徒は日々実践している者が多かった。授業後の生徒の感想では少しは運動を始めたと言われているものもあった。確認テストも行ったが、時間的に足りない面もあり、今後考えていく必要性を感じた。

4 体育理論の授業の実際（3年）

3時間扱いの1時間目 平成22年10月19日（火）5校時
本時のねらい スポーツは文化的な生活を営み、よりよく生きていくために重要であることを理解する。

	学習内容と活動	教師の指導・支援	具体的評価規準	
はじめ 10分	○挨拶・出席確認 ○オリエンテーション ・学習の進め方を確認 ・体育理論の授業について学習のねらいを知る。	・生徒の出席状況、健康状態を確認する ・体育理論の学習の進め方、学習のねらいを具体的に説明する。		
なか 30分	<p>スポーツは文化的な生活を営み、よりよく生きていくために重要であることを理解する。</p> <p>1 スポーツとは何か考える。</p> <p>【発問】スポーツは現代の生活において、どのような意味がありますか？</p> <p>2 小田原ツデーマーチの様子・尊徳マラソンの様子について知る。</p> <p>3 なぜ、多くの人がこのように運動・スポーツに取り組むのかグループディスカッションで考える。</p>	<p>・スポーツの定義について説明する。</p> <p>・イメージしやすいように、ツデーマーチの様子や、マラソンの様子の写真を見せる。</p> <p>・個人で考え、グループディスカッションに参加できるよう助言する。</p> <p>・豊かな人生・健やかな心身・豊かな交流・自己開発をキーワードとして考えるよう支援する。</p>	<p>【知・理】</p> <p>①スポーツの持つ文化的な意義について言ったり、書き出したりしている。（行動観察・ワークシート）</p>	
	<p>【発問】なぜ多くの人がツデーマーチやマラソン大会に参加するのでしょうか？</p> <p>4 スポーツの文化的意義について知る。</p>		<p>【関・意・態】</p> <p>②文化としてのスポーツの意義について、意見交換をしたり、自分の考えを発表したりすることに取り組もうとしている。（行動観察）</p>	
	<p>【発問】スポーツの良さ、素晴らしさをどのような場面で感じますか？</p> <p>5 スポーツの素晴らしさをどのように他者へ伝えることができるか→運動会の写真を使って新聞の作成を行う。</p>	<p>・どのようにしたら運動会の素晴らしさが他者へ伝わるのか、工夫するよう助言する。</p>	<p>③スポーツの素晴らしさを伝える新聞作成に取り組もうとしている。（行動観察）</p>	
	<p>【発問】スポーツの素晴らしさを伝える新聞作成をしてみよう。</p> <p>6 スポーツ振興基本計画、アクティブかながわスポーツビジョン小田原市スポーツ振興基本指針について知る。</p>	<p>・小田原市にもスポーツ振興基本指針があることを紹介する。</p>	<p>【思・判】</p> <p>②学んだ知識を使って新聞作成をしている。（行動観察）</p>	
		<p>【運動領域との関連】</p> <p>活動していく中で、自分の新しい面を発見したり、仲間と協力し合ったり、認めあったりする大切さに気付かせる。</p>		
	まとめ 10分	<p>（本時のまとめ）</p> <p>○本時の整理をする。</p> <p>○本時の学習の自己評価・感想・疑問点を書く。</p>	<p>・今日の活動を振り返りながら、自分の活動をワークシートにまとめられるよう支援する。</p>	

〈授業者による振り返り〉今日は1時間目の授業であった。3年生は昨年度も授業を行っていたので、顔も名前も一致して少し余裕が持てた。スポーツを文化として捉えていくこの授業は難しさもあり、楽しさもありという感じである。新聞作成では多少時間が足りなかった事が反省である。

本時のねらい

オリンピックや国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていることを理解する。

	学習内容と活動	教師の指導・支援	具体的評価規準
はじめ5分	<ul style="list-style-type: none"> ○挨拶・出席確認 ○前時の振り返り ○本時の学習のねらいを確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の出席状況・健康状態を確認する ・前時の振り返りを行う。 ・本時のねらいを具体的に確認する。 	
なか35分	<p>オリンピックや国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていることを理解する。</p> <p>1 オリンピックの映像視聴</p> <p>2 スポーツのイメージを表すキーワードをたくさんあげ、グループでブレインストーミング、KJ法で分類を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・最初は個人で考え、その後、グループで考えるよう、助言する。 	<p>【関・意・態】</p> <p>④参加型学習に取り組もうとしている(行動観察)</p> <p>【思・判】</p> <p>①文化としてのスポーツの意義について、意見交換、分析を通して、まとめた考えを整理している。(行動観察、ワークシート)</p> <p>【知・理】</p> <p>②スポーツの持つ教育的な意義や倫理的価値について、言ったり書き出したりしている。</p> <p>③スポーツの国際大会が果たす役割について、言ったり書き出したりしている。(行動観察・ワークシート)</p>
	<p>【発問】スポーツのイメージを表すキーワードをたくさんあげてみよう。</p> <p>3 オリンピックについて知っていることをあげる。</p>		
	<p>【発問】オリンピックについて知っていることは何ですか？</p> <p>4 オリンピックの歴史・オリンピックの理念について知る。</p> <p>5 国際大会の役割とは何か知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピックの理念について資料提示を行う。 ・人と人の触れ合いができるスポーツの文化的意義について説明する。 	
	<p>【発問】オリンピックの意義や国際大会の持つ役割についてワークシートにまとめよう。</p> <p>6 メディアの発達について知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアの発達によりスポーツの魅力が世界中に広がり、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていることについて触れる。 	
		<p>【運動領域との関連】</p> <p>スポーツを行うことによって、仲間と協力したり、認め合ったりすることによって仲間を大切に感じたり信頼で結ばれたりするように交流することの大切さに気付かせる。</p>	
まとめ10分	<p>(本時のまとめ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の整理をする。 ○本時の学習の自己評価・感想・疑問点を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の活動を振り返りながら、自分の活動をワークシートにまとめられるよう支援する。 	

〈授業者による振り返り〉今日は国際的なスポーツ大会が果たす役割についての学習だった。オリンピックの映像などをみながら、この大会の持つ役割を考えた。「勝ち負けを競う」と思っていた生徒が大半で、国際親善などに関係している事を初めて知る生徒もいた。スポーツについて考える時間となった。

本時のねらい

スポーツは民族や国、人種や性、障害の違いなどを超えて人々を結び付けていることを理解する。

	学習内容と活動	教師の指導・支援	具体的評価規準
はじめ5分	<ul style="list-style-type: none"> ○挨拶・出席確認 ○前時の振り返り ○本時の学習のねらいを確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の出席状況・健康状態を確認する ・前時の振り返りを行う。 ・本時のねらいを具体的に確認する。 	
なか30分	<p>民族や国、人種や性、障害の違いなどを超えて人々を結び付けているスポーツの働きを理解する。</p> <p>1 考えや言葉が違っててもスポーツが成立するのはなぜか考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツという言葉自体が、国、地域や言語の違いを超えて世界中に広まっていることを説明する。 	<p>【知・理】</p> <p>④スポーツがどのようにして人々を結び付けているのか言ったり書き出したりしている。 (行動観察・ワークシート) 確認テスト</p> <p>【関・意・態】</p> <p>①文化としてのスポーツの意義について、考えた内容をワークシートに記入しようとしている。 (行動観察)</p>
	<p>【発問】考えや言葉が違っててもスポーツが成立するのはなぜですか？</p>		
	<p>2 スポーツの持つ文化的な働きについて知る。</p>		
	<p>【発問】スポーツの持つ文化的な働きについてワークシートにまとめよう。</p>		
	<p>3 障害者スポーツについて知る。</p> <p>4 障害のある人と、一緒にスポーツを楽しむためにできることについて、ワークシートを使って考える。(ルール、器具、用具の工夫、支える人)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者スポーツについて説明する。 ・パラリンピックについて写真を見せる。 ・例をあげ、視覚に障害のある人が楽しむためのスポーツについて工夫するよう指導する。 ・用具の工夫を紹介する。 	
	<p>【発問】障害を持っている方と一緒にスポーツを楽しむ方法を考えよう。</p>	<p>【運動領域との関連】</p> <p>試合やゲームを行うにあたって、ルール等の工夫に生かせるよう指導する(男女共習による学習など。)</p>	
まとめ15分	<ul style="list-style-type: none"> ○単元テスト ○本時の整理をする。 ○本時の学習の自己評価・感想・疑問点を書く。 ○単元のまとめを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の活動を振り返りながら、自分の活動をワークシートにまとめられるよう支援する。 	

〈授業者による振り返り〉今日は最後の授業であった。民族や国、人種や性、障害の違いなどを超えて人々を結び付けているスポーツの働きを考えた。特に障害者スポーツについて学習したが、TVなどでは目にすることはあっても実際にはあまり知られていないことが現状である。いくつかの障害者スポーツを新聞記事から紹介し、それに使用する用具も示した。音の鳴るボールなどに興味を示す生徒が多かった。確認テストも行ったが、時間的に足りない面もあり、今後考えていく必要性を感じた。

1年生ハンドボール単元計画(50分×9時間)

時	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
	ねらい1 今持っている力でやさしい用具やルールを用い、ドリルゲームやミニゲームを繰り返す行う					ねらい2 集団での技能(戦術)を学習し、チームで協力してボールをつなぎ、練習や活動を工夫してゲームを楽しむことができる。					
はじめ	集合・挨拶・健康観察・準備運動										
	本時のめあての確認										
なか	<ul style="list-style-type: none"> 単元のねらい 学習内容 単元の流れ 学習時の約束 	ドリルゲーム1 (ドリブル→パス チームでトライ 3分間の回数)						ドリルゲーム2 (まと当てシュート 10回中の成功回数)		<ul style="list-style-type: none"> チームの課題にそった練習 ゲーム4 チームの目標や課題、自己の役割を明確に設定する。チームの戦術が1回でも使えるように工夫する。 	
		ボール操作			ボールのない時の動き			○タスクゲーム			
		○シュート (ジャンプシュート、ステップシュート)	○ツーメンシュート	○アウトナンバーゲーム 3対2	○ワンパス速攻ゲーム	○ボール鬼 パスする味方を早く見付ける		○宝島ボール 空いているスペースに走り込む	○混在パスゲーム 移動してパスをもらう		
		○パス&キャッチ (ショルダーパス、アンダーハンドパス、リストパス) (動きながら、止まって)	○ゲーム1 3対3 (GKなし) 自チーム内での対戦 (特別ルール)		○ゲーム2 3対3 (GKあり) 他チームとの対戦 (特別ルール)		○ゲーム3 ・6対6のゲーム ・サイドマンゲーム サイドゾーンを作り、サイドマンを使ったゲーム (ボールをセンターに集めない)		○ゲーム4 相手チームの特徴に応じた作戦を工夫する。 途中タイムをはさみ、相手の特徴に応じた守り攻めの工夫をする。		
		○体ほぐし ・ボールコントロール									
○ためしのゲーム ・正式チームではなく、仮のチームで生徒の実態を把握する。											
○学習カードの説明・記入											
まとめ	○ 学習カードの記入・学習の振り返り										
	○ 片づけ・次回の学習の確認・挨拶										

1年生のハンドボールと体育理論の授業計画

月日	10月18日	10月20日	10月22日	10月25日	10月27日	10月29日	11月1日	11月5日	11月8日	11月15日	11月17日	11月19日	
時数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
	実技1	理論1	実技2	実技3	実技4	理論2	実技5	実技6	理論3	実技7	実技8	実技9	
10 20 30 40 50	○オリエンテーション 特性の理解 単元の理解 学習内容 単元の流れ 学習時の約束 体ほぐし (ボールコントロール) ・試しのゲーム 学習カードの説明・ 記入	ねらい1 今持っている力でやさしい用具やルールを用い、ドリルゲームやミニゲームを繰り返し行う中から、ゲームに必要な基礎的な技能「ボール操作」を習得すると共にゲームを楽しむ。	○互いに積極的に声をかけ合いながら基本技能を高め、ゲームを楽しめるようにする。 ・グルーピング ・ボール操作 ・シュート ジャンプシュート ステップシュート ・パス(動きながら) ショルダーパス アンダーハンドパス リストパス ・3対3ミニゲーム (GKなし)	○互いに積極的に声をかけ合いながら基本技能を高め、ゲームを楽しめるようにする。 ・ボール操作 ・ツーマンシュート ・3対3ミニゲーム (GKなし)	○自分が空いていたらシュートする感覚を身に付けるようにする。 ・アウトナンバー ゲーム 3対2 ・3対3ミニゲーム (GKあり)	運動やスポーツへの多様なかわり方する・みる・ささえるかわりかたについて	○単独速攻や、グループ速攻を行い、切り替えの速さを意識できるようにする。 ・ワンパス速攻ゲーム ・3対3ミニゲーム (GKあり)	ねらい2 集団での技能(戦術)を学習し、チームで協力してボールをつなぎ、練習や活動を工夫してゲームを楽しむことができる。	○サイドにボールを出し、空いているスペースに走り込むことを意識できるようにする。 ・タスクゲーム(ボール鬼) ・サイドマンゲーム ・6対6ゲーム チームの課題や個人の役割の確認、練習を行う。	運動やスポーツの学び方 技術・戦術・作戦 練習計画・練習目標 の立て方	○サイドにボールを出し、空いているスペースに走り込むことを意識できるようにする。 ・タスクゲーム(宝島ボール) ・サイドマンゲーム ・6対6ゲーム	○相手のチームの特徴に応じた作戦を工夫してゲームを楽しむようにする。 途中に作戦タイムをはさみ、相手の特徴に応じた、守り攻めを確認する。 ・タスクゲーム(混在パスゲーム) ・6対6ゲーム	○チームの目標や課題、自己の役割を明確に設定し、全力でゲームに取り組みようとする。 ・チームとしての戦術が1回でも使えるように工夫する。 ・6対6ゲーム
理論との関連	運動することの必要性 楽しさについて触れながら授業を行う。				プレイをすること、プレイをしたり指示を出したり応援すること、ゲームの運営にかかわることに触れながら授業を行う。			さまざまな技術の確認や戦術、作戦の重要性に触れながら授業を行う。				運動やスポーツの必要性や楽しさについて感じることができたか。 運動やスポーツの多様なかわり方について学ぶことができたか。 運動やスポーツの学び方について理解できたか。	

5 検証授業の結果と考察

研究の主題に迫るため、検証授業から得られたデータを基に、設定した分析の視点に沿って分析し、学習形態・教材の工夫をすることにより、体育理論の学習内容を習得することができたか及び、体育理論で得た知識を運動領域（ハンドボール）の学習活動で活用することができたかについて考察していくことにする。

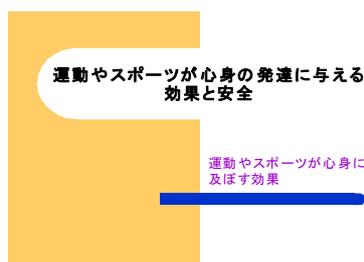
なお、分析、考察を進める上で、文中に使用したデータは次の通りである。

また、表中の生徒の記述内容は、できる限り生徒が記述したままの表現で載せることとする。

表3-2 各時間の出席者数

1年体育理論 在籍 38名								
1時間目	2時間目	3時間目						
38名	38名	36名						
2年体育理論 在籍 39名								
1時間目	2時間目	3時間目						
38名	38名	38名						
3年体育理論 在籍 38名								
1時間目	2時間目	3時間目						
33名	34名	35名						
1年ハンドボール								
1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	6時間目	7時間目	8時間目	9時間目
38名	38名	38名	38名	37名	37名	37名	37名	37名

*事前・事後アンケートは1年38名、2年38名、3年35名実施

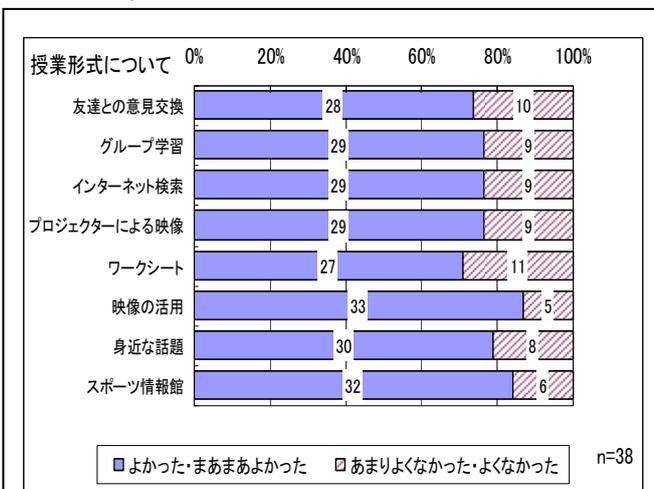


(1) 学習形態や教材の工夫をすることにより、体育理論の学習内容を習得することができたか。

ア 学習形態や教材の工夫が体育理論の授業に有効であったか。

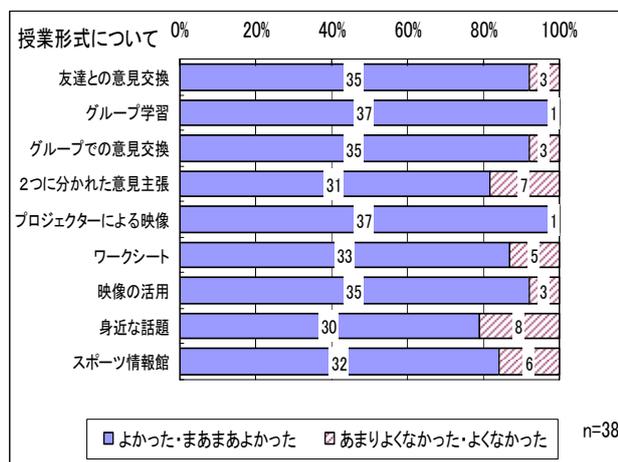
(ア) 事後アンケート結果分析（授業形式について）

図3-1(1)は11月に行った1年生の事後アンケートで授業の形式について質問したものである。いずれの形式も70%以上の生徒が「よかった」、「まあまあよかった」と答えていることがわかる。特に、映像の活用については、38名中33名の生徒が「よかった」、「まあまあよかった」と答えている。



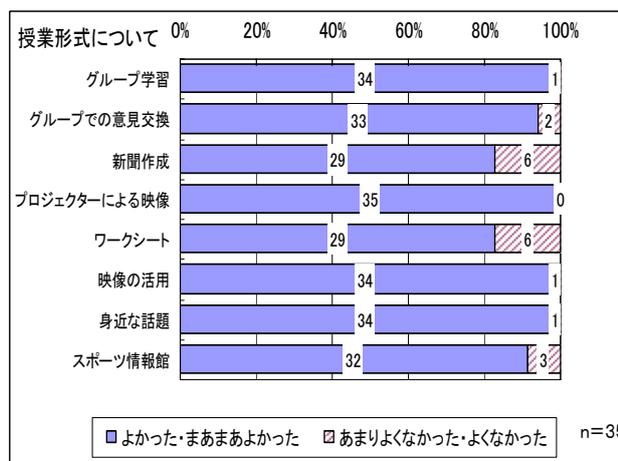
(1)

図3-1(2)は11月に行った2年生の事後アンケートで授業の形式について質問したものである。いずれの形式も80%以上の生徒が「よかった」、「まあまあよかった」と答えていることがわかる。特に、グループ学習（ブレインストーミング、KJ法）とプロジェクターによる映像（プレゼンテーションソフトの活用）については、38名中37名の生徒が「よかった」、「まあまあよかった」と答えている。



(2)

図3-1(3)は11月に行った3年生の事後アンケートで授業の形式について質問したものである。いずれの形式も80%以上の生徒が「よかった」、「まあまあよかった」と答えていることがわかる。特に、プロジェクターによる映像（プレゼンテーションソフトの活用）は生徒全員が「よかった」、「まあまあよかった」と答えている。



(3)

図3-1 事後アンケート「授業形式について」

表3-3(1)は図3-1に示した事後アンケートで、授業の形式で「よかった」、「まあまあよかった」と答えた生徒に、「授業で行った学習形態ではどのようなところが有効であったか」についての質問の回答を抜粋したものである。

友達との意見交換〈バズセッション〉・グループ学習〈ブレインストーミング、KJ法〉・グループでの意見交換〈グループディスカッション〉の場面では、自分の考えだけではなく、友達の意見を聞くことで新たな考えを持ち、考えが広がる様子が記述内容からうかがえる。また、1年生で行ったインターネット検索では情報を取り出すことで、運動やスポーツに対し自分には無かった考えを発見できる生徒がいた。ディベートでは、自分の考えだけでなく、友達の考えにも納得できる理由を見付けている。新聞作成では、スポーツに対する様々な視点を持つことが可能になると感じる生徒もいた。

表3-3(1) 事後アンケート 授業形式の有効だった点 記述(抜粋)

学習形態
<p>○友達との意見交換〈バズセッション〉(1年生・2年生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分と違った意見を持っていて新しいことが分かった。(1年生) ・友達の意見を聞いて発見があったから。(2年生)
<p>○グループ学習〈ブレインストーミング〉(1年生)</p> <p style="padding-left: 2em;">〈ブレインストーミング、KJ法〉(2年生・3年生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達との意見交換により多くの考えを学べた。(1年生) ・みんなで話し合えたから気付かなかったことも知った。(2年生) ・自分と違った意見を持っていて新しいことが分かった。(3年生)
<p>○インターネット検索(1年生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットでやると分かりやすかった。 ・スポーツにかかわるには、いろいろな方法が考えられると思った。
<p>○グループでの意見交換〈グループディスカッション〉(2年生・3年生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・皆同じ意見ではないことが良かった。考えが広がる。(2年生) ・人それぞれの意見があって、考える事があったから。(3年生)
<p>○2つに分かれた意見主張〈ディベート〉(2年生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分と意見は違っても、相手の考えについて考えることができたから。 ・どちらにも納得できる理由がたくさん出てきた。
<p>○新聞作成(3年生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツへの関心を高めながら新聞作成することができた。 ・まとめをしながら班ごとにいろいろな視点でスポーツを見られるようになる。

表3-3(2)は図3-1に示した事後アンケートで、授業の形式で「よかった」、「まあまあよかった」と答えた生徒に、「授業で使用した学習教材ではどのようなところが有効であったか」についての質問の回答を抜粋したものである。

ワークシートは1時間の振り返りや、自分の考えの確認に役立っていることが分かる。

映像の活用は、学年によっても違うが、スポーツの場面を見せることでその時間の学習の内

容を知ることができたと答えている。身近な話題から授業を展開することで、体育理論を身近に感じさせることができていたようである。スポーツ情報は、生徒の前時の感想や意見を載せたり、スポーツに関する情報を載せたりした。

表 3-3 (2) 事後アンケート 授業形式の有効だった点 記述 (抜粋)

<p>学習教材</p> <p>○プロジェクターによる映像〈プレゼンテーションソフト〉(1年生・2年生・3年生)</p> <ul style="list-style-type: none">・言葉の説明だけより分かりやすかった。(1年生)・言葉だけの説明よりもやる気がわく。(2年生)・分かりやすく、効果的だった。(3年生) <p>○ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none">・1時間の振り返りをするのができた。(1年生)・感想を書いておくとその時の自分の考えがわかるから。(2年生)・知識が入ってくる感じがしたから。(3年生) <p>○映像の活用</p> <ul style="list-style-type: none">・映像があって、より内容を知ることができた。(1年生)・言葉だけでなく映像があって分かりやすかった。(2年生)・見るほうが聞くだけより何倍も分かりやすい(3年生) <p>○身近な話題</p> <ul style="list-style-type: none">・身近な話で理解しやすかった。(1年生)・体育理論が身近に感じて良い。(2年生)・身近なことにおき換えるとイメージしやすいから。(3年生) <p>○スポーツ情報館〈スポーツだより〉</p> <ul style="list-style-type: none">・読むと知識が増えてよかった。(1年生)・色々な情報を知ることができた。興味がわいた。(2年生)・自分の知らないことを知ることができるから。(3年生)

(イ) 事後アンケート結果分析 (ねらいとした観点との比較について)

図 3-2 から図 3-12 は、図 3-1 に示した事後アンケートで授業の形式で「よかった」「まあまあよかった」と答えた生徒に、「授業で行った学習形式ではどのようなところが有効であったか」を質問した際の回答を、関心・意欲・態度、思考・判断、知識・理解の項目に分類したものである。

図3-2は1年生のバズセッションについて、生徒が有効である理由として記述した内容の分類結果である。バズセッションは1年生では関心・意欲・態度が高まることをねらいとして授業で活用した。この学習を通し、有効であった理由として関心・意欲・態度に関する記述は19個、思考・判断2個、知識・理解7個となっている。

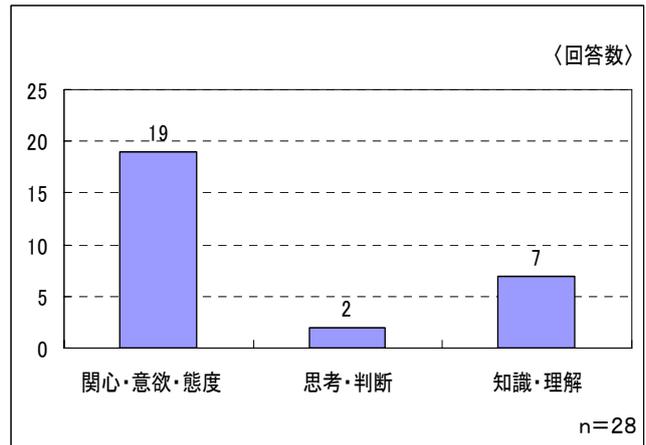


図3-2 1年生 バズセッションについて生徒が有効であると記述した内容の分類

図3-3は1年生のインターネット検索について、生徒が有効である理由として記述した内容の分類結果である。インターネット検索は思考・判断を高めることをねらいとして授業で活用した。この学習を通し、有効であった理由として、関心・意欲・態度に関する記述は15個、思考・判断0個、知識・理解5個となっている。

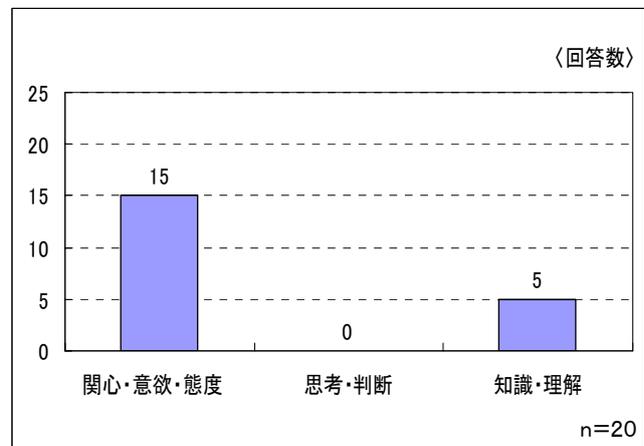


図3-3 1年生 インターネット検索について生徒が有効であると記述した内容の分類

図3-4は1年生のブレインストーミングについて、生徒が有効である理由として記述した内容の分類結果である。1年生ではブレインストーミングは知識・理解を高めることをねらいとして、授業で活用した。この学習を通し有効であった理由として、関心・意欲・態度に関する記述は13個、思考・判断8個、知識・理解6個となっている。

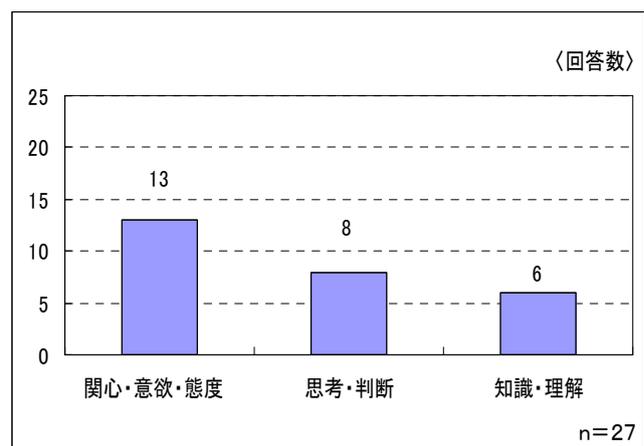


図3-4 1年生 ブレインストーミングについて生徒が有効であると記述した内容の分類

図3-5は2年生のブレインストーミング、KJ法について、生徒が有効である理由として記述した内容の分類結果である。2年生ではブレインストーミング、KJ法は思考・判断を高めることをねらいとして、授業で活用した。この学習を通し有効であった理由として、関心・意欲・態度に関する記述は22個、思考・判断6個、知識・理解7個となっている。

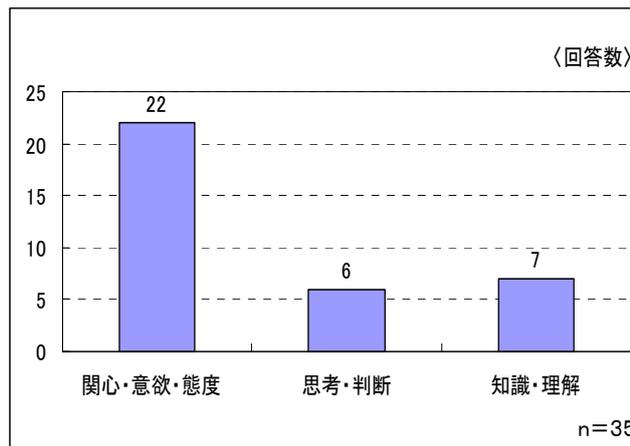


図3-5 2年生 ブレインストーミング、KJ法について生徒が有効であると記述した内容の分類

図3-6は2年生のディベートについて、生徒が有効である理由として記述した内容の分類結果である。ディベートは関心・意欲・態度を高めることをねらいとして授業で活用した。この学習を通し有効であった理由として、関心・意欲・態度に関する記述は12個、思考・判断9個、知識・理解7個となっている。

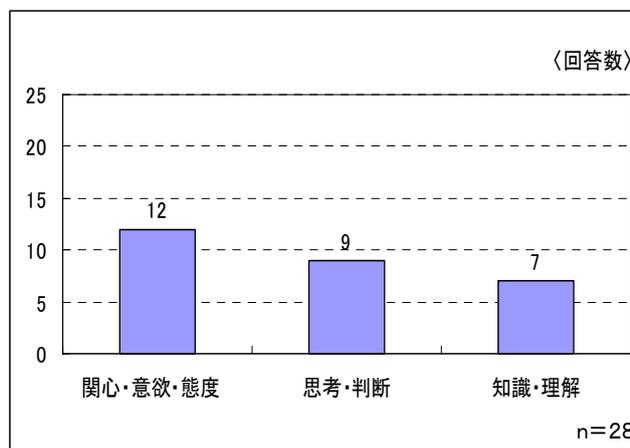


図3-6 2年生 ディベートについて生徒が有効であると記述した内容の分類

図3-7は2年生のグループディスカッションについて、生徒が有効である理由として記述した内容の分類結果である。2年生ではグループディスカッションは知識・理解を高めることをねらいとして授業で活用した。この学習を通し有効であった理由として、関心・意欲・態度に関する記述は15個、思考・判断8個、知識・理解7個となっている。

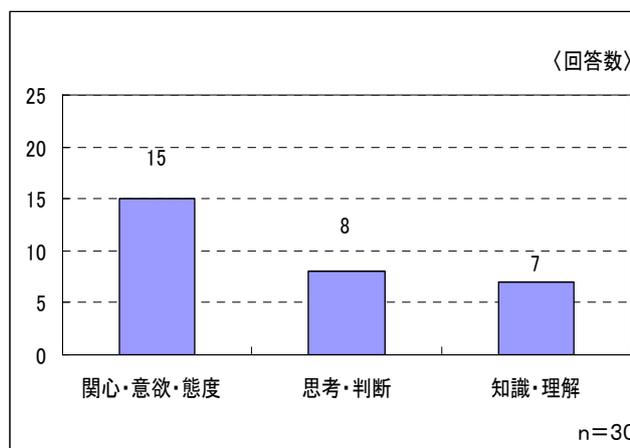


図3-7 2年生 グループディスカッションについて生徒が有効であると記述した内容の分類

図3-8は3年生の新聞作成について、生徒が有効である理由として記述した内容の分類結果である。新聞作成は思考・判断を高めることをねらいとして授業で活用した。この学習を通し有効であった理由として関心・意欲・態度に関する記述は13個、思考・判断4個、知識・理解1個となっている。

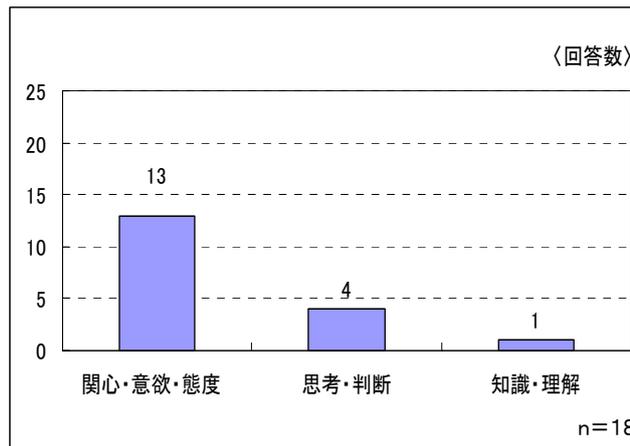


図3-8 3年生新聞作成について生徒が有効であると記述した内容の分類

図3-9は3年生のグループディスカッションについて、生徒が有効である理由として記述した内容の分類結果である。3年生ではグループディスカッションは思考・判断を高めることをねらいとして授業で活用した。この学習を通し有効であった理由として、関心・意欲・態度に関する記述は18個、思考・判断7個、知識・理解7個となっている。

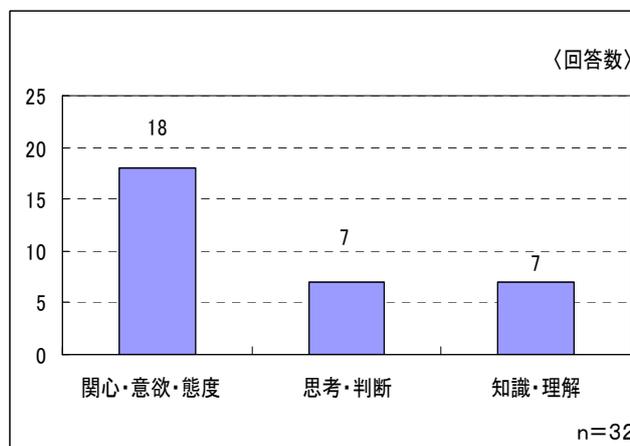


図3-9 3年生 グループディスカッションについて生徒が有効であると記述した内容の分類

図3-10は3年生の映像の活用について生徒が有効である理由として記述した内容の分類結果である。映像の活用は関心・意欲・態度が高まることをねらいとして授業で行った。有効である理由として関心・意欲・態度に関する記述は16個、思考・判断3個、知識・理解7個となっている。

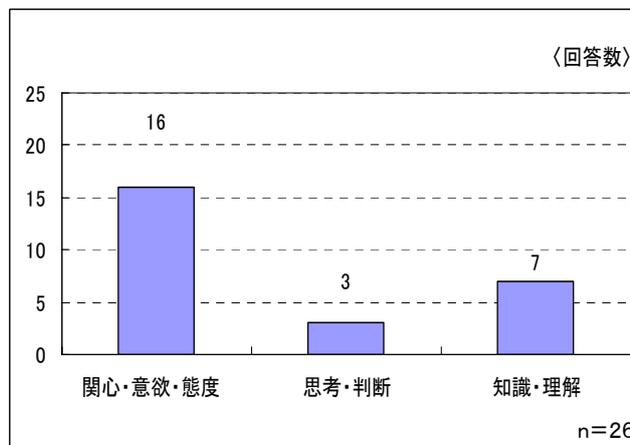


図3-10 3年生 映像の活用について生徒が有効であると記述した内容の分類

図3-11は3年生のブレインストーミング、KJ法について、生徒が有効である理由として記述した内容の分類結果である。3年生ではブレインストーミング、KJ法は関心・意欲・態度を高めることをねらいとして、授業で活用した。この学習を通し有効であった理由として、関心・意欲・態度に関する記述は20個、思考・判断3個、知識・理解8個となっている。

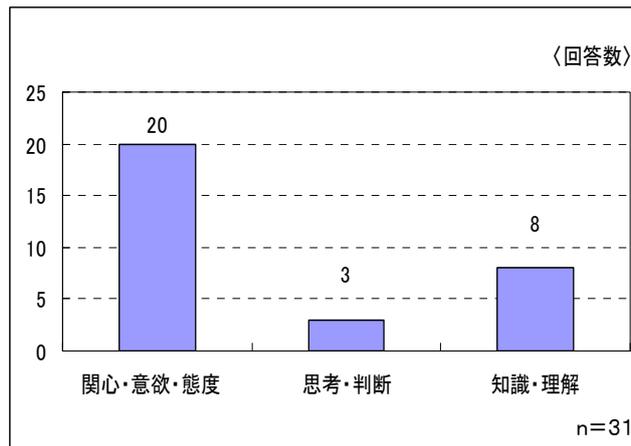


図3-11 3年生 ブレインストーミング、KJ法について生徒が有効であると記述した内容の分類

図3-12は3年生のワークシートの活用について、生徒が有効である理由として記述した内容の分類結果である。ワークシートは知識・理解が高まることをねらいとして授業で活用した。有効である理由として関心・意欲・態度に関する記述は9個、思考・判断0個、知識・理解15個となっている。

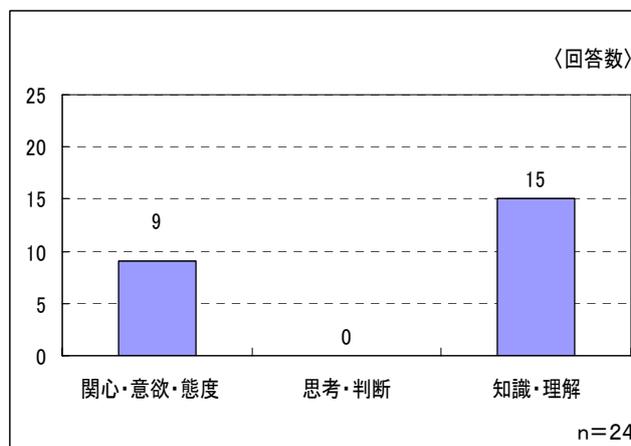


図3-12 3年生 ワークシートの活用について生徒が有効であると記述した内容の分類

表3-4(1)(2)(3)は事前に教師の立てた、各時間における学習形態や教材の工夫の主なねらいとした観点と、図3-2から図3-12に示した、事後アンケート中で、生徒が有効であると記述した内容の分類を照らし合わせて、比較したものである。結果の欄には、生徒が学んだと思われる観点が一番多く、教師のねらいと一致したと思われるものには(○)、学んだと思われる観点が2番目だったものには(△)、3番目だったものには(-)を記載した。

	学習形態・学習教材	主なねらいとする観点	アンケートから見た生徒が学んだと思われる観点	結果
1 時 間 目	・バズセッション ・発問の工夫 ・プレゼンテーションソフトの活用、映像の活用 ・スポーツだより ・ワークシート	関心・意欲・態度	関心・意欲・態度	○
2 時 間 目	・インターネット検索 ・発問の工夫 ・バズセッション ・プレゼンテーションソフトの活用、映像の活用 ・スポーツだより ・ワークシート	思考・判断	関心・意欲・態度	—
3 時 間 目	・ブレインストーミング ・発問の工夫 ・プレゼンテーションソフトの活用、映像の活用 ・スポーツだより ・ワークシート	知識・理解	関心・意欲・態度	—

表3-4(1) 第1学年 ねらいとした観点との比較について

表3-4(2) 第2学年 ねらいとした観点との比較について

	学習形態・学習教材	主なねらいとする観点	アンケートから見た生徒が学んだと思われる観点	結果
1 時 間 目	・ブレインストーミング、KJ法 ・発問の工夫 ・プレゼンテーションソフトの活用、映像の活用 ・ワークシート	思考・判断	関心・意欲・態度	—
2 時 間 目	・ディベート ・バズセッション ・発問の工夫 ・プレゼンテーションソフトの活用、映像の活用 ・スポーツだより ・ワークシート	関心・意欲・態度	関心・意欲・態度	○
3 時 間 目	・グループディスカッション ・発問の工夫 ・プレゼンテーションソフトの活用 ・スポーツだより ・ワークシート	知識・理解	関心・意欲・態度	—

表3-4 (3) 第3学年 ねらいとした観点との比較について

	学習形態・学習教材	主なねらいとする観点	アンケートから見た生徒が学んだと思われる観点	結果
1 時 間 目	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞作成 ・グループディスカッション ・発問の工夫 ・プレゼンテーションソフトの活用、映像の活用 ・ワークシート 	思考・判断	関心・意欲・態度	△
2 時 間 目	<ul style="list-style-type: none"> ・映像の活用 ・ブレインストーミング、KJ法 ・発問の工夫 ・プレゼンテーションソフトの活用 ・スポーツだより ・ワークシート 	関心・意欲・態度	関心・意欲・態度	○
3 時 間 目	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・発問の工夫 ・プレゼンテーションソフトの活用、映像の活用 	知識・理解	知識・理解	○

(ウ) 映像による分析

学習形態や教材の工夫が体育理論の授業に有効であるのかを映像により分析した。◎○△は中学校保健体育科教諭3名により分析し、3名の教諭全員が生徒の取り組みが良く、体育理論の学習に有効であると判断したのものには◎、3名の教諭のうち1～2名が有効だと判断したのものには○、3名全員が有効でなかったと判断しなかったものを△として整理した。

表3-5 学習形態や教材の有効性

1年生		2年生		3年生	
・バズセッション	◎	・バズセッション	◎	・新聞作成	○
・インターネット検索	○	・ブレインストーミング、KJ法	◎	・グループディスカッション	○
・ブレインストーミング	◎	・ディベート	◎	・ブレインストーミング、KJ法	◎
・発問の工夫	○	・グループディスカッション	◎	・映像の活用	◎
・スポーツだより	○	・発問の工夫	◎	・発問の工夫	◎
・ワークシート	◎	・スポーツだより	○	・スポーツだより	○
・プレゼンテーションソフトの活用・映像の活用	◎	・ワークシート	◎	・ワークシート	◎
		・プレゼンテーションソフトの活用・映像の活用	◎	・プレゼンテーションソフトの活用	◎

(1) ア 「学習形態や教材の工夫が、体育理論の授業に有効であったか。」についての考察

(ア) の図 3-1 に示す事後アンケートの結果のように、いずれの形式についても 1 年生は 70%以上、2 年生は 80%以上、3 年生は 80%以上の生徒が有効であったと答えている。また、表 3-3 (1)、表 3-3 (2) に示す通り、有効であると判断できる記述も多く見られた。

(イ) の事後アンケートの結果分析(ねらいとした観点との比較) 図 3-2 から図 3-12 では、学習形態や学習教材を工夫する中で、教師が主なねらいとして考えている観点が、必ずしも、生徒の学んだと思われる観点と一致するものではないことが分かった。しかしながら、後段の検証の視点でも述べるが、毎時の生徒の記述した内容の分析では、教師のねらいとする観点と、生徒が学んだと思われる観点には一致する部分が多く見られた。事後アンケートということで、生徒が有効であるとした記述内容が関心・意欲・態度にかたよってしまった部分もあると考える。

1 年生のバズセッションは、3 時間扱いの最初の時間に使うことで、関心・意欲・態度を高めることに有効であることが分かった。2 人組での話し合いということで、自分の考えを発表しやすく、お互いの考えも良く伝わっていた。インターネット検索はスポーツを支える活動について深く考え、思考・判断を高めるために行ったが、生徒にはインターネットを使うということ自体の興味の強い授業となってしまった。今後、授業を行う際には留意していかなければならない。ブレインストーミングは、知識・理解を高めるために、練習の仕方を題材として行ったが、生徒にはたくさん意見を出すことや、付箋を貼り付ける作業が面白いという感想に留まる傾向が見られた。今後、授業を行う際には留意していかなければならない。

2 年生のブレインストーミング、KJ 法は、思考・判断を高めるために運動やスポーツの効果などを題材として行ったが、生徒には活動の楽しさとして受け取られてしまう傾向が見られた。ディベートは関心・意欲・態度を高めるために行ったが、生徒は 2 つの意見に対し、自分なりの考えを持ちながら討議を行うことができていた。グループディスカッションは知識・理解を高めることをねらいとして行った。導入の場面でグループディスカッションを使用した。展開部分で使用することで知識・理解を深めることにつながると思われる。

3 年生の新聞作成やグループディスカッションは思考・判断を高めるために行ったが、学んだ内容を生かした新聞作成より、新聞をつくる作業が楽しいという印象で終わってしまう傾向にあるので、今後、授業に取り入れる際には留意しなければならない。また、決まった生徒だけが新聞作成を行ってしまうことも考えられるので、分担なども考えていかなければならない。映像の活用、ブレインストーミング、KJ 法は、関心・意欲・態度を高めるために行ったが、特に映像の活用は、生徒の興味を高めることに有効に働き、ブレインストーミングや KJ 法でのたくさんの意見に反映できたと思われる。ワークシートは知識・理解を高めるために毎時間活用していたが、障害者スポーツを行う際の工夫を考える際にも有効であったと考える。

(ウ) の映像による分析では、表 3-5 に示すとおり、学習形態や教材の工夫が、生徒の学習活動を促進させる効果が見られた。

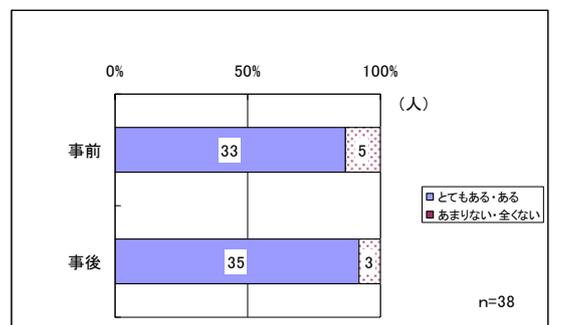
よって、(ア) (イ) (ウ) の結果から、学習形態の工夫や教材の工夫は、体育理論の授業に有効であったと考える。

イ 運動やスポーツに対する関心・意欲・態度は高まったか。

検証にあたっては、生徒の事前・事後アンケートの比較による分析や、ワークシートの記述内容分析、映像による分析で検証を行った。

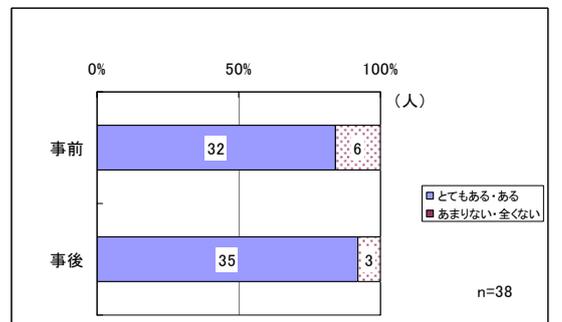
(ア) 事前・事後のアンケートの比較による分析

図3-13(1)は、9月と11月に行った1年生の事前・事後アンケートの中で、「運動やスポーツに興味・関心はありますか」における人数の割合である。「とてもある」、「ある」と答えた人数は33人から35人に増加し、「あまりない」、「全くない」の人数は5人から3人に減少していることが分かる。



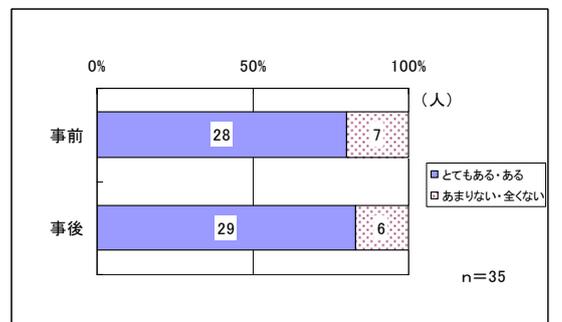
(1)

図3-13(2)は、9月と11月に行った2年生の事前・事後のアンケートの中で「運動やスポーツへの興味・関心はありますか」における人数の割合である。「とてもある」、「ある」と答えた人数は32人から35人に増加し、「あまりない」、「全くない」と答えた人数は6人から3人に減少していることが分かる。



(2)

図3-13(3)は、9月と11月に行った3年生の事前・事後のアンケートの中で「運動やスポーツへの興味・関心はありますか」における人数の割合である。「とてもある」、「ある」と答えた人数は28人から29人に増加し、「あまりない」、「全くない」と答えた人数は7人から6人に減少していることが分かる。



(3)

図3-13 運動やスポーツに興味・関心はありますか

(イ) ワークシートへの記述内容分析

図3-14、図3-15、図3-16は各学年の授業後の自己評価による「運動やスポーツに関する興味・関心は高まりましたか」における人数の割合及び、ワークシートの学習後の感想を3観点にわけて分類したものである。ワークシートの記述内容は、関心・意欲・態度に関するものは「おもしろい」、「楽しかった」などの項目とし、思考・判断は「考える」「思う」、「見直せた」、「役立てる」などの自分の考えを述べている項目とし、知識・理解は「知った」、「わかった」、「学べた」と記入されている項目で分類した。

1年生の1時間目は「運動やスポーツの必要性和楽しさ」についての学習であった。この授業では主に関心・意欲・態度を高めることをねらいとして、バズセッションを取り入れ、プレゼンテーションソフトの活用や発問の工夫をしながら授業を行った。図3-14(1)に示すようにこの授業では、79%の生徒が興味・関心が高まったと答えており、学習後の

ワークシートへの記述内容を分析すると図3-14(2)に示すように関心・意欲・態度(14) 思考・判断(8) 知識・理解(21)の記述があった。

また、表3-6には興味・関心が高まったと感じられるワークシートからの記述を抜粋する。

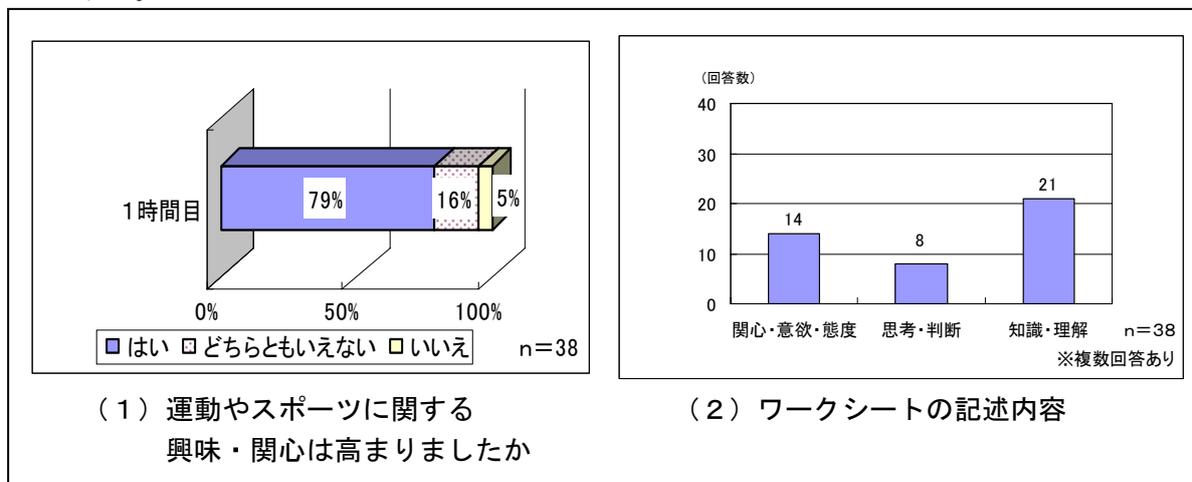


図3-14 1年生1時間目 授業の自己評価及び、授業後の感想の分類

表3-6 1年生 興味・関心が高まったと感じられる学習カードからの記述(抜粋)

- ・初めて体育理論をやりました。面白かったです。ハンドボールの授業が楽しみです。
- ・改めて、運動やスポーツに関心を持ちました。今日のことを役立てたいです。
- ・チーム、個人にかかわらずスポーツは良いことだと分かった。
- ・もっと運動やスポーツがやりたくなってきた。
- ・スポーツをすることがもっと楽しくなりそう。

2年生の2時間目は「運動やスポーツが社会性の発達に及ぼす効果」についての学習であった。この授業では主に関心・意欲・態度を高めることをねらいとしてディベートやバズセッションを取り入れ、プレゼンテーションソフトの活用や発問の工夫をしながら授業を行った。

図3-15(1)に示すようにこの授業では、84%の生徒が興味・関心が高まったと答えており、学習後のワークシートへの記述内容を分析すると図3-15(2)に示すように、関心・意欲・態度(9) 思考・判断(36) 知識・理解(10)の記述があった。

表3-7には興味・関心が高まったと感じられるワークシートからの記述を抜粋する。

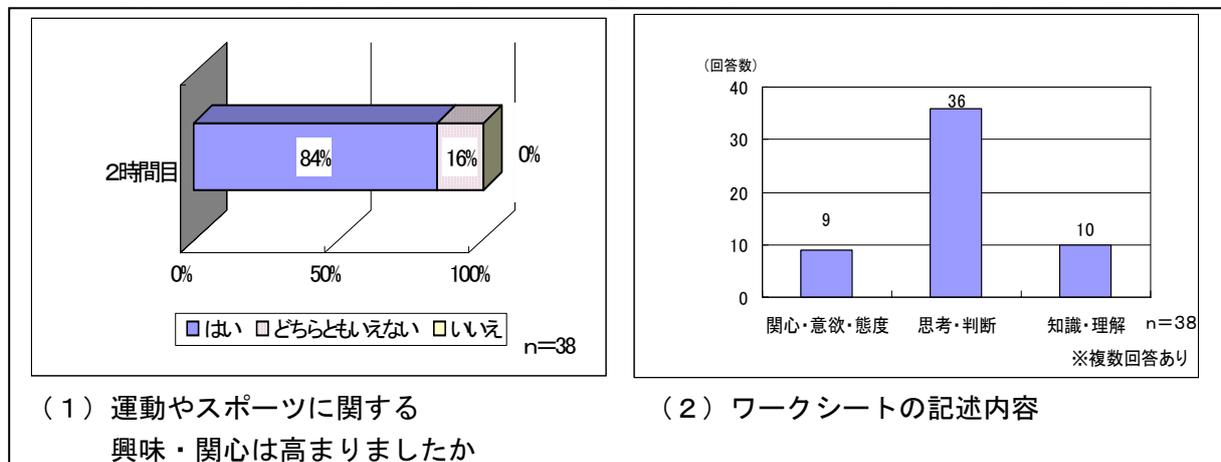


図3-15 2年生2時間目 授業の自己評価及び、授業後の感想の分類

表 3-7 2年生 興味・関心が高まったと感じられる学習カードからの記述（抜粋）

- ・「ルールが大切か」、「マナーが大切か」については、今まで考えたことがなかったのでごく悩みました。体育理論の授業では今まで深く考えていなかったことをたくさん学べるので楽しいです。
- ・お互いの意見に納得する場面がいくつかあった。スポーツは本当にいろいろな面がありますますが頑張って行きたいと思った。

3年生の2時間目は「国際的なスポーツ大会などが果たす文化的な意義や役割」として、主にオリンピックの理念や歴史、果たす役割についての学習を行った。この授業では主に関心・意欲・態度を高めることをねらいとして、参加型学習としてブレインストーミング、KJ法を取り入れ、北京オリンピックの映像を使い授業を展開した。図3-16(1)に示すように、この授業では、85%の生徒が興味・関心が高まったと答えている。学習後のワークシートへの記述内容を分析すると図3-16(2)に示すように、関心・意欲・態度(13) 思考・判断(25) 知識・理解(20)の記述があった。

また、表3-8には興味・関心が高まったと感じられるワークシートからの記述を抜粋する。

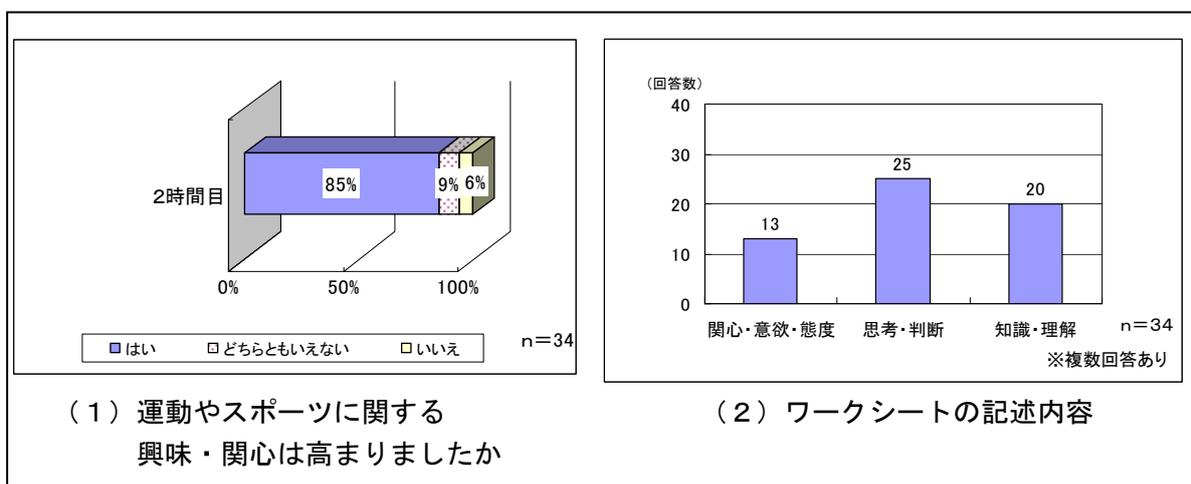


図 3-16 3年生2時間目 授業の自己評価及び、授業後の感想の分類

表 3-8 3年生 興味・関心が高まったと感じられる学習カードからの記述（抜粋）

- ・スポーツをすることはとても良いことで、自分でも毎日走ろうかと思いました。スポーツのつながりはすごいと思った。
- ・パラリンピックなど障害者のスポーツを見てみたいです。
- ・オリンピックについてあまり気にしたことがなかったので、興味を持つ良い機会だった。
- ・国際大会などの意味合いが分かったので、そういう目で早くスポーツを見たいです。

(ウ) 映像による分析

映像による分析では参加型学習に取り組む生徒の様子を分析した。◎○△は中学校保健体育科教諭3名により分析し、3名の教諭全員が、生徒全員が良く取り組めたと判断したのものには◎、3名の教諭のうち1～2名の教諭が判断したものには○、3名全員が判断しなかったものを△として整理した。

表3-9 参加型学習への取り組み状況

1年生		2年生		3年生	
・バズセッション	◎	・バズセッション	◎	・新聞作成	○
・インターネット検索	◎	・ブレインストーミング、KJ法	◎	・グループディスカッション	◎
・ブレインストーミング	◎	・ディベート	○	・ブレインストーミング、KJ法	◎

(1) イ 「運動やスポーツに対する、関心・意欲・態度は高まったか」についての考察

運動やスポーツに関する関心・意欲・態度を高めるために、学習形態の工夫や教材の工夫を取り入れながら授業を行った。

1年生では、図3-13(1)事前、事後のアンケート結果に示すように、生徒の運動やスポーツに対する興味・関心は高まっている。興味・関心が高まった理由として考えられるのは、図3-1(1)事後アンケートの授業形式に対する質問の結果や、表3-6に示したようなワークシートの記述からも、学習形態や教材の工夫が有効であったと思われる。図3-14(2)に示すワークシートへの分析を見ると、1時間目の授業では運動やスポーツの概念、スポーツの持つ特性についての授業を行ったため、初めて知る内容に興味・関心だけでなく知識・理解の記述が多い結果となっている。しかし、図3-14(1)に示すように、「運動やスポーツに対する興味・関心は高まりましたか」という問いに対し79%の生徒が高まったと答えている。また映像からもその様子が見られる。このような結果から、バズセッション、発問の工夫、プレゼンテーションソフトの活用は、関心・意欲・態度を高めることに有効であり、特に発問の工夫を行うことで、バズセッションなどの話し合い活動が活発に行われるようになると思われる。

2年生では図3-13(2)事前、事後のアンケート結果に示すように、生徒の運動やスポーツに対する興味・関心は高まっている。興味・関心が高まった理由として考えられるのは、図3-1(2)事後アンケートの授業形態に対する質問の結果や、表3-7に示したようなワークシートの記述からも、学習形態や教材の工夫が有効であったと思われる。図3-15(2)に示すワークシートへの分析を見ると、2時間目の授業では、楽しく運動やスポーツを行うための方法をバズセッションで話し合ったり、ディベートを用いお互いの意見を主張しあう場面を設定したりしたため、興味・関心だけでなく思考・判断の記述が多い結果になっている。しかし、図3-15(1)に示すように、「運動やスポーツに対する興味・関心は高まりましたか」という問いに対し84%の生徒が高まったと答えている。思考・判断の記述が多い授業でも興味・関心は高く、映像からもその様子は見られる。このような結果からディベートやバズセッション、発問の工夫、プレゼンテーションソフトの活用は、関心・意欲・態度を高めることに有効であり、特にディベートではクラスを2つに分けるような集団で話し合いをするよりも、4～6人位の小さな集団で話し合いをする方が、関心・意欲・態度は高まると考える。

3年生では、図3-13(3)事前、事後のアンケート結果に示すように、生徒の運動やスポーツに対する興味・関心は高まっている。興味・関心が高まった理由として考えられるのは、図3-1(3)事後アンケートの授業形式に対する質問の結果や、表3-8に示したようなワークシートの記述からも、学習形態や教材の工夫が有効であったと思われる。図3-16(2)に示すワークシートへの分析を見ると、2時間目の授業では、オリンピックなどの国際大会の持つ役割についての学習を行い、北京オリンピックの映像を見たり、ブレインストーミングやKJ法でスポーツの持つイメージを出し合い、分析する作業を取り入れたため、思考・判断についての記述が多い結果となっている。

しかし、図3-16(1)に示すように、「運動やスポーツに対する興味・関心は高まりましたか」という問いに対し85%の生徒が高まったと答えている。思考・判断の記述が多い授業でも興味・関心は高く、映像からもその様子が見られる。このような結果からブレインストーミング、KJ法や映像の活用、発問の工夫、プレゼンテーションソフトの活用は、関心・意欲・態度を高めることに有効であり、特に映像の活用をすることで、生徒の関心はさらに高まると考えられる。

(ア) 事前・事後のアンケートの比較による分析や(イ) ワークシートへの記述内容分析(ウ) 映像による分析の結果から、運動やスポーツに対する、関心・意欲・態度は高まったと考える。

ウ 運動やスポーツに対する思考・判断は高まったか。

検証にあたっては、ワークシートへの記述内容分析、生徒が使用した教材内容の分析で検証を行った。

(ア) ワークシートへの記述内容分析

図3-17、図3-19、図3-21は各学年の授業後の自己評価による「自分の考えを持つことができましたか」における人数の割合及び、ワークシートの学習後の感想を3観点にわけて分類したものである。ワークシートの記述内容は、関心・意欲・態度に関するものは「おもしろい」、「楽しかった」などの項目とし、思考・判断は「考える」、「思う」、「見直せた」、「役立てる」などの自分の考えを述べている項目とし、知識・理解は「知った」、「わかった」「学べた」と記入された項目で分類した。

1年生の2時間目の授業では「運動やスポーツへの多様なかかわり方」として「する・見る・支える」についての学習を行った。この授業では主に思考・判断を高めるために、特に「支える」方法についてバズセッションを行い、インターネットを使用し、スポーツボランティアとしてのスポーツへのかかわり方について学習した。自分の考えを持ちながら授業に参加できた生徒は図3-17(1)に示すように76%であった。また、図3-17(2)に示すようにワークシートには思考・判断に関する記述が多かった。

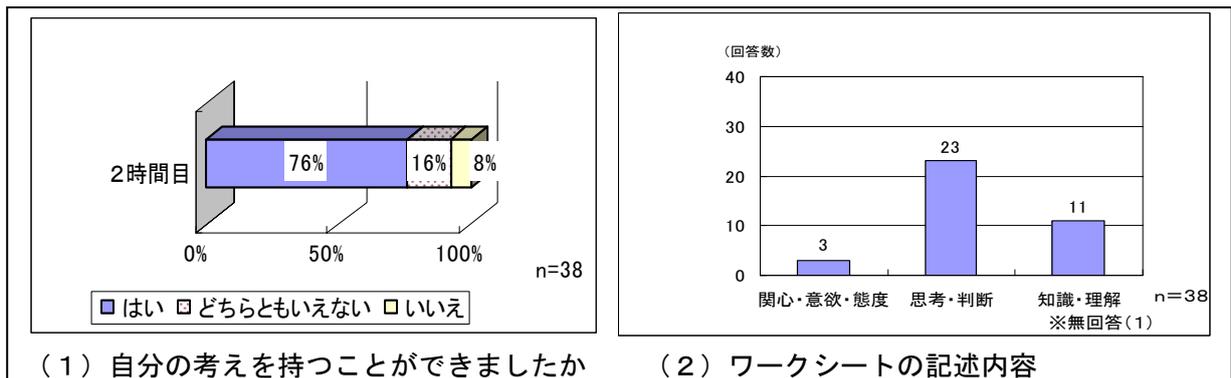


図3-17 1年生2時間目 授業の自己評価及び、授業後の感想の分類

図3-18は1年生の2時間目の授業で「する・見る・支える」を学習した後、「支えるにはどんな方法があるだろう」という発問における生徒の意見を分類したものである。支える方法として「応援」と答えている生徒が多く、次いで「監督やコーチ」の存在をあげている。また、「支えるについて自分ができることはあるか」の問いに対し、全員が「支える」内容を考え記入している。その主なものを表3-10、表3-11に示す。

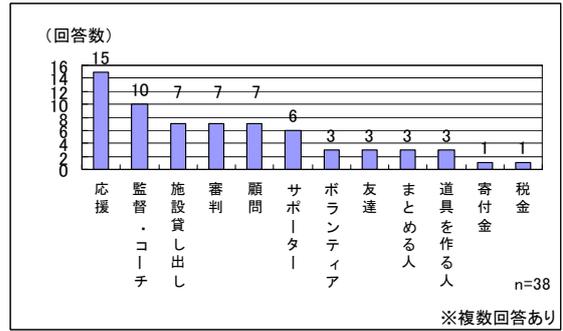


図3-18 「支えるにはどんな方法があるだろう」

表3-10 1年生2時間目「支えるにはどんな方法があるだろう」ワークシート（抜粋）

- ・自分から進んでボランティアに参加したい。
- ・今、やっているハンドボールの応援や、審判、ボール拾い、記録など自分から協力してやっっていこうと思う。
- ・片付けや準備のささいなことからやるようにする。

表3-11 1年生2時間目「支えるについて自分ができることはあるか」ワークシート（抜粋）

- ・授業の中で、審判・ボール拾いなど積極的にやる。
- ・自分から進んでボランティアに参加したい。
- ・準備や片付けなどのささいなこと。
- ・部活の大会、実技の授業の応援。

2年生の1時間目の授業では「運動やスポーツが心身に及ぼす効果」の学習であった。この授業では主に思考・判断を高めることをねらいとして、ブレインストーミング、KJ法を取り入れ、プレゼンテーションソフトの活用や発問の工夫をしながら授業を行った。自分の考えを持ちながら授業に参加できた生徒は図3-19(1)に示すように95%であった。また、図3-19(2)に示すようにワークシートには思考・判断に関する記述が多かった。

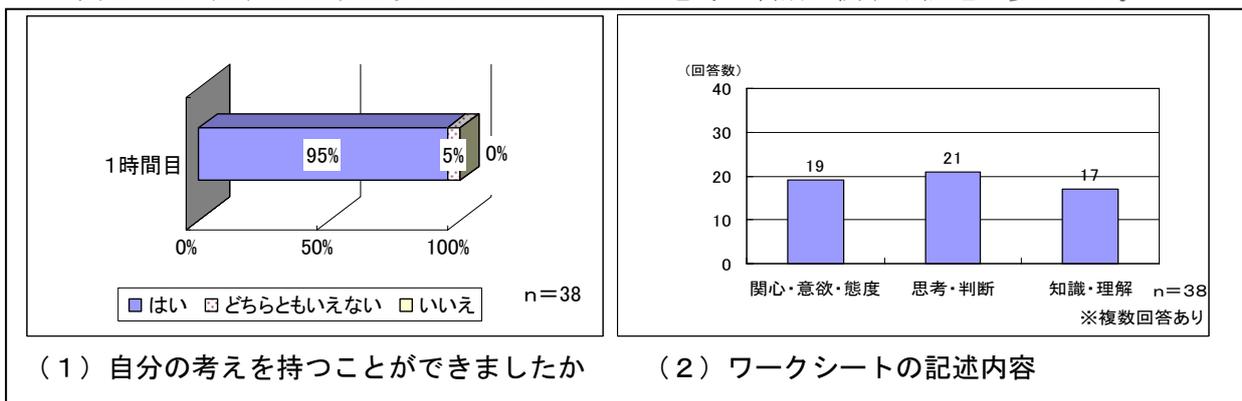


図3-19 2年生1時間目 授業の自己評価及び、授業後の感想の分類

図3-20は2年生の2時間目の授業で「運動やスポーツが社会性の発達に及ぼす効果」の学習の中で、「楽しく運動やスポーツを行うためにはどのようなことを心がけたらよいか」や「ルールがなかったらどうなるか」などを考えた後に、「運動やスポーツでは結果が全てかルール・マナーが大切か」という発問に対する結果である。図3-20に示すように38名中「結果が全て」と答えた生徒は9名「ルール・マナーが大切」と答えた生徒は25名、無答4名であった。どちらも大切だと考える生徒もいて答えられない生徒もいた。また、2つの意見に分かれてディベートを行い、お互いの意見を聞き合うことで新しい考えを持つ生徒も出てきた。

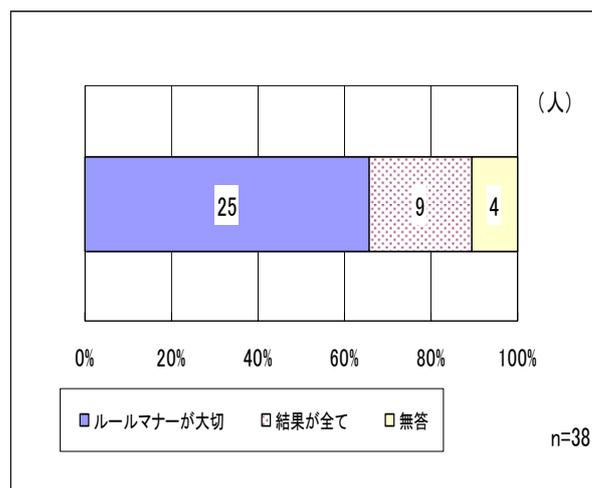


図3-20 「運動やスポーツでは結果が全てかルール・マナーが大切か」

表3-12には「運動やスポーツでは結果が全てかルール・マナーが大切か」をどのような理由で選んだのかを示す。

表3-12 2年生2時間目 ワークシート記述 (抜粋)

結果が全て (9名)	ルール・マナーが大切 (25名)
<ul style="list-style-type: none"> ・入試でも見られるのは結果だから勝たないと意味がない。 ・勝負は勝てば終わる。とりあえず勝てば良い。 ・勝つことが大切だから。余計なことは考えない。 ・結局勝たなければ上の大会に行けない。勝たなければつまらなくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールを守らずに勝ってもつまらなくなる。 ・スポーツの基本ができていないとダメ。 ・安全にできるから。 ・結果が全てではないと思うし、もし勝たなくてもルールやマナーを守って自分が楽しめれば良い。 ・ルールやマナーがなければ、けが人が増える。

3年生の1時間目の授業では「現代生活におけるスポーツの文化的意義」としてスポーツの概念や、スポーツを行う意義についての学習を行った。この授業では主に思考・判断を高めるために「スポーツの良さ、素晴らしさをどのような場面で感じるか」をグループディスカッションで考え新聞作成を行った。自分の考えを持ちながら授業に参加できた生徒は図3-21(1)に示すように85%であった。また、図3-21(2)に示すようにワークシートには思考・判断に関する記述が多かった。

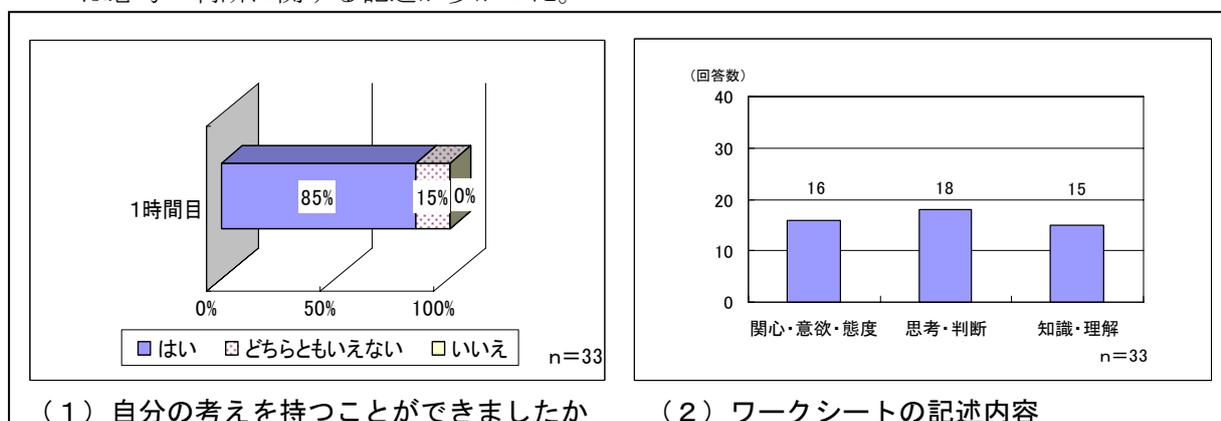


図3-21 3年生 1時間目 授業の自己評価及び、授業後の感想の分類

3年生の1時間目の授業では、さらに「文化としてのスポーツの意義」の中で、「なぜ多くの人々がスポーツに取り組むのか」「スポーツの良さ、素晴らしさをどのような場面で感じるか」に対しグループディスカッションを行いながら考え意見交換を行った。様々な意見が出され、その内容を表3-13に示す。

また、その意見を基に運動会を題材にした新聞作成に取り組んだ。

表3-13 「スポーツの良さ、素晴らしさをどのような場面で感じるか」ワークシート記述（抜粋）

- ・勝負に勝った時など、心の底からわき上がってくる感情を出すときにスポーツの素晴らしさを感じる。
- ・人数が多いほど楽しさが分かる。スポーツでは人との交流ができる。
- ・試合をやった後に、人との交流が深まっているのを見たり、感じたりしたとき。

(イ) 生徒が使用した教材の内容分析

図3-22は1年生の3時間目のブレインストーミングで出た意見の数を示す。授業では運動やスポーツの学び方の中で、運動やスポーツの課題を解決するための合理的な体の動かし方について、ハンドボールのステップシュートを題材に、練習方法や目標、アドバイスについてブレインストーミングで考えを出し合った。練習方法については25個、目標については10個、アドバイスについては15個の考えが出された。

その意見を表3-14、表3-15、表3-16に抜粋する。

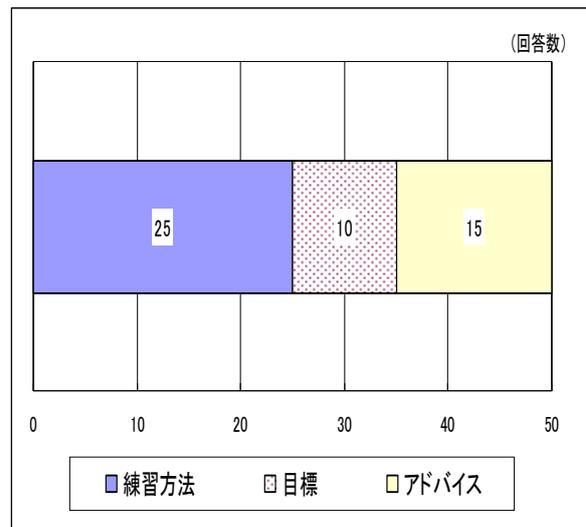


図3-22 運動やスポーツの合理的な体の動かし方

表3-14 「ステップシュートの練習方法」記述（抜粋）

- ・最初は遅いステップで。だんだんステップを速くしていく。
- ・自分のリズムと足を合わせる。
- ・頭の中でステップのリズムを考えてシュートする。
- ・まずは自分のできる歩数で挑戦し、3歩のステップにしていく。

表3-15 「どのような目標を持たせるか」記述（抜粋）

- ・もらってすぐにステップに入るようにしよう。
- ・ボールを好きになろう。
- ・積極的に前にステップを踏もう。
- ・歩数を気にしすぎないようにしよう。

表3-16 「アドバイス」記述（抜粋）

- ・腰をひねって投げよう。
- ・スキップ的なイメージを持ってステップしてみよう。
- ・ボールを持たずにステップしよう。
- ・ステップが苦手なのか、シュートが苦手なのか見分けて練習しよう。

図3-23には2年生の1時間目のブレインストーミング、KJ法の様子を示す。「運動やスポーツが心身に及ぼす効果」の学習で「運動やスポーツをすると、体にどのような効果が期待されますか」、「あなたはどのような時に、運動やスポーツをしたくなりますか」、「運動やスポーツをすると、どのような気分になりますか」、「運動やスポーツで得られる心の変化とは」についてブレインストーミングで意見を出し合い、全部で406個の意見が出された。出された意見を班のリーダーを中心に話し合いを行い、KJ法で分類した。表3-17、表3-18、表3-19表3-20にその一例を抜粋する。



図3-23 2年ブレインストーミング、KJ法

表3-17「運動やスポーツをすると、体にどのような効果が期待されますか」

変化	ダイエット	運動直後	疲労	健康	体力
<ul style="list-style-type: none"> ・筋肉が付く ・体力向上 ・やせる ・がっちりする 	<ul style="list-style-type: none"> ・やせる ・スリムになる ・無駄なものがなくなる 	<ul style="list-style-type: none"> ・汗が出る ・疲れる ・体が暖まる 	<ul style="list-style-type: none"> ・筋肉痛 ・疲れる ・ふらふらする 	<ul style="list-style-type: none"> ・風邪をひかない ・けがをしにくくなる ・健康でいられる 	<ul style="list-style-type: none"> ・瞬発力 ・体力 ・持久力

表3-18「あなたはどのような時に、運動やスポーツをしたくなりますか」

ストレス	〇〇時	マイナス面	ダイエット	影響	気分
<ul style="list-style-type: none"> ・ストレスがたまった時 ・イライラする時 ・もやもやする時 	<ul style="list-style-type: none"> ・天気が良い時 ・やせたい時 ・楽しい時 ・暇な時 ・寒い時 	<ul style="list-style-type: none"> ・怒られた時 ・イライラしている時 ・テストの点の悪い時 	<ul style="list-style-type: none"> ・体重増の時 ・体重計に乗った時 ・たくさん食べた時 	<ul style="list-style-type: none"> ・TVでスポーツを見た時 ・スポーツ漫画を読んだ時 	<ul style="list-style-type: none"> ・テンションが高いとき ・うれしい時 ・良いことがあった時

表 3-19 「運動やスポーツするとどんな気分になりますか」

感情	スッキリ	明るくなる
<ul style="list-style-type: none"> ・達成感 ・楽しい ・すっきり ・自信が持てる ・満足感 ・イキイキ 	<ul style="list-style-type: none"> ・スッキリする ・元気になる ・眠気がさめる ・テンションがあがる ・さわやか 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポジティブ ・楽しい ・ガッツが出る ・明るくなる ・もやもやがなくなる

表 3-20 「運動やスポーツで得られる心の変化」

コントロール	完璧な心	気持ち	自主性	向上	耐える
<ul style="list-style-type: none"> ・がまんができる ・精神的に強くなる ・感情をコントロール ・悩みがなくなる 	<ul style="list-style-type: none"> ・あきらめない心 ・メンタルが強くなる ・自分に自信 ・忍耐力が付く ・広い心 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポジティブシンキング ・プラス思考 ・勇気がわく 	<ul style="list-style-type: none"> ・何事にも積極的 ・何事にも挑戦 	<ul style="list-style-type: none"> ・何でもがんばれる ・向上心 ・自信 	<ul style="list-style-type: none"> ・精神的に強くなる ・忍耐力 ・我慢 ・根性 ・根気

図 3-24 には 3 年生の 2 時間のブレインストーミング、KJ 法の様子を示す。「スポーツの持つイメージのキーワード」についてブレインストーミングを行い、生徒から出てきたイメージは 250 個であった。明るいプラスイメージのもの、暗いマイナスイメージのもの、勝負に関するもの、気持ちに関するものなど、各班様々なカテゴリーに分類した。表 3-21 にはその一例を抜粋する。



図 3-24 3 年生ブレインストーミング、KJ 法による分類

表 3-21 スポーツの持つイメージのキーワード

精神的	スポーツを通してできるもの	思い（マイナス）	勝負
<ul style="list-style-type: none"> ・根性 ・集中 ・発散 ・初心 ・楽しい ・支え ・成長 	<ul style="list-style-type: none"> ・絆 ・一致団結 ・コミュニケーション ・青春 ・仲間 	<ul style="list-style-type: none"> ・栄光と挫折 ・弱肉強食 ・無限の苦痛 ・眠い ・つらい ・家に帰りたい ・暑い ・厳しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・勝負 ・試合 ・白熱 ・部活 ・大会 ・オリンピック ・日本

図 3-25 には 3 年生の作成した新聞を示す。5 月に行った運動会をモチーフに「スポーツの素晴らしさを伝えよう」というテーマで、班ごとに新聞の作成を行った。

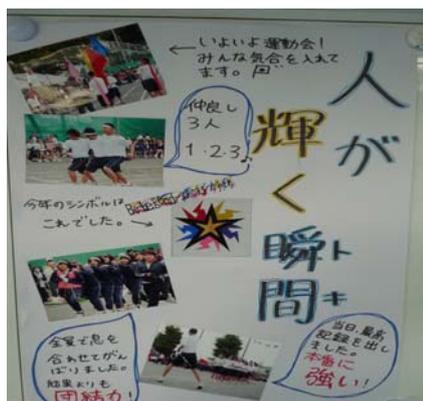


図3-25 3年生が作成した新聞例

(1) ウ 「運動やスポーツに対する、思考・判断は高まったか」についての考察

運動やスポーツに関する思考・判断を高めるために、学習形態の工夫や教材の工夫を取り入れながら授業を行った。

1年生では、図3-17に示すように、「自分の考えを持つことができましたか」という問いに対し 76%の生徒が持つことができたと答えている。さらにワークシートへの記述も思考・判断に関するものが多い。「友達の意見を聞いて分かったこともあった」や「自分と違う意見があった」、「皆で話し合えたから気付かなかったことも分かった」などの思考の高まりを感じることでできる記述があった。また、生徒の使用した教材内容からも思考の高まりがうかがえた。よってインターネット検索や発問の工夫、バズセッション、プレゼンテーションソフトの活用は有効であり、思考・判断は高まったと考える。

2年生では学習への取り組みを通し、様々な意見を考えたり、聞いたりすることにより思考の高まりを感じることでできる発言や記述が見られた。また、図3-19に示すように、「自分の考えを持つことができましたか」という問いに対し 95%の生徒が持つことができた。さらにワークシートへの記述も思考・判断に関するものが多かった。このように生徒のワークシートへの記述内容や、生徒の使用した教材内容からも思考の高まりがうかがえた。よってブレインストーミング、KJ法、発問の工夫、プレゼンテーションソフトの活用は有効であり、思考・判断は高まったと考える。

3年生では、学習への取り組みを通し、様々な意見を考えたり、聞いたりすることにより思考の高まりを感じることでできる発言や記述が見られた。また、図3-21に示すように、「自分の考えを持つことができましたか」という問いに対し 85%の生徒が持つことができた。さらにワークシートへの記述も思考・判断に関するものが多い。このように生徒のワークシートへの記述内容や、生徒の使用した教材内容からも思考の高まりがうかがえた。よってグループディスカッション、新聞作成、発問の工夫、プレゼンテーションソフトの活用は有効であり、思考・判断は高まったと考える。

思考・判断を高めるためには、教師の発問に対し、まず自分で考える場面を設定し、その後、バズセッションやブレインストーミング、KJ法などを行うことが大切であると考えられる。

エ 運動やスポーツに対する知識・理解は高まったか。

検証にあたっては、ワークシートの記述内容分析、事前・事後の単元の確認テスト実施・分析で検証を行った。

(ア) ワークシートへの記述内容分析

図3-26、図3-27、図3-28は各学年の授業後の自己評価による「授業の中で、あっわかった、ああそうかと思ったことはありませんでしたか」における人数の割合及び、ワークシートの学習後の感想を3観点にわけて分類したものである。ワークシートの記述内容は、関心・意欲・態度に関するものは「おもしろい」、「楽しかった」などの項目とし、思考・判断は「考える」「思う」、「見直せた」、「役立てる」などの自分の考えを述べている項目とし、知識・理解は「知った」、「わかった」、「学べた」と記入されている項目で分類した。

1年生の3時間目の授業では「運動やスポーツの学び方」の学習であった。この授業では主に知識・理解を高めることをねらいとして、ブレインストーミングを取り入れ、プレゼンテーションソフトの活用や発問の工夫をしながら授業を行った。「あっわかった、ああそうか」と思うことがあった生徒は図3-26(1)に示すように58%であった。また、図3-26(2)に示すようにワークシートには思考・判断に関する記述が多かった。

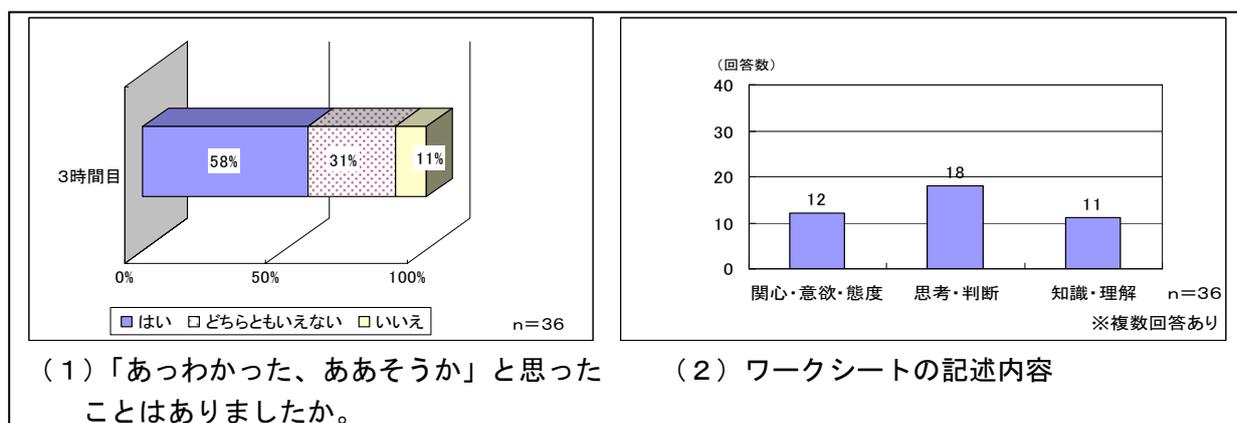


図3-26 1年生3時間目 授業の自己評価及び、授業後の感想の分類

2年生の3時間目の授業では「安全な運動やスポーツの行い方」の学習であった。この授業では主に知識・理解を高めることをねらいとして、グループディスカッションを取り入れ、プレゼンテーションソフトの活用や発問の工夫をしながら授業を行った。「あっわかった、ああそうか」と思うことがあった生徒は図3-27(1)に示すように95%であった。また、図3-27(2)に示すようにワークシートには思考・判断に関する記述が多かった。

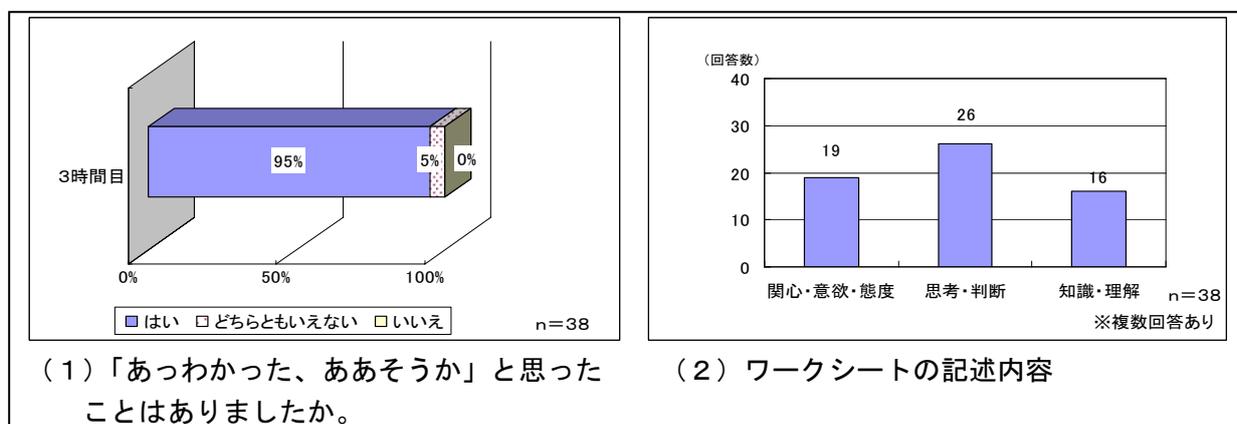


図3-27 2年生3時間目 授業の自己評価及び、授業後の感想の分類

3年生の3時間目の授業では「人々を結び付けるスポーツの文化的な働き」の学習であった。具体的には障害を持っている方と一緒にスポーツをする時のルールや用具の工夫を考えた。この授業では主に知識・理解を高めることをねらいとして、ワークシートを活用し、プレゼンテーションソフトの活用や鈴入りのボールや、ラケットの工夫などの実物を見せながら授業を行った。「あっわかった、ああそうか」と思うことがあった生徒は図3-28(1)に示すように91%であった。また、図3-28(2)に示すようにワークシートには関心・意欲・態度に関する記述が多かった。

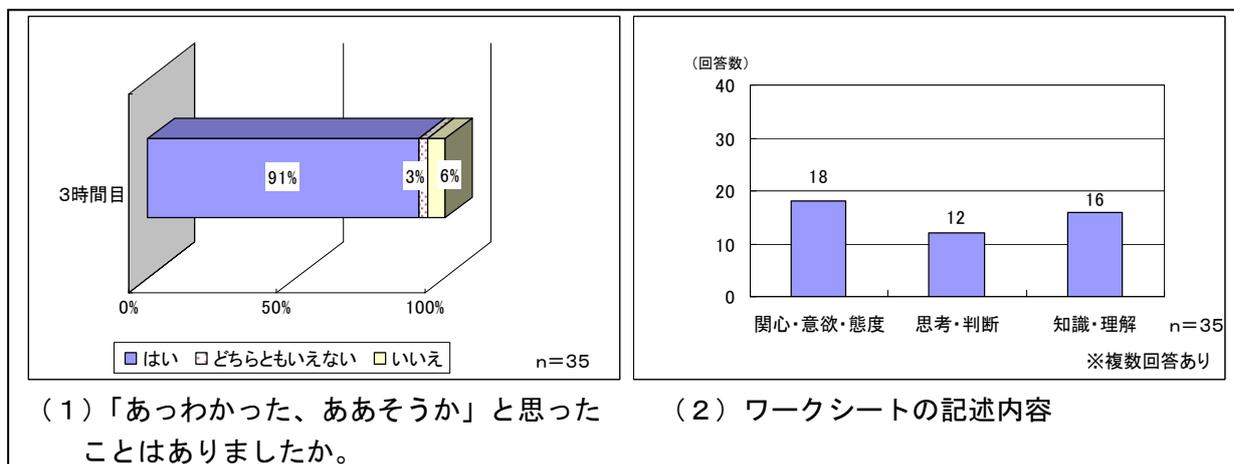


図3-28 3年生3時間目 授業の自己評価及び、授業後の感想の分類

(イ) 事前・事後の単元の確認テストの実施・分析

授業を実施する前と実施した後に、確認テストを行った。

1年確認テスト

1 運動とスポーツについてまとめよう。

○運動とは・・・広くからだが活動することを意味する。身体活動のうち、体力の（ 維持 ）、（ 向上 ）を目的として、計画的・意図的に実施するもの。

○スポーツとは・・・一定の（ ルール ）にのっとり、特定された種目において成績向上を目的として行う運動のこと(競技スポーツ)。こんにちではダンスや体づくり運動もふくめて、広くスポーツとよんでいる。

2 スポーツへのかかり方について3つあげよう。

「 1. する 」 「 2. 見る 」 「 3. 支える 」

3 運動やスポーツの学び方についてまとめよう。

(4. 技術)・・・運動やスポーツの課題を解決するための(合理的)な体の動かし方

(5. 戦術)・・・技術を選択するときの方針。球技・ボールを持っている時の動きや、ボールを持たない動き

(6. 作戦)・・・試合を行う時の方針

4 練習の計画・目標では(7. P-D-C-A)サイクルを用いて、状況をチェックする方法が用いられる。

5 うまくできるプレイの特徴をまとめよう。

a 動作が(8. 正確)でタイミングが良い。

b 動作がすばやい。

c 動作が(9. 安定)している。

d 一連の動作が(10. スムーズ)でまとまっている。

図3-29 1年生確認テスト

図3-30は図3-29に示した1年生の事前・事後の確認テストの結果である。スポーツへの3つの関わり「する」、「見る」、「支える」についてはおおむね90%の生徒が正解している。特に「支える」(3)については事前では3%の正答率であったものが92%に大きく伸びている。また、「技術」についてはある程度理解できていたが、「戦術」や「作戦」について理解し「PDC Aサイクル」も知識として習得することにより、課題解決型の授業に役立てることが可能となってくる。

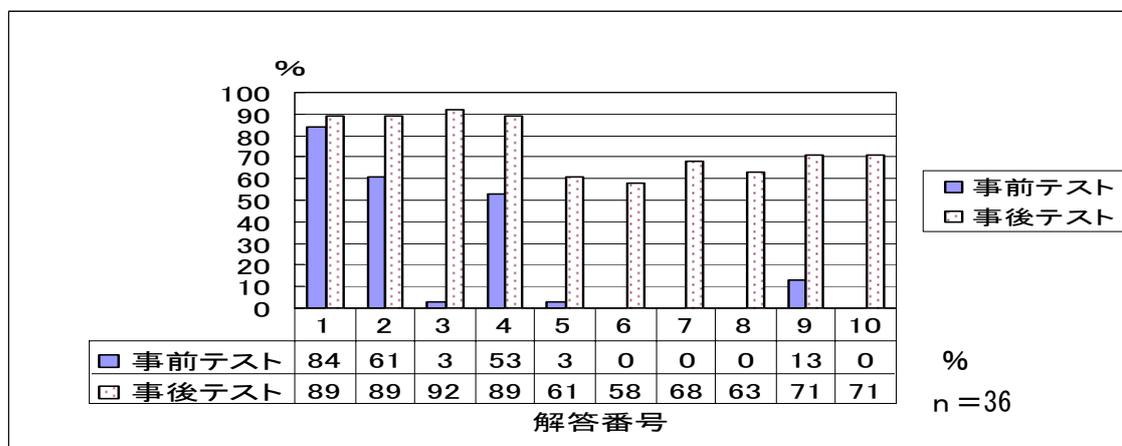


図3-30 1年事前・事後確認テスト正答率

3年確認テスト

- 1 現代生活におけるスポーツは・・・生きがいのある（1. 豊かな人生）を送るために必要な健やかな（2. 心身）、豊かな（3. 交流）や伸びやかな自己開発の機会を提供する重要な文化的意義を持っている。
- 2 オリンピックの理念についてまとめよう。
 - ・スポーツを通して（4. 心）と（5. 体）を鍛えよう。
 - ・世界のいろいろな国の人と（6. 交流）しよう。
 - ・（7. 平和）な社会を築いていこう。
- 3 国際的なスポーツ大会の持つ文化的な働きについてまとめよう。

オリンピックや国際競技大会での諸外国の選手の素晴らしいプレイやみごとなパフォーマンス、あるいはフェアプレイに心からの声援を送るとき、スポーツは世界をひとつにすることを実感させてくれます。世界が多くの難題に直面する今、（8. 国際親善）や（9. 世界の恒久平和）によって世界をひとつにすることができるスポーツは、今後ますますその存在意義を増大させると思われる。
- 4 人々を結びつけるスポーツの文化的な働きについてまとめよう。

スポーツは・・・国、地域や言語の違いを超えて（10. 世界中）に広まっている。

人間の生活にとって（11. かけがえ）のないもの。

国際親善、（12. 世界平和）に貢献するもの。

民族、国、人種、性、障害の有無、年齢、地域、風土といった違いを超えて人々を（13. 結び付ける）文化的な働きがある。

図3-33 3年生確認テスト

図3-34は図3-33に示した3年生の事前・事後の確認テストの結果である。事前ではスポーツが国際親善や、平和な社会を築いていくという役割があることを全く理解していなかったが、授業を通して理解が深まった。また、スポーツには人々を結びつける文化的な働きがあることへの理解も授業を通して深まった。特にオリンピックの理念については、正答率が80%を越えている。

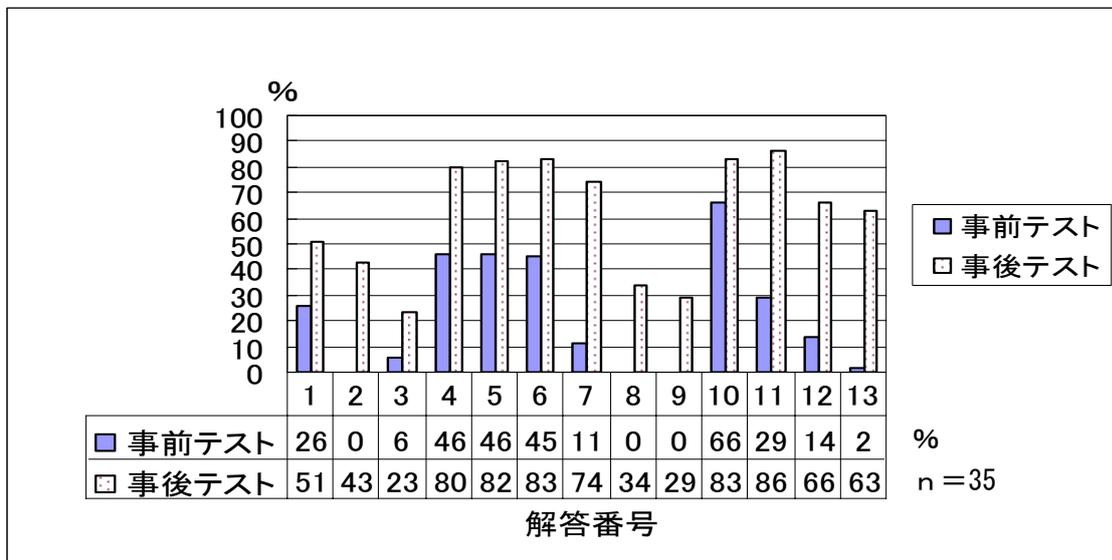


図3-34 3年事前・事後確認テスト正答率

1年生の確認テストの中の「体育理論の授業を終えての感想」では、22名の生徒が知識にかかわる内容を感想の中に記述していた。「知ることができた」「学べた」などの言葉や、具体的な授業の内容が記述されていたものを表3-22に示す。

表3-22 「体育理論の授業を終えて」感想 記述（抜粋）

- ・スポーツにはいろいろな関わり方、学び方があって今まで以上にスポーツしやすくなった
- ・スポーツを行うにあたっていろいろなサポートが大切なんだと知った。
- ・スポーツをするのとは違い、いろいろなことを考えたりすることができた。
- ・スポーツをすること以外のかかわり方やPDCAサイクルを学んだ。PDCAサイクルは全く知らなかった。
- ・授業をして人との関わりを深く知ることができました。
- ・最初は体育理論なんてつまらなそうだと思っていたけど、実際に勉強してみると全然知らなかった言葉が出てきて楽しく勉強できた。
- ・もっと運動やスポーツについて知りたい。面白かった。

2年生の確認テストの中の「体育理論の授業を終えての感想」では、26名の生徒が知識にかかわる内容を記述していた。「知ることができた」「学べた」などの言葉や、具体的な授業の内容が記述されていたものを表3-23に示す。

表3-23 「体育理論の授業を終えて」の感想 記述（抜粋）

- ・運動やスポーツをするときに大切なことや、役立つことを学べてよかった。
- ・知らないことがあってよくわかった。
- ・授業を通して様々な知識を知ることができた。
- ・いつもの体育の授業ではやらないことだからとても楽しかった。
- ・安全面、健康面だけのことではなく精神面を入れたこの授業は、今までの授業とは違う感じでした。理論という別の立場から体育やスポーツ・運動を見ていくのは面白いと思いました。
- ・体育理論を知っておくと安全に楽しくスポーツができる。
- ・運動についてまじめに向き合えた。もっと楽しく運動できることがわかりました。
- ・初めは体育理論はいらないと思ったけど、やってみてその大切さがわかった。
- ・体を動かす上で、水分補給やストレッチをきちんとすること。

3年生の確認テストの中の「体育理論の授業を終えての感想」では、24名の生徒が知識にかかわる内容を記述していた。「知ることができた」「学べた」などの言葉や、具体的な授業の内容が記述されていたものを表3-24に示す。

表3-24 「体育理論の授業を終えて」の感想 記述（抜粋）

- ・スポーツは世界中でもとても大切だと思います。心や体を鍛えることができるし、スポーツを通して世界の人々と交流できることはとても素晴らしいことだと思った。
- ・今後、役立つ授業であった。スポーツの本当の意味を知ることができて良かったと思う。自分もこのような話を日本中、世界中に広げていきたいと思う。
- ・私はスポーツが好きだけど、オリンピックや世界交流、いろいろなことが分かってよかった。もっとスポーツが好きになると思う。
- ・スポーツの持つ意味が分かった。今までは何も考えずにやっていたが、今後、意味のあるスポーツができそうだ。

(1) エ 「運動やスポーツに対する、知識・理解は高まったか」についての考察

運動やスポーツに関する知識・理解を高めるために、学習形態の工夫や教材の工夫を取り入れながら授業を行った。

1年生では図3-26(1)に示すように、「あつわかった、ああそうかと思うことがありましたか」という問いに対し58%の生徒があつたと答えている。数字としては、あまり高い数値は示していないが、確認テストの結果などと合わせてみると、そのような低い数値ではないと考えられる。実際「確認テストの結果」図3-30や「体育理論の授業を終えて」表3-22の感想から見られるように、3時間の授業を通し、体育理論の知識をおおむね習得できたと考ええる。生徒は今まではスポーツは「する」ものと捉えていたが、「見る」や「支える」という側面があることについても知識として習得することができたと考ええる。

2年生では授業後の自己評価、図3-27(1)に示すように、「あつわかった、ああそうか」と思うことがありましたかという問いに対し95%の生徒があつたと答えている。また、「確認テストの結果」図3-32や、「体育理論の授業を終えて」表3-23の感想から見られるように、3時間の授業を通し、体育理論の知識をおおむね習得できたと考ええる。生徒は今まで「運動やスポーツの安全な行い方」について、全く知識として持っていなかったが、運動やスポーツについて理論的に学ぶことにより、より楽しく安全に活動できることを知識として習得することができたと考ええる。

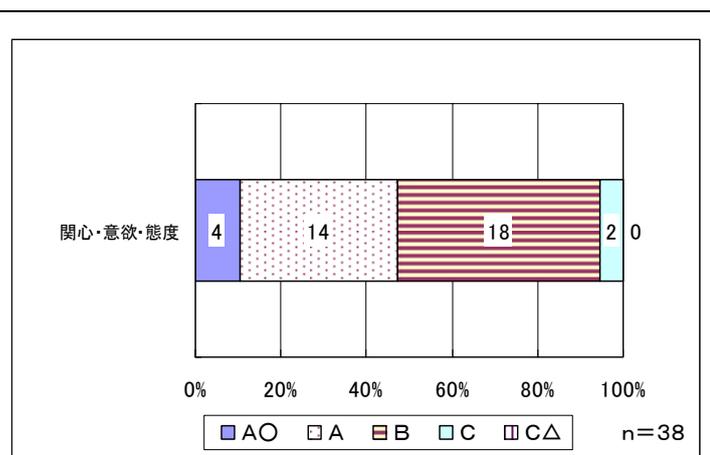
3年生では授業後の自己評価、図3-28(1)に示すように、「あつわかった、ああそうか」と思うことがありましたかという問いに対し91%の生徒があつたと答えている。また、「確認テストの結果」図3-34や、「体育理論の授業を終えて」表3-24の感想から見られるように、3時間の授業を通し体育理論の知識をおおむね習得できたと考ええる。生徒は今までスポーツに「国際親善」や、「平和な社会を築く」役割があるという見方をしていなかったが、「文化としてのスポーツの意義」を学ぶことにより、今までの自分にはない視点からスポーツについて捉えられるようになり、よりスポーツに対しての見方が広がったと考ええる。

(ア) ワークシートへの記述内容分析や(イ)単元の確認テストの実施・分析の結果から、学習形態や教材の工夫により、運動やスポーツに対する知識・理解は高まったと考ええる。

オ 実際の教師の評価

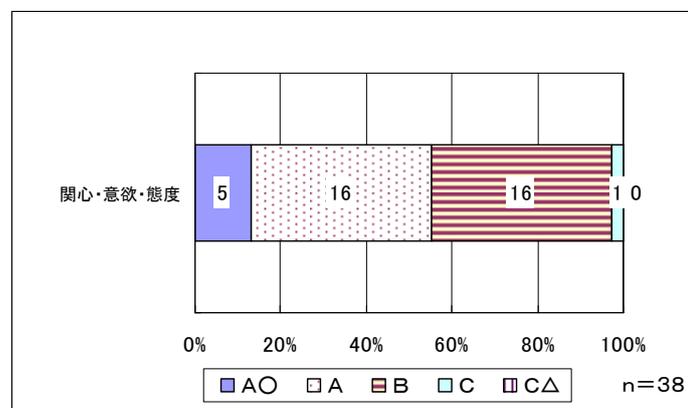
(ア) 運動への関心・意欲・態度の実際の教師の評価

図3-35(1)は1年生の関心・意欲・態度を教師側から評価したグラフである。A[○]4人、A14人、B18人、C2人、C[△]0人となりおおむね満足以上と評価を付けた生徒は全体の95%となった。



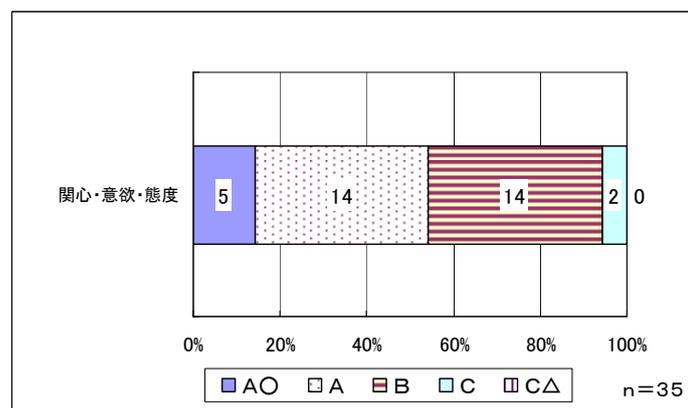
(1)

図3-35(2)は2年生の関心・意欲・態度を教師側から評価したグラフである。A[○]5人、A16人、B16人、C1人、C[△]0人となりおおむね満足以上と評価を付けた生徒は全体の97%となった。



(2)

図3-35(3)は3年生の関心・意欲・態度を教師側から評価したグラフである。A[○]5人、A14人、B14人、C2人、C[△]0人となりおおむね満足以上と評価を付けた生徒は全体の94%となった。

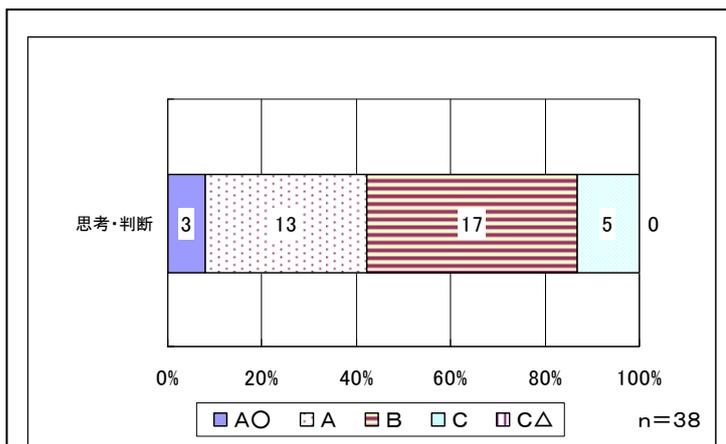


(3)

図3-35 教師による関心・意欲・態度の評価

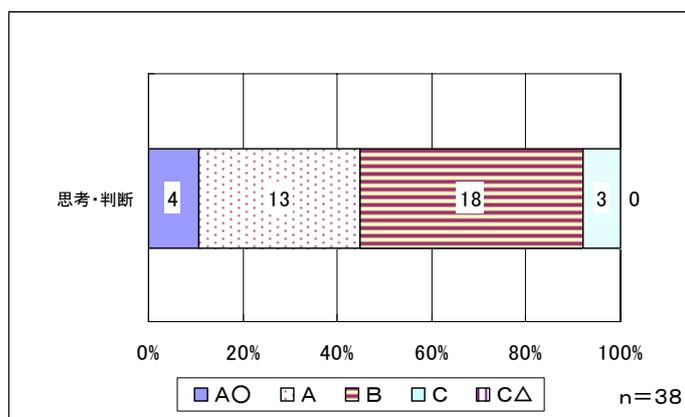
(イ) 運動についての思考・判断の実際の教師の評価

図3-36(1)は1年生の思考・判断を教師側から評価したグラフである。A[○]3人、A13人、B17人、C5人、C[△]0人となり、おおむね満足以上と評価を付けた生徒は全体の87%となった。



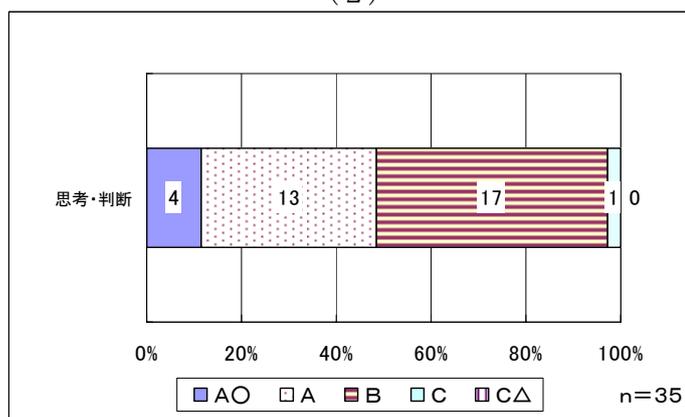
(1)

図3-36(2)は2年生の思考・判断を教師側から評価したグラフである。A[○]4人、A13人、B18人、C3人、C[△]0人となり、おおむね満足以上と評価を付けた生徒は全体の92%となった。



(2)

図3-36(3)は3年生の思考・判断を教師側から評価したグラフである。A[○]4人、A13人、B17人、C1人、C[△]0人となり、おおむね満足以上と評価を付けた生徒は全体の97%となった。

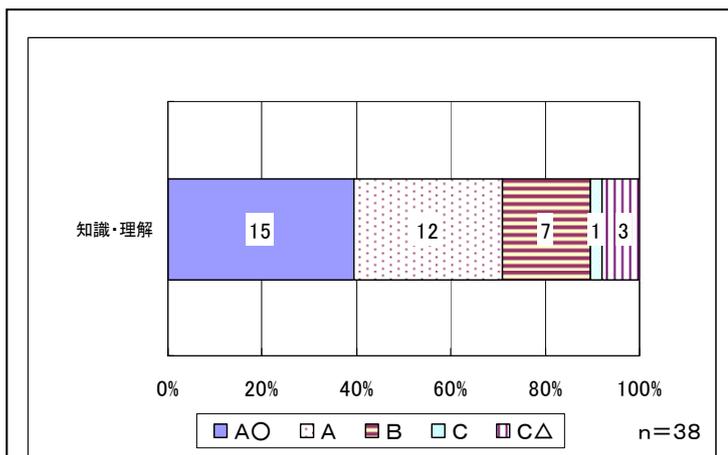


(3)

図3-36 教師による思考・判断の評価

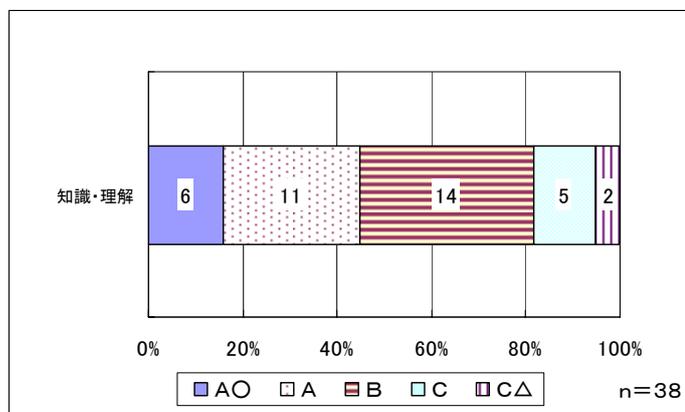
(ウ) 運動についての知識・理解の実際の教師の評価

図3-37(1)は1年生の知識・理解を教師側から評価したグラフである。A[○]15人、A[□]12人、B[■]7人、C[□]1人、C[△]3人となり、おおむね満足以上と評価を付けた生徒は全体の89%となった。



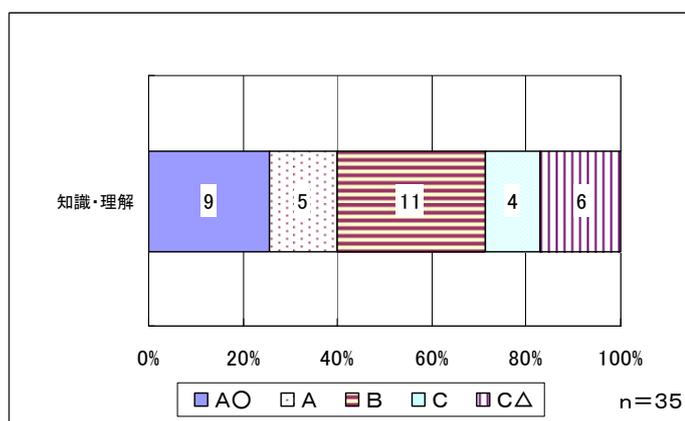
(1)

図3-37(2)は2年生の知識・理解を教師側から評価したグラフである。A[○]6人、A[□]11人、B[■]14人、C[□]5人、C[△]2人となり、おおむね満足以上と評価を付けた生徒は全体の82%となった。



(2)

図3-37(3)は3年生の知識・理解を教師側から評価したグラフである。A[○]9人、A[□]5人、B[■]11人、C[□]4人、C[△]6人となり、おおむね満足以上と評価を付けた生徒は全体の71%となった。



(3)

図3-37 教師による知識・理解の評価

(1) オ 「実際の教師の評価」についての考察

ここに示したものは教師側から見た評価であるが、図3-35に示すとおり、関心・意欲・態度については各学年とも、おおむね満足以上と教師が評価した生徒は1年生95%、2年生97%、3年生94%という結果であった。これらの生徒は、考えた内容をワークシートに記入しようとすることや、意見交換や情報の取り出しに取り組もうとすること、参加型学習に取り組もうとすること等ができた。

思考・判断については各学年とも、図3-36に示すとおり、おおむね満足以上と教師が評価した生徒は1年生87%、2年生92%、3年生97%という結果であった。これらの生徒は、意見交換や情報の取り出し、分析を通してまとめた考えを整理することができた。

知識・理解については各学年とも、図3-37に示すとおり、おおむね満足以上と教師が評価した生徒は1年生89%、2年生82%、3年生71%という結果になり、学習内容を言ったり、書き出したりできた。3年生ではおおむね満足以上と評価した生徒が71%であるが、これは、学習の内容が事前には全く認識できていなかった内容であったためと考えられる。

(1) 「学習形態や教材の工夫をすることにより体育理論の学習内容を習得することができたか」についてのまとめ

以上に述べてきたように、次のことが明らかになったと考える。

分析の視点にあげたア～オについて、

ア、学習形態や教材の工夫は体育理論の授業に有効であった。

イ、運動やスポーツに関する関心・意欲・態度は高まった。

ウ、運動やスポーツに関する思考・判断は高まった。

エ、運動やスポーツに関する知識・理解が高まった。

オ、教師から見た実際の評価も、おおむね満足できる状況であった。

よってこの5つの分析の視点から、体育理論の学習内容を習得することができたと考える。

(2) 体育理論で得た知識をハンドボールの学習活動で活用することができたか。

ア 体育理論で得た知識により、課題解決に向けての話し合い活動ができたか。

体育理論の1時間目では、「運動やスポーツをすることの必要性や競技に応じた楽しさ」についての学習、2時間目では「運動やスポーツの多様なかわり方」、3時間目では「運動やスポーツの学び方」についての学習を行ったが、ハンドボールの学習では体育理論で得た知識が課題解決に向けての話し合い活動で活用されているかを検証することとした。

(ア) 学習ノート、グループカードの内容分析

図3-38は1時間目から9時間目までの生徒による学習ノートの自己評価を平均したものである。「話し合いに参加し、仲間と協力しながら授業に参加している」、「自分やチームの課題を見付けている」、「自分やチームの課題解決の仕方を考えている」の項目において、時間を重ねるごとに数値が高くなっていることが分かる。特に体育理論3「運動やスポーツの学び方」を学習した後は全ての値が高くなっている。

また、表3-25にはAチームの目標及び作戦の変化を示す。表3-26に示した記述は学習ノートの授業後の感想であり、自分の課題やチームの作戦に関する記述を一部抜粋したものである。

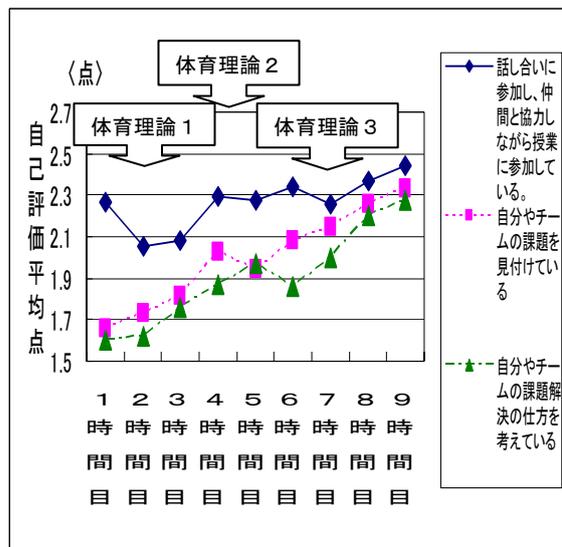


図3-38 ハンドボール自己評価

表3-25 Aチームの目標及び作戦会議内容の変化

	○班の目標 ●作戦	作戦会議の内容
6時間目	○声を出してがんばろう。	・サイドマンはフリーだからどんどん行こと。
7時間目	○楽しく ●協力してパスを空いているところにまわす。	・サイドマンは誰にする。 ・みんながマークにつかないといけない。 ・僕がパスを回すから走って。
8時間目	○マークに付く ●パスカットを狙っていこう。	・前に進めなかったらパスは上にもどそう。 ・パスカットされないようにしよう。 ・相手キーパーに対すること。 ・相手のポイントゲッターに対する防御
9時間目	○パスカット ●マークに付いたり声を出し合ってパスをする。	・パスカットを狙っていこう。 ・相手チームの攻め方を予想し、自分のチームの守りを決める。 ・チームの中心で攻めて来る人に対する防御

表3-26 学習ノート 8時間目「授業後の感想」の記述（抜粋）

- ・パスをもらえてうれしかった。みんなで作戦を考え、作戦通りにできました。
- ・今日はすごく動けて楽しかった。ディフェンスもパスカットも作戦通りできた。もっとシュートにいきたい。
- ・声を出してボールを呼ぶことができた。ボールをもらってシュートが打てた。
- ・ノーマークの時に「はい」と言ってボールを呼ぶことができた。
- ・作戦はパスを多くすることだったが、動いてボールがつながってシュートまでいけた。

(イ) 映像による分析

映像による分析では、2時間目、4時間目、8時間目の作戦会議の様子を捉えることとした。分析は中学校保健体育科教諭3名で行い、作戦会議に参加する様子は、近くに集まって全員で話し合いに参加していると判断したものは◎、集まって話をしていると判断したものは○、集まっていないと判断したものは△として整理した。

作戦会議の内容は作戦ボードやグループカードなどを使用し、具体的な内容を話し合っていると判断したものは◎、リーダーだけが指示を出していると判断したものは○具体的な内容に触れていないものを△とした。

表3-27 作戦会議の様子

	2時間目	4時間目	8時間目
作戦会議に参加する様子	○	○	◎
作戦会議の内容	△	○	◎

(2) ア 体育理論で得た知識により、課題解決に向けての話し合い活動ができたかについての考察

図3-38で「話し合い」の項目が2時間目に低い数値を示しているが、新チームでの授業への取り組みが機能していなかった状況が映像からも見て取れる。また、「自分やチームの課題解決の仕方」についての項目が6時間目に落ち込んでいるが、3対3のゲームから6対6のゲームに進んでいく段階の初めの授業であったためであると考えられる。

体育理論とハンドボールの授業を組み合わせ実施したが、体育理論1で「運動やスポーツの必要性和楽しさ」を学習し、体育理論2で「する」こと以外のスポーツへのかかわり方「見る」、「支える」を学習することで、話し合い活動などが活発に行われるようになった事が図3-38自己評価の数値の高まりや映像による分析などから見られた。

また、体育理論3で「技術」「戦術」「作戦」「PDCAサイクル」等を学習することで自分やチームの課題にも目が向けられ、課題解決の方法がより理解できたと思われる。これは図3-38の自己評価にも顕著に現れている。

また、映像による分析からも、体育理論の授業後の授業では、話し合い活動が活発に行われる様子が見られた。

よって体育理論で得た知識が、活発な話し合い活動に結び付いたのではないかと考える。

イ 体育理論で得た知識により、互いに支えあう活動が展開できたか。

体育理論の1時間目では、「運動やスポーツをすることの必要性や競技に応じた楽しさ」についての学習、2時間目では「運動やスポーツの多様な関わり方」、3時間目は「運動やスポーツの学び方」についての学習を行ったが、ハンドボールの学習では体育理論で得た知識が互いに支えあう授業に活用されているかを検証することとした。

(ア) 学習ノート内容分析

図3-39は1時間目から9時間目までの生徒による学習ノートの自己評価を平均したものである。「準備・片付けを行いゲームのない時にはボール拾い、応援、審判などを行っている」「仲間にアドバイスしている」の項目において、数値の変化を示している。毎時間お互いにアドバイスを行うことになっており、その具体的な内容を表3-28に示す。なかなかボールがもらえない友達に対し、「手を上げるともらいやすくなること」など具体的にアドバイスとしてあげている。また、表3-29には自分がプレイをしていない時、どのような授業への参加をしていたかを示したが、ボール拾いや審判を積極的に行う様子が学習ノートに記入されていた。

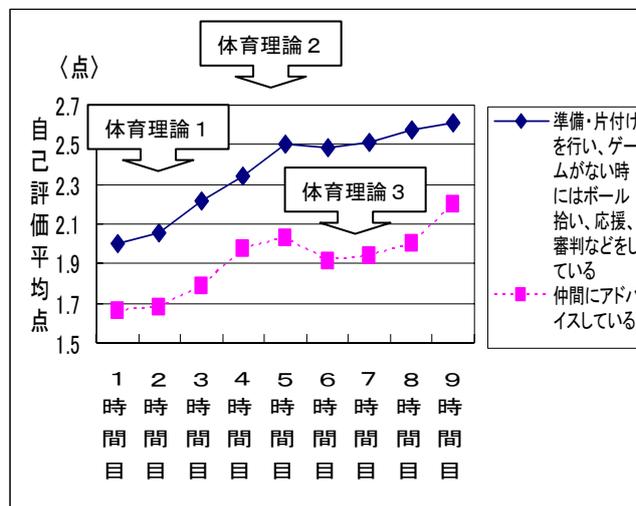


図3-39 ハンドボール自己評価

表3-28 学習ノート「友達からのアドバイス」記述 (抜粋)

- ・私もなかなか声が出せないけど、手を上げてボールを呼ぶとボールがもらえるよ。
- ・もっと積極的にボールをもらいにいこう。
- ・パスをいいところにしてくれました。次のゲームも期待しています。
- ・作戦はチームにとって大切なことだからしっかり立てよう。
- ・相手にシュートを入れさせないように頑張っていた。パスも遠くに投げられてすごかった。

表3-29 学習ノート「授業後の感想 (自分がプレイしていない時、どのような授業への参加をしていたか)」の記述 (抜粋)

- ・ボール拾いをやった。ゴールから外れたボールを速く取りに行くことができた。
- ・審判を間違えずにできた。
- ・審判をやったが、ゲーム終了後、皆が並ばなかつたりして困った。
- ・得点係をやった。ちゃんと得点を付けることができた。

(イ) 映像による分析

映像による分析では、ゲームの運営にかかわる姿に着目して分析を行った。分析は中学校保健体育科教諭3名で行い、審判をする様子や、ボール拾いに行く様子などを抽出生徒を中心に分析した。ボールと一緒に動いて審判を行う様子が見られると認められた場合には◎、中央に留まって審判を行う様子が見られると認められた場合には○、開始、終了の挨拶のみと認められた場合には△として整理した。

ボール拾いに行く様子は、替えのボールを用意してすぐにボール交換ができた場合には

◎、すぐにボールを追いかける様子が認められた場合には○、歩いてボールを取りに行く様子が認められた場合は△とした。また、4時間目と7時間目の試合開始までの時間が短縮されていることが分かった。

表3-30 審判などのゲームの様子

	4時間目	7時間目
審判	○	◎
ボール拾い	△	◎
試合開始まで	1分9秒	24秒

(2) イ 体育理論で得た知識により、互いに支えあう活動ができたかについての考察

体育理論の授業を行う前に、「支える」活動を理解している生徒は、事前の確認テストでは全体の3%だけであった。しかし、体育理論1で「運動やスポーツの必要性和楽しさ」を学習し、体育理論2で「する」事以外のスポーツへのかかわり方「見る」「支える」を学習することで、図3-39に示すような「準備・片付けを行いゲームがない時にはボール拾い、応援、審判などを行っている」「仲間にアドバイスをしている」の自己評価の数値の高まりがみられた。また、学習ノートにも表3-29に示すような、自分がプレイしていない時の授業への参加姿勢の記述がみられた。

さらに表3-30に示した映像による分析では、体育理論2の学習の前と後では大きな違いがみられた。

また、体育理論3で「技術」「戦術」「作戦」「PDCAサイクル」などを学習することで、表3-28に示すようなアドバイスが行えるようになったと思われる。よって体育理論で得た知識が互いに支えあう授業に活用されたのではないかと考える。

(2) 体育理論で得た知識をハンドボールの学習活動で活用することができたかについての考察とまとめ

体育理論の1時間目、2時間目、3時間目の授業で得た知識を基にハンドボールの授業を实践したが、体育理論で得た知識がハンドボールの授業に活用されていたことがア、イに述べてきたことから推測される。

体育理論で得た知識が、ハンドボールの課題解決のための話し合い活動や互いに支えあう授業に活用されたと考える。

6 指導の工夫とその効果及び課題

(1) 学習形態の工夫の効果と課題

今回の授業では、学習形態の工夫として参加型学習の手法を取り入れることより、生徒が授業に意欲的に取り組みながら、体育理論の学習内容を習得することをねらいとして行ってきた。参加型学習にも様々なものがあり、今回実施したものは学習内容の習得に対して有効であったと考えられるが、他の手法を活用したり他の場面でも活用したりできると考えられ、今後検討していく必要性を感じた。学習形態を工夫していくことは体育理論の授業の中で、学習内容を習得するためには大変有効な手段であると考えられる。

ア バズセッション

バズセッションは隣の友達との意見交換を通し、お互いの意見の同意点や相違点を知ること、関心・意欲・態度を高めることや、思考・判断を高めることをねらいとして活用

した。2人組の話し合いなので、自分の考えていることを積極的に発言することができ、授業への意欲的な参加に効果があったと考える。また、小集団からの話し合い活動を行うことで、その雰囲気にも慣れ、ブレインストーミングやグループディスカッションにもつながっていく効果もある。特に1年生の授業では、効果が大きいと考える。

イ ブレインストーミング

1年生では知識・理解を高めるために、2年生では思考・判断を高めるために、3年生では関心・意欲・態度を高めるためにブレインストーミングを行った。それぞれの学年で異なるねらいでこの手法を実施したが、教師の発問の仕方や、題材の設定の仕方ですべてに違った効果があったと考える。

1年生では、授業で学習した内容や友達の意見からヒントを得て、付箋に意見を書き出す様子が見られ、知識の習得に効果があった。2年生では発問に対し、自分の経験から得た考えなどを付箋に記入している生徒が見られ、思考の高まりに効果があった。3年生では、難しい学習内容を身近なことに置き換えることで、たくさんの意見が出されスポーツへの関心を高めることに効果があった。

このようにブレインストーミングは何をねらいにするかを設定することで、様々な活用の効果が期待できる。

ウ KJ法

2年生、3年生ではブレインストーミングで出された意見を、カテゴリ別に分類し分析するKJ法を行った。2年生では思考・判断を高めることをねらいとして、3年生では関心・意欲・態度を高めることをねらいとして行った。分類・分析を行う作業では思考・判断が高まり、取り組む場面では関心・意欲・態度を高めることに効果があったと考える。カテゴリ別に分類するには、時間の確保も大切になるため、授業の時間配分も重要なポイントになる。

エ ディベート

2年生の授業では関心・意欲・態度を高めることをねらいとしてディベートを行った。お互いに意見の主張をすることで関心も高まり、活発な意見交換を行うことができた。自分の考えとは違う意見を主張しなくてはならない生徒もいたが、グループでまとまり意欲的に活動していた。

今回は意見を活発に出させることに主眼を置いて授業を行ったが、自分の考えを主張するディベートでは、思考・判断を高めることにも有効であると考えられる。

さらに、学習形態の工夫として、1年生においてはハンドボールの授業と体育理論を組み合わせることで、体育理論で得た知識の活用を図った。互いに支えあう場面や課題解決の話し合いをする場面など多く見られ、意識の高まりを感じる生徒が増えた。ハンドボールの学習ノートにも体育理論の内容が、体育理論のワークシートにもハンドボールの内容が自然に出てきていることもあり、生徒は相互に結び付けて考えていたことがうかがえる。このようなことから、体育理論とハンドボールの授業の組み合わせが有効であったと考える。

(2) 教材等の工夫の効果及び課題

生徒が運動やスポーツに興味・関心を持ち、意欲的に授業に取り組むことができるために教材の工夫を行った。

ア 題材設定の工夫

学習指導要領を手がかりに、押さえるべき学習内容を明確にし、題材の設定を行った。生徒にとっては初めて聞く言葉や、考え方も多数出てくるので身近な話題に置き換えたり、生徒の経験から考えられるような内容を選んで授業を行ったことで、興味・関心を高める

ことに効果があった。

各学年において、運動経験の違いや、スポーツへの興味・関心の深さの違いを考えながら題材の設定を行うことにより、理解が深まっていくのではないかと考える。

イ 発問の工夫

題材の設定を行い、そこから発問を考えていくが、教師の目線からの発問ではなく生徒の目線に立って発問を行う重要性を感じた。また、生徒の関心のある事柄やスポーツに対する情報を使って発問の工夫ができると、さらに生徒の興味や思考力が増すと考えられる。

2年生の授業で、「スポーツは勝つことが大切」か「ルール・マナーが大切か」についての発問を行ったが、発問の仕方が悪く生徒の中には「ルール・マナーを守って勝利するから意味がある」という意見も出された。生徒の考えをより広め、より深めるような発問の工夫が必要だと考える。

ウ 具体的・視覚的情報の活用の工夫

今回の授業ではプレゼンテーションソフトを毎時間活用し、授業を行った。学習内容に関連した映像を映し出すことにより、学習内容を知ることができ、興味や関心を持って授業に取り組むことができた。また、3年生の障害者スポーツを扱う時間には、鈴入りのボールや、手袋つきラケットなどを用意し、用具の工夫を考える手立てとした。言葉のみの情報より視覚に訴えて授業を行うことは記憶にも残り、生徒の興味・関心が高まることから学習内容の習得にも役立つと考える。さらに、動画などを取り入れた授業の展開が行えると、より生徒の理解度も増すと考える。

エ ワークシート

ワークシートは、体育理論の授業を、どのような学習内容で進めていくのかが分かるように3時間分を1冊にした形で生徒に配付した。また、ワークシートはプレゼンテーションソフトと合わせた内容で作成したため生徒は、スムーズに記入することができた。学習した内容が整理でき、知識の習得に有効であったと考える。また、教師としては、授業中に直接聞くことのできなかつた生徒の意見や考えを知ることにより有効に働いたと考える。

オ スポーツだより

前時のワークシートに記入されていた、生徒の意見や感想などをまとめたスポーツだよりを作成し、授業の導入で使用した。前時の振り返りや、友達の意見や感想などを知ることにより、また新たな疑問や考えが浮かぶ生徒もいて、学習を深めることに有効に働いたと考える。

7 授業全体を振り返って

ここまで、今回の検証授業について、分析の視点に沿って振り返ってきたが、ここでは授業全体を振り返っていきいたい。

中学校学習指導要領では、体育理論は1学年3単位時間以上、3年間で9単位時間以上と示されているが、本研究では体育理論の授業モデルの作成をするにあたり、1学年3単位時間で計画を立てた。

その内容は多岐に渡り、「運動やスポーツの成り立ち」や「スポーツは世界平和や国際親善をもたらす」などの学習内容が盛り込まれている。学習内容は明確に示されているので、生徒の発達段階に応じた工夫をしながら授業を組み立てていくことが大切になってくる。今回の授業では参加型学習を取り入れながら授業を行ったが、グループの人数なども検討していく必要があると感じた。

また、教師の発問に対して、生徒が考える時間を十分に確保していくことは、授業を活発でスムーズに進めるために大切なことである。限られた授業時間ではあるが、この時間を確保することで、生徒は自分の考えを持って授業に参加できる。このことは友達の意見に耳を傾けた

り、学習の内容を深く考えたりすることにつながっていくと考えられる。また、学習した内容がその時間だけのもので終わらず、生徒の中に定着できるのではないかと考える。さらに授業の導入時にはどのような発問から入るのかなど、様々な手法をどのような学習場面にあてはめていくか等の工夫を考えていくことも必要であると感じた。

第4章 研究のまとめ

1 研究の成果と課題

本研究では、学習形態や教材の工夫をすることにより、生徒が体育理論の学習内容を習得できることと、体育理論が運動領域に活用されることを求めて授業を行ってきた。

その結果、次のことが明らかになった。

多くの生徒が学習形態や教材の工夫をすることで、体育理論の学習内容を習得することができた。

1年生では体育理論で得た知識を運動領域（ハンドボール）の学習活動で活用することができたと考える。

この研究の主題にかかわる課題として次のようなことが考えられる。

- ・学習形態や教材の工夫は、体育理論の授業を進めていく上で、体育理論の学習内容の習得に有効であることが明らかになった。特に参加型学習は、運動やスポーツへの関心・意欲・態度を高めることに有効であり、関心・意欲・態度が高まることで、思考・判断や知識・理解に結び付いていくものと考えられる。今後は、様々な手法をどのような学習場面にあてはめていくかをさらに工夫していく必要がある。また、参加型学習を行うことだけで、授業が終了しないように十分留意し、学習内容を習得させなければならない。
- ・今回の授業では、体育理論で得た知識が運動領域に活用されることを求めて、授業計画を立て成果を得た。しかし、運動領域の学習内容が体育理論の学習内容に活用されることも考えられるので、保健体育の学習活動全体を通し、指導していくことが望ましいと考える。
- ・体育理論の授業では1学年ごとの学習内容を押さえるとともに、3年間の学習内容を見通した計画が必要になってくると考える。また、名称も統一されたことも踏まえ、高等学校への接続を考慮した系統性のある指導が必要となるであろう。

2 今後の展望

新しい学習内容となった体育理論を取り上げ、3学年にわたり授業を行った。初めて行う内容や、学習形態などがあり自分自身も楽しみながら授業を行うことができた。授業を行った手ごたえとして、体育理論の学習内容は生徒にとっての体育学習や、豊かなスポーツライフを送る上で大変重要な事柄であることを実感した。また、事前には体育理論にあまり興味を持っていなかった生徒達からも良い反応が見られた。生徒自身が体育理論の大切さを理解できたからではないだろうか。

授業を進めるにあたっては学習指導要領解説をもとに授業を組み立て、学習形態の工夫や教材の工夫を通して授業を行った。今後はさらに理解しやすい教材選びをすること、資料を用意すること、教師のねらいとすることが生徒に確実に伝わる学習形態の工夫をすること等を探っていく必要がある。

また、今回は体育理論で得た知識を、運動領域の授業で活用できるように、ハンドボールの授業の間に体育理論を配置する学習計画を立てたが、体育理論の学習内容は授業で活用される内容もあるが、授業以外の場面で、生涯にわたり活用されていく内容もあるため、すぐに検証できるものばかりではない。

さらに、生徒の発達段階に合わせた学習の時期や題材の設定も必要となる。各学年の体育理論の実施時期については次のように考える。

各学年の体育理論の実施時期については、今回のように実技の単元と組み合わせて学習する方法や、3時間を連続して1つの単元として学習する方法、体育学習を行う前に計画したり、体育学習を行ってから総括として計画したりする方法なども考えられる。

いずれも各学校や生徒の実態に合わせた実施方法を考えていく必要があり、体育理論領域全体の学習内容を把握したうえで、配置していく必要があるであろう。

3学年にわたり授業を実施して、体育理論で得た知識の習得は、その先の運動やスポーツにかかわる力の源となり得ることを実感した。

3 最後に

今までは毎日の忙しさに追われ、授業の準備は最後に回されることが多かった。日々の授業は自分の今持っている知識で、授業を組み立て実践してきた。

研究というと、実践したことをまとめていくことが研究だと思っていた私にとっては、理論を構築し、構想図を考え、それに沿った授業を作り上げ、考察を行うという作業はとても大変なものであった。

しかし、今回このような機会を与えていただき、教科を中心に深く考え、様々な文献を読む中で、改めて授業研究の重要性を認識することができた。また、学習指導要領が変わるこの時期に現場を離れて1年間研修できたことは、私にとって今後大きな財産となる。

研究では、体育理論という新しい領域への挑戦を行ったが、研究を進める上でまだまだ手探りの状態が現状である。しかし、実践を通して体育理論の重要性を大きく感じる事ができた。手探りで進めてきた体育理論の研究ではあるが、これからも教師として、運動やスポーツに対する様々な情報や知識を集め、活用していくことが重要だと感じる。

これからも生徒が楽しく、豊かなスポーツライフを送ることができるように引き続き、授業実践に取り組んでいきたい。

[引用・参考文献]

- 1) 文部科学省中学校学習指導要領解説 保健体育編 東山書房 2008年9月
- 2) 島崎 仁『新しい体育授業の展開 中学校編』大修館書店 1990年
- 3) 岡崎助一『中学校体育実践指導全集』 日本教育図書センター1992年
- 4) 友添秀則『体育科教育』「なぜ体育に「知」の学習が必要なのか」大修館書店 2009年8月
- 5) 中塚義実『(新訂) 体育科教育法講義』「体育理論の意義」大修館書店 2002年
- 6) 長見 真「生涯スポーツを志向する「運動目的論」の成熟に向けて」『体育科教育』 2009年6月号
- 7) 友添秀則「子どもの体力向上指導者養成研修資料」2010年
- 8) 岡崎勝博「体育理論の教材づくり・授業づくり」『新版 体育科教育学入門』大修館書店 2010年
- 9) 高橋建夫・岡出美則・友添秀則・岩田靖 「体育理論の題材設定と発問づくり」『新版 体育科教育学入門』 大修館書店 2010年
- 10) 県立体育センター「保健学習ハンドブック」平成17年
- 11) 山本俊彦「体育に関する知識の学習指導の工夫」 『中学校体育実践指導全集』日本教育図書センター1992年
- 12) 宇土正彦「学習形態」『学校体育授業事典』大修館書店
- 13) 廣瀬隆人 澤田 実 林 義樹 小野三津子「生涯学習支援のためのワークショップ参加型学習のすすめ方「参加」から「参画」へ」 ぎょうせい 2005年